

岡山県学校図書館研究集録

第 6 2 号

令和 7 年

— 2 0 2 5 —

岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部
岡山県中学校教育研究会学校図書館部会
岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会
岡山県学校図書館協議会

発刊によせて

岡山県学校図書館協議会

会長 森田 保志

各学校におかれましては、学校図書館の魅力増進や児童・生徒の読書活動の推進等に御尽力いただくとともに、本協議会への御支援・御協力を賜り心から感謝申し上げます。

今年度は、本協議会最大の行事（隔年）「第56回岡山県学校図書館研究大会(美作大会)」を勝央町で開催しました。教員数の減少や働き方改革など現代的な課題に対応するため、分科会・講演会に注力しながらも半日開催としました。隔年で開催される「第34回中国地区学校図書館研究大会(鳥取大会)」でも運営のスリム化、ペーパーレス化を図るなど持続可能な大会運営の工夫が見られました。2年後の次期開催県となる本県でも、行事の焦点化を一層図る方向で準備を始めています。一方では岡山県立図書館と共催で研修(ビブリオバトル)を実施したり、今後の連携について懇談するなど新たな試みも始まっています。

そして、今年も多くの子供・生徒の応募を得て、「第71回岡山県読書感想文コンクール」を実施することができました。この中から青少年読書感想文全国コンクールにも出品し、今年度も入賞者を出すことができました。

この度、その活動記録として、「岡山県学校図書館集録62号」を発刊する運びとなりました。より多くの方に読んでいただけるよう、平成27年からはホームページに掲載し、公開しています。

さて、昨今は生成AIが急速に進化・普及するなど情報化が進展には目を見張るものがあります。生成AIの成果物はその根拠を示さないからこそ、真実を見極め、自らの知見へと昇華させる力、すなわち「情報リテラシー」や「批判的思考力」はこれまで以上に求められます。また、学校では一人一台端末は平常のものとなり、学びの姿は大きく変わりました。特に「総合的な学習(探究)の時間」をはじめとする探究活動において、学校図書館は「情報の宝庫」というだけでなく、多様なメディアを活用して問いを解決する「ラーニング・コモンズ」へと進化を遂げています。

このような時代だからこそ、紙の書籍が持つ「体系的な知識」とデジタルが持つ「速報性と網羅性」にハイブリッドでアクセスできる「知の拠点」としての学校図書館の役割はますます重要になってきています。

本協議会では、これまでも「岡山県の子どもたちの豊かな読書環境づくり」を掲げ、学校図書館の環境整備、司書教諭や学校司書の専門性向上、公共図書館との連携強化に取り組んでまいりました。引き続き、皆様の御支援・御協力のもと学校図書館の充実に取り組んでまいります。

最後になりましたが、この研究集録を発刊するにあたり、多大な御尽力・御協力をいただきました関係の皆様には厚くお礼申し上げます、巻頭の御挨拶といたします。

目 次

発刊によせて

第56回岡山県学校図書館研究大会（勝央大会）…………… 1-1-1～

令和7年度岡山県学校司書研修会（美作大会）…………… 1-2-1～

第71回青少年読書感想文岡山県コンクール…………… 2-1～

優良図書研究部会…………… 3-1～

指定図書選定委員会…………… 4-1

司書部会…………… 5-1～

その他

- 1 令和7年度 岡山県学校図書館協議会 事業報告…………… 6-1
- 2 令和7年度 岡山県学校図書館協議会 支部協議会事業報告…………… 6-2-1～
- 3 岡山県学校図書館協議会組織図…………… 6-3
- 4 岡山県学校図書館協議会規約…………… 6-4-1～
- 5 岡山県学校図書館協議会司書部会会則…………… 6-5
- 6 岡山県学校図書館協議会75年の歩み（略年表）…………… 6-6-1～

第56回

岡山県学校図書館研究大会

勝央大会

大会テーマ

豊かな心と主体的に学ぶ力を育てる学校図書館



令和7年8月19日（火）

勝央文化ホール

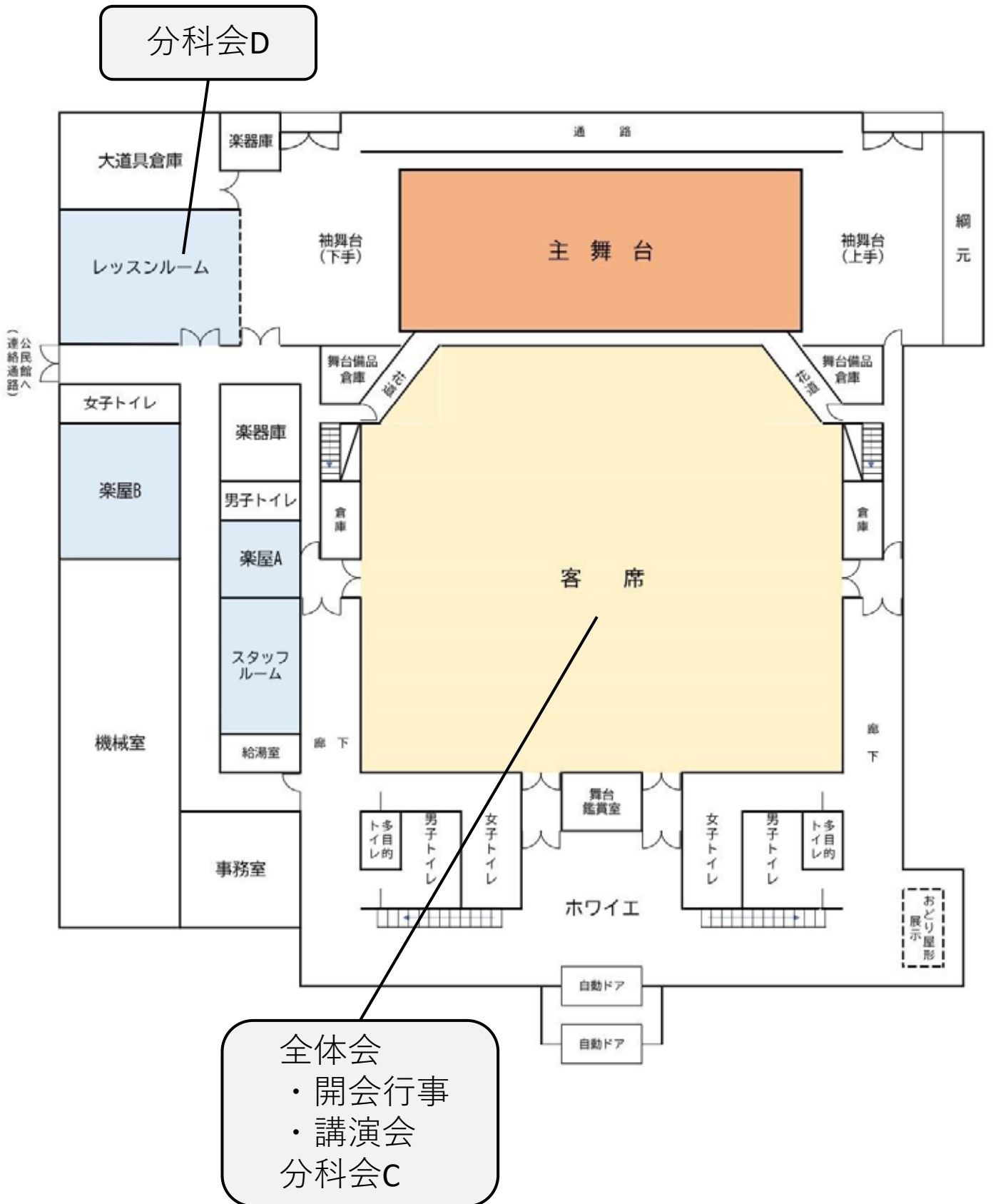
勝央町公民館

岡山県学校図書館協議会

目 次

会場案内	1
ごあいさつ	3
開催要項	4
講 演	5
分科会一覧	6
分科会発表要項	
【分科会 A】	7
【分科会 B】	13
【分科会 C】	19
【分科会 D】	25
大会役員一覧	29

勝央文化ホール



勝央町公民館平面図

2階



1階



ごあいさつ

岡山県学校図書館協議会

会長 森田 保志

第56回岡山県学校図書館研究大会・勝央大会の開催にあたり、御参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。とりわけ本大会の準備から運営まで多大な御尽力をいただいた岡山県学校図書館協議会美作支部・実行委員会の皆様に厚くお礼申し上げます。

岡山県学校図書館協議会は、県内の小学校・中学校・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実・発展をはかり、本県教育の推進に寄与することを目的として、戦後間もない昭和25年に発足しています。平成12年以降は研究大会を隔年開催とし、新型コロナ禍においては誌面開催とするなど、その時々で工夫しながら先人たちの思いを第56回まで繋いできました。令和7年度の勝央大会にお集まりいた皆様が、知識や経験を共有し、互いに刺激を受けながら、より良い学校図書館づくりに向けて共に歩んでいけることを心から期待しています。

本大会では、「豊かな心と主体的に学ぶ力を育てる学校図書館」を大会テーマに掲げました。新型コロナ禍を経て1人1台端末が一般化し、ICT環境は急速に向上しました。多様な情報に簡単にアクセスできるようになり、様々なアプリを通じて距離を超えたコミュニケーションも容易になりました。その一方で、過度な依存によるストレスや不安、フィルターバブルによる思考の硬直化なども懸念されています。また、昨今の生成AIの著しい進歩は、生成物の良否を判断するため、かえって知識の概念習得や深い意味理解まで求めるといった状況を生じています。

このような状況にあって、学校図書館の果たす役割はますます重要になってきています。子どもたちが自ら必要な情報を見つけ出し、深い意味理解をもって活用し、新しい知識を生み出していく「主体的な学び」を支援すること、「情報リテラシー」を育成していくこと、何より本と出会い、様々な感情を受け入れ、他者を理解し、世界を広げていく「体験としての読書」を推進することなど学校図書館は「令和の日本型教育」に欠かせない存在となっています。

本大会では、まずノートルダム清心女子大学 人間生活学部児童学科 教授 湯澤 美紀先生から御講演いただきます。先生は、幼児教育や発達心理学の観点から絵本や読み聞かせが子どもたちの豊かな心に与える影響を多面的に研究されておられます。続く分科会では、「学校図書館」「豊かな心」「主体的に学ぶ力」「特別な教育的ニーズ」をキーワードに4つの分科会でそれぞれ実践発表をいただきます。本日御参加の皆様には御発表から多くの知見を持ち帰られますとともに、活発な意見交換と情報共有をお願いしたいと思います。そのことが、それぞれの学校での学校図書館の更なる充実と子どもたちの成長に繋がるものと確信しています。

最後になりましたが、本日お越しの御来賓、指導助言くださる先生方に感謝申し上げますとともに、本大会が皆様にとりまして、実り多いものとなりますことを祈念いたしまして、巻頭の御挨拶とさせていただきます。

開催要項

- 1 期 日 令和7年8月19日(火)
- 2 会 場 勝央文化ホール・勝央町公民館
- 3 主 催 岡山県学校図書館協議会
- 4 共 催 岡山県小学校教育研究会 岡山県中学校教育研究会 岡山県高等学校教育研究会
岡山県学校図書館協議会美作支部
- 5 後 援 岡山県教育委員会 勝央町教育委員会 岡山県市町村教育委員会連絡協議会
岡山県読書推進運動協議会 (公社)全国学校図書館協議会
- 6 大会テーマ 「豊かな心と主体的に学ぶ力を育てる学校図書館」

7 趣 旨

今日、我が国の社会は、IT の飛躍的進化やグローバル化の進展等により、社会や経済の構造が日々大きく変化しています。そして、学校が解決しなければならない課題は山積し、予測困難な時代を生き抜く力の育成が教育の場に求められています。

大きな変化の時代を迎えていますが、子どもたちに有益な図書や学校図書館の存在が、児童・生徒の心を育むこと、主体的な学びを支えることに大きく貢献すること、すなわち、子どもたちが生きる力を身につけて未来を切り拓いていくうえで重要な役割を占めていることは、今までもこれからも変わりはありません。また、令和4年度から令和8年度を対象期間とする第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」が策定され、主体的・対話的で深い学びの実践の場として、学校図書館が期待されています。

本大会では、こうした学校図書館がもつ役割や使命を再確認し、児童・生徒の豊かな感性や情操を育む学校図書館の在り方、自ら課題を見つけ、主体的に探究し、学びを深めていく「主体的・対話的で深い学び」を支える学校図書館の在り方等について、4つの分科会で発表される研究発表を通して研修を深め、学校図書館のさらなる充実をめざしていきたいと思えます。

8 日 程

12:30 13:00 13:20 14:50 15:10 16:40

受付	開会行事	講演会	移動	分科会
----	------	-----	----	-----

9 講 演

演 題 『子どもが本を「聴く」「読む」「語る」ことの意味を問い直す』

講 師 ノートルダム清心女子大学 人間生活学部児童学科 教授 湯澤 美紀 氏

講演

演題 『子どもが本を「聴く」「読む」「語る」ことの意味を問い直す』

講師 ノートルダム清心女子大学 人間生活学部児童学科 教授 湯澤 美紀 先生

第56回岡山県学校図書館研究大会 勝央大会 分科会一覧

分科会	A	B	C	D
テーマ	「学校図書館の運営・連携」	「豊かな心を育み、読書の楽しさを味わわせる学校図書館」	「主体的に学ぶ力を育てる学校図書館」	「特別な教育的ニーズのある児童生徒を支える学校図書館」
小学校	<p>【発表題】 つながりを大切にした図書館教育 ～学校統合に向けた授業・環境づくり～</p> <p>【発表者】 吉備中央町立加賀南小学校 講師 山崎真理子</p>	<p>【発表題】 楽しい読書のために、図書と機会を提供する</p> <p>【発表者】 津山市立高田小学校 教諭 谷本健太郎</p>	<p>【発表題】 学校図書館活用で、今までの学びを生かしたくなる授業づくり ～もっと!読みたい,伝えたい～</p> <p>【発表者】 岡山市立三勲小学校 教諭 高井 里紗 教諭 中山 晶葉 学校司書 三宅 真紀</p>	<p>【発表題】 子どもの実態に即した読書活動 ～授業実践および心の居場所になる学校図書館について～</p> <p>【発表者】 倉敷市立岡田小学校 教諭 久田 由貴 学校司書 山田 倫子 主幹教諭 岡本 博子</p>
中学校	<p>【発表題】 委員会活動,授業での地域の図書館・書店と連携した読書推進の取組</p> <p>【発表者】 総社市立総社西中学校 教諭 太田 拓志</p>	<p>【発表題】 美勝英支部8中学校の現状と取組 ～豊かな心を育み,読書の楽しさを味わわせるための図書館との連携～</p> <p>【発表者】 美作市立美作中学校 教諭 畑 絢二郎</p>	<p>【発表題】 ICT時代の学習センターとしての学校図書館</p> <p>【発表者】 瀬戸内市立長船中学校 教諭 直原 絵美</p>	<p>【発表題】 学校図書館を活用したインクルーシブ教育の実践</p> <p>【発表者】 岡山市立操山中学校 教諭 酒見 紗世 学校司書 鶴身 知子</p>
高等学校	<p>【発表題】 岡山の高校図書館がつながる! でーれーBOOKSのこれまでとこれから</p> <p>【発表者】 岡山県立水島工業高等学校 司書 中村 恵</p>	<p>【発表題】 心地よい居場所としての図書館作り ～図書委員会・国語科の取組～</p> <p>【発表者】 岡山県立東岡山工業高等学校 教諭 石山奈都子 司書 小橋 暁子</p>	<p>【発表題】 学ぶ力を引き出す学校図書館を目指して ～ことばの力を培う授業と図書委員会の取組～</p> <p>【発表者】 岡山県立笠岡高等学校 教諭 小原 千明</p>	/
助指 言者 導	岡山県立総社南高等学校 校長 辻田 詔子	倉敷市立真備陵南高等学校 校長 細川 欣洋	岡山県立岡山大安寺 中等教育学校 校長 三村 美紀	岡山県教育庁高校教育課 指導主事 大塚 崇史
司 会 者	真庭市立北房小学校 教諭 安田 京幸	勝央町立勝間田小学校 教諭 横野 杜博	美咲町立美咲中央小学校 指導教諭 田原 理江	津山市立北陵中学校 教諭 神本 優月
記 録 者	真庭市立富原小学校 教諭 安東 菜津美	美作市立美作北小学校 教諭 安井 千尋	美咲町立柵原学園 講師 田村 明美	津山市立勝加茂小学校 教諭 石倉 明莉
責 運 任 者 営	真庭市立久世中学校 教諭 森里 文明	美作市立大原中学校 教諭 矢内 亮	鏡野町立奥津小学校 教諭 日下 直子	津山市立鶴山小学校 教諭 安藤 優佳

つながりを大切にした図書館教育 ～学校統合に向けた授業・環境づくり～

吉備中央町立加賀南小学校 講師 山崎 真理子

1 はじめに

本校は、令和7年4月の学校統合により開校した児童数178名の小学校である。本校のある吉備中央町では、町内9校の小学校が3校ずつ統合し、加賀東・加賀西・加賀南小となった。昨年度まで、統合に向けていろいろな準備が行われる中、新3校の児童が、読書から遠ざかることなく、読書活動が円滑に進むことができるように、どのような取組ができるかを考え実践を進めてきた。ここでは、加賀南小学校に統合となった大和小学校での実践を紹介する。

2 具体的な取組

(1) 環境整備 ～本と本をつなぐ～

統合前の町内の小学校9校・中学校1校には、学校司書が4名配置されていた。1校に週1日の勤務が基本であった。統合後、スムーズに読書活動を継続していくことができるように、学校司書が中心となり、令和4年度から計画的に次のような準備を進めてきた。

① 統合3校の図書ラベルの書き方を統一

令和4年度から、新刊本の図書ラベルの色や書き方を統一し、児童が、統合後も図書の分類が分かりやすくなるようにした。

② 移管する図書の選書、廃棄

令和5年度の夏休み期間を使って、学校司書が各校を一緒に回り、統合先に移管する図書を決定していった。(移管先の学校ごとに決めた色のカラーシールを本の背に貼っていく作業)

令和6年度からは、学習用図書など新しく購入する図書は、統合校3校で相談して購入していった。統合先の小学校では、古い図書の廃棄や本棚の整理を進め、他2校から移管される図書を使いやすく配架できるようにしていった。

③ システム導入の準備

統合前には、町内のほとんどの小学校には、まだ図書館管理システムが導入されていなかったが、この統合を機に「図書館ナノ」システムの導入が決まり、その準備を進めていった。統合と同時にシステム化できるように、令和5年度から、各校で新システムに本を登録したり、バーコードシールを貼ったりするなど登録作業を行った。

④ 年間計画

各校の図書館教育担当者と学校司書が相談し、統合後の図書館利用の仕方について共通理解をした。令和6年度中に、令和7年度の図書館利用年間計画も作成した。



(2) 3校をつなぐ取組 ～児童と児童をつなぐ～

図書を媒介として、3校の児童がともに学ぶ機会を設けた。



① 3校合同授業

統合前には、3校の児童が集まって、合同の授業を行っていった。その中で、3年生の合同授業で国語科「図書館たんていだん」を行った。

3校の児童を7人ずつのグループに分け、「友だちに、お気に入りの本をしょうかいしよう」というめあてを立てて授業をした。グループの友達に本を紹介する際、各学校の国語で学んだ分類番号も合わせて発表した。その過程で、「同じ番号の本だ!」「同じ本なのに、分類番号が違う本があるよ!？」というつぶやきや感想が聞かれ、分類番号への理解

が深まった。また、同じ本やシリーズを選んでいる友達に親近感がわいたり、知らなかった本に興味をもったりする姿も見られた。

② リモート図書委員会

統合3校には、どの学校にも委員会活動として「図書委員会」があり、4～6年生の児童が参加していた。そこで、統合する3校の「図書委員会」をリモートでつないで開催し、互いの学校の図書委員の自己紹介や取り組みについて紹介し合った。読書週間が近い時期に行ったので、「他の学校の取組を、ぜひ自分の学校でもやってみよう。」「他の学校の図書委員もがんばっているな。」という振り返りの言葉が聞かれた。統合後の図書委員会の活動計画の参考となるとともに、同じような仕事をがんばっている仲間意識が感じられた。



(3) 統合後につながる読書活動 ～本と児童と地域をつなぐ～

① 読書貯金

春の子ども読書の日と秋の読書週間に図書委員会を中心となって、全校で読んだ本の1ページを1円として通帳に記録する「読書貯金」の取組を行った。約1か月の取組後、「個人の部ベスト10」と「学級の部ベスト3」を発表した。中間発表からさらに意欲が高まり、平均千円（1000ページ）を超える学級も多かった。秋の取組では、さらに多くの児童を巻き込むことができるように、本の種類やくじ引きでボーナスポイントを設け、楽しみながら読書貯金が進められるようにした。



② ファミリー読書週間

春のゴールデンウィークと秋の読書週間に、全校児童と保護者も巻き込んだ「ファミリー読書」に取り組んだ。学校が、子どもの読書活動を積極的にすすめていることに賛同して

くださる家庭も多く、家族で楽しく読書に取り組んだ感想がたくさん寄せられた。家族から児童へ、児童から家族へ読み聞かせをしたり、同じ時間にそれぞれの本を読んだり、町内の図書館へ出かけたりするなどの活動から、各家庭で好きな活動を選んで取り組んだ。活動後には、「お母さんに読み聞かせをしてもらったのは、ひさびさで、楽しいなと思いました。（児童）」や、「みんなで、静かに本を読む時間もいいものだと思います。（保護者）」などの感想が寄せられた。

③ 出前図書館

町立図書館と連携し、参観日の下校時刻に図書館の本を借りることができる「出前図書館」を開設した。多くの家族の利用があり、盛況であった。学校の図書室にはない本を興味深く選ぶ児童や、家の人と、どれにしようかと楽しそうに選ぶ親子の姿が多く見られた。同じ時期に、「ファミリー読書」週間も計画したことで、出前図書館で選んだ本を家庭で、一緒に読んだ感想も多く見られた。



3 成果と課題

令和7年度のスタート時には、3校から集められた図書を図書館に配架することができた。各教科で使われる資料も充実し、スムーズに4月からの図書館活動が始められている。たくさん本に喜ぶ児童の様子も見られた。

また、図書委員会にも希望者が多く、委員会活動にやる気をもって取り組んでいる。リモートで話題に上がった読書活動も提案され、新しい学校に合わせた計画が進んでいる。

4 おわりに

閉校・統合と児童にとって期待と同時に不安も多い中、読書活動がスムーズに移行し、図書室が児童の学習を支え、わくわくする場所となるよう、学校司書をはじめたくさんの人の関わりで進めることができた。今後もこのよい流れをつないでいくことができるよう、学校全体で取り組みを続けていきたい。

委員会活動，授業での地域の図書館・書店と連携した読書活動の取組

総社市立総社西中学校 教諭 太田 拓志

1 はじめに

本校は，総社市内を南北に流れる高梁川東岸沿いに位置し，市中心部にある中学校である。

生徒数は，777名，第1学年7クラス，第2学年8クラス，第3学年7クラス，特別支援学級4クラスの合計26クラスで，落ち着いた学校生活を送っている。本校では，「お互いを尊重し，自ら考え，判断し，行動できる生徒の育成～人・物・時間を大切に～」を学校目標に掲げ，生徒会活動や部活動に熱心に取り組んでいる。

図書館は，全校生徒が比較的利用しやすい1階にあるが，生徒数に対して図書館が狭くせつかくの蔵書も手に取りやすいとは言えない状況である。司書は，専任で配置されており，授業や通常の利用，委員会活動にも関わっている。

季節や行事，タイムリーな話題に沿った本の別置には，生徒も注目するので，頻繁に行うように心がけている。そこから興味・関心を知ることができるので，さらに選書にも繋がり，利用の増加に結び付いている。

学校では，始業前の10分間「朝読」の時間を設定し，本を読む習慣づけを図っている。すぐ手に取りやすいように，各クラスに常時本を置き，定期的な入れ替えや管理を図書委員会が中心となって行っている。

開館時間は，午前8時55分～午後4時30分。貸出・返却が可能な時間は，昼休み，放課後。貸出冊数は3冊，貸出期間は2週間となっている。

2 本校の取組

(1) 図書委員会の活動

図書の整頓，図書だよりの発行，昼休みと

放課後のカウンター当番，学級文庫の管理，読書月間のイベント企画・運営を行っている。

前期図書委員は，7月に学級文庫の購入に携わる。事前にクラスでアンケートを取り，それに基づき，直接地元の書店で本を購入する。予算が決まっているので，電卓を片手にクラスの希望とすり合わせながら，選書する様子は真剣そのものだ。



また，読書週間には，朝読の時間を利用して，全校一斉読書（タブレット使用），人権週間には，人権に関する絵本の読み聞かせを実施。ほかにも図書委員会考案のSBG（クラス対抗しりとりブックゲーム）や本の福袋の開催など，時機に応じた取り組みを工夫して行っている。



今年度から総社市内の中学校は，部活動の朝練習がなくなり，本校の生徒は，朝8時以

降の登校となった。昼休み、放課後の利用が少なかったため、この機会に朝の開館（月・水・金の8:05～8:20）を始めている。滑り出しは好調で、朝読の本を借りに来たり、登校後教室に行く前にゆったりと過ごす時間に利用したりするなど、様々な図書館利用が始まっている。朝の開館を始めてから、約100人の利用があり、昼休み、放課後の利用にも繋がっている。

(2) 授業での地域図書館との連携

総社市では、図書館検索サイト「カーリル」で市内の図書館、小中学校の蔵書が検索可能である。なるべく生徒からのリクエストに応えたいが、予算の都合上、購入が難しい本は、相互貸借を利用している。また、授業で複数冊本が必要な時、収集するのにも便利である。

(3) 授業実践

1年国語（光村図書）

「大人になれなかった弟たちに・・・」

米倉 齊加年

【目標】 関連する本などを読み、自分の考えを広げる。描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉える。（5時間扱い）

本教材を学習した後、関連する本などを読み、戦争や平和について自分の考えを書かせる授業を行った。

学習計画のついた振り返りシートで見通しを持たせ、本教材の学習に入った。「大人になれなかった弟たちに・・・」を読んでいく中で、登場人物の心情を読み取り、作者の伝えなかった思いを自分の言葉でまとめさせた。その後、関連する本を読み、「大人になれなかった弟たちに・・・」の内容と比べ、共通していること、相違していることを見つけ、戦争や平和について自分が考えたことをまとめさせた。自分がまとめたものを友達と交流し、自分の読んでいない本の内容を紹介してもらったり、友達の考えを聞いたりした。

関連する本は、学校司書の力を借り、絵本を中心になるべく文字数の少ないものを選書してもらった（1クラス33人に対して16冊

程度）。人数分は難しかったが、協同学習班にして、2人で1冊を一緒に読んでいる生徒もいた。

年間を通して、漢和辞書、国語辞書、本のPOP作り（優秀作品を校内掲示、学校図書館掲示）、古典学習で活用する資料など、授業に必要なものを準備してもらい、学校図書館を活用している。タブレットで足りることが増えたが、資料を取捨選択し、授業準備に協力・連携できていることが学校図書館の活発な利用につながると思われる。



(生徒のワークシート)

3 おわりに

授業でタブレットを活用するようになり、紙媒体のものを準備しなくても生徒は個人個人で資料等を活用できるようになってきている。しかし、ネット上には、数限りなく資料があふれており、それを取捨選択することに時間と労力が必要になる。限られた授業時間の中で、効率よく生徒に活動する時間を確保するためには、資料をある程度こちらで選択した上で生徒に示すことも必要であると感じる。

授業に関連する本、資料の準備を学校司書と連携し、確かな情報と深い学びを生徒に提案するためにも、学校図書館の役割は大きいものと考えられる。

岡山の高校図書館がつながる！ でーれーBOOKS のこれまでとこれから

岡山県立水島工業高等学校 司書 中村 恵

1 でーれーBOOKS の紹介

(1) 「でーれーBOOKS」とは

「岡山の高校図書館プレゼンツ でーれーBOOKS」は、2013 年度にスタートした岡山の高校司書によるおすすめ本コンテストである。高校生が読書を楽しみ感じられる本、読書が役に立つと感じられる本を推薦することを目的としており、小説以外の本を選考対象に毎年開催している。

でーれーBOOKS の選考には岡山県内の高校司書（高校図書館業務従事者）であれば、校種、雇用形態や専任・兼任等の勤務形態に関わらず参加することができる。選考はエントリー、1次投票（ノミネート作品決定）、2次投票（受賞作品決定）の順に Google フォームを利用して行われ、毎年2月に受賞作品が発表される。

高校生によい本との出会いを届けたいという思いから始まったでーれーBOOKS であるが、県下の高校図書館が協力してコンテストを運営することで、岡山の高校図書館全体を盛り上げていくきっかけとなったり、選考に関わることで高校司書のスキルアップにつながったりといった効果も期待されている。

(2) 「でーれーBOOKS 2025」について

12回目となる「でーれーBOOKS 2025」では、『イタリア女子が沼ったジワる日本語』（テシ・リッソーリ／著）が大賞を受賞した。本書は、イタリア人である著者が日本各地を旅しながら拾い集めた「ジワる日本語」をまとめた一冊である。外国人の視点から日本の言葉や文化の面白さに気づかせてくれるだけでなく、好奇心旺盛で行動力のある著者の姿も魅力的である。

2 でーれーBOOKS の運営について

でーれーBOOKS は、岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会の下部組織である岡山県高等学校図書館ネットワーク研究委員会が企画・運営している。

ネットワーク研究委員会は、県下の高校の生徒が情報格差を受けることなく学べる環境を得られるよう、学校図書館の新しい連携の在り方を研究することを目的に設置された委員会である。

でーれーBOOKS 運営の実務的な作業は、委員会内の読書推進班である3名で行っている。具体的には、エントリーや投票に使う Google フォームの作成・管理、エントリー本がルールに沿って投稿されているかのチェック、学校図書館部会のウェブサイトの情報更新などであり、コンテスト終盤には、ポスターやチラシ作成のためのデザイン依頼、印刷発注、掲載する本の著作権の許諾や大賞受賞本の作者からコメントをもらうなど、出版社とのやりとりも行っている。

3 でーれーBOOKS のこれまでとこれから

(1) でーれーBOOKS のこれまで

でーれーBOOKS は、2004年に始まった本屋大賞とそれに続けて他県で始まった学校図書館独自のコンテスト設立の動きに影響を受け、2013年度に始動した。2014年2月に受賞作が発表されたことから、初回は「でーれーBOOKS2014」となっている。

初回の「でーれーBOOK 2014」は小説部門と一般書部門の2部門制であったが、第2回の「でーれーBOOKS 2015」以降は小説部門を廃止し、小説以外の作品のみを対象として選考を行っている。これは、普段手に取ることの少ない小説以外の本にスポットを当てることで、幅広い読書へのきっかけづくりとなつてほしいという意見を反映させたものである。

その他にも、毎年コンテスト後に実施するアンケートで寄せられた意見をもとに検討を行い、ルール等の変更や運営方法の改善を重ねてきた。主な変更点は以下のとおりである。

【第7回（でーれーBOOKS 2020）～】

- ・コミックエッセイを含む漫画を対象外に
- ・ノミネート本を10冊から5冊に変更
- ・2次投票はノミネート本を全て読んで投票
- ・参加条件の見直し（司書教諭や図書課に相当する分掌の教員は対象外に）

【第8回（でーれーBOOKS 2021）～】

- ・フォームによる投票を開始
- ・ポスター等のデザインを県内デザイン科の高校生に依頼
- ・ポスター印刷を外注

このように参加者の意見を取り入れていく中で、コンテストの質を高めつつ、参加のしやすさ、運営側の負担軽減、広報力の強化などを図ってきた。

（2）10周年記念事業

企画開始から10周年を迎えたことを記念し、2023年度には記念事業として図書委員交流会を開催した。県内14校から32名の図書委員が参加し、過去のでーれーBOOKS大賞本を読んで意見を交わし、読書ボードを作成しながら交流を深めた。生徒からは「同じ本を読んだ人と話すことの楽しさを感じた」「本の内容から会話がどんどん広がって楽しかった」などの感想があり、でーれーBOOKSの活動が高校生に読書の楽しさを伝える一助となれていると感じることができた。

また、図書委員交流会の様子や過去10年分のノミネート作品などをまとめた10周年記念リーフレットの発行、スタンプラリーカードの作成、岡山文芸フェスティバルへの参加などの事業を行った。

（3）成果・課題と今後に向けて

でーれーBOOKSの活動は高校生に本を紹介するというだけでなく、高校司書の抱える悩みにも寄り添ってきた。経験の浅い司書や事務等との兼務のために図書館業務に避ける時間が少ない司書にとって、他の司書が選ぶおすすめ本は選書の参考になり、自校の生徒に自信を持って薦めることができる。また、各校に配布されるポスターやチラシ、ウェブ

サイトからダウンロードできるロゴやキャラクターの素材は各校での展示コーナー作りにも活用されている。

ポスターとチラシは県内の公共図書館や書店にも配布している。例年、いくつもの図書館や書店ででーれーBOOKSの特集を組んでくださっており、高校図書館の活動を広く知っていただく機会にもなっている。

このように、でーれーBOOKSの活動を通じて培ってきた高校図書館同士の連携や一体感、公共図書館や書店等との繋がりは何よりの成果であるといえるだろう。

一方で課題となっているのは参加率の向上である。これまでもより多くの司書が気軽に参加できるように柔軟なルール変更等を行ってきた。しかし、忙しい業務の中、コンテストに参加することが負担となる司書も多いことから、より多くの司書が参加できるようこれからも参加者目線に立った工夫を続けていく必要がある。

今後でもでーれーBOOKSの活動の意義を共有しつつ、参加者の意見を柔軟に取り入れていくことで、より参加しやすい仕組みづくりを目指すとともに、よりよい本を届けることのできる質の高いコンテスト運営に取り組んでいきたい。また同時に、でーれーBOOKSを多くの人に知ってもらえるよう、内外に向けより積極的な広報活動を行っていくことも必要である。

私たち高校司書は本の専門家であり、高校生の読書活動の最も身近な支援者である。これからもでーれーBOOKSの活動を通じ、高校生により本との出会いを届けていくとともに、本を読むことの楽しさ、素晴らしさを伝え続けていきたいと考えている。



〈岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会ウェブサイト〉

<https://okayama-hslibrary.com/>

楽しい読書のために、図書と機会を提供する

津山市立高田小学校 教諭 谷本健太朗

1 はじめに

本校は、全校児童 92 名の学校である。読書の好き嫌いについて尋ねたら、「好き」に分類される回答をしている児童は 50 名いた。8 名の児童は「嫌い」の分類に回答している。残りの児童は「普通」と回答している。より多くの児童が読書の魅力に気づけるよう、高田小の取り組みと、加えてそれを支える市の体制を紹介する。

2 具体的な取り組み

(1) 高田小学校

① おすすめ 200 選

小学校生活 6 年間で 200 冊を読むチャレンジ企画。各学年に、その学年に応じた 20 冊から 50 冊のおすすめ図書を配当。主に物語の本を並べている。

児童は、学級生活のすきま時間や朝読書の時間を利用しそれらを読んでいる。また、本に親しませる際には、その棚から優先的に選び、担任が読み聞かせをすることもある。「モチモチの木」「ごんぎつね」など国語科で扱うものも用意されている。

学年が上がれば文字数も増えてくる。だからこそ、児童が歳相応の文字数を読むことに挑戦することにもなる。

各教室で 30 冊くらいの本を共有するので、同じ本を読んだ子どもたち同士で、話を共有することができる展開も魅力の一つである。

全部読んだ児童には、校長から表彰状を渡している。

② 光文庫

地域の岸本光麿氏が、善意で毎年たくさんの本を高田小学校に寄贈してくださっている。

岸本氏の名から「光文庫」という名の本棚を作成し利用している。児童には、子どもたちの心の成長や学力の向上のために、図書が非常に有効であるという岸本光麿氏の思いと感謝の意を伝えている。

長年の経験を積まれ、その中で地域の発展に尽くされてこられた、岸本氏の読書を重要視する心を受けとめてもらいたい。

③ みつばち文庫

(株)山田養蜂場の方針「次世代を担う子どもたちに『豊かな心』をはぐくんでもらいたい…(以下略)」(山田養蜂場HPより引用)による、全国の子どもたちに無償で図書を提供してくださる企画がある。保護者の中から力をお貸しくださる声もあり、大変助かっている。毎年応募し図書の充実を図っている。

④ 廊下や貸し出しカウンターの掲示

図書室前の掲示板や貸し出しカウンターの近くでは展示を行い、図書室や全国の図書事情に気軽に触れられるようにしている。

新着図書、SDGs や LGBTQ などをテーマにした図書、季節を感じられる図書などをジャンルごとに整理している。



⑤ 図書だよりの発行

月に 1 度図書だよりを発行し、普段図書室に行く児童だけでなく、あまり行かない児童や家庭にも情報を発信している。すでに述べたことに加え、図書室の利用の様子も伝え、誰もが図書室のよき利用者となるような指導

を教室や家庭に呼びかけている。夏休み前には、読書感想文の書き方等も伝え、取り組みやすくしている。

日本紙幣の改訂に伴い、9月には「渋沢栄一」に関わる図書を紹介したりクイズを出したりした。国内外の情勢に目を向けたり好奇心をくすぐったりするような記載があるのも魅力的である。

(2) 津山市の取り組み

① ぶっくまる

津山市の小学校には、月に1回程度、津山市立図書館から自動車図書「ぶっくまる」が来校する。

学校では用意できない本がたくさん来る。昼休みの20分間利用できる。給食時間に自動車がやって来て準備を始めるが、窓からその様子を見た子どもたちは大喜びである。

② 津山市立図書館からの取り寄せ

国語、社会、総合的な学習の時間を中心とした調べ学習の時は、たくさんの図書が必要となる。

図書整理員と連携をとり、校内の図書に加え、市の図書館に貸し出しの手続きをさせていただく。

数日すればたくさんの図書が届く。貸し出し期間は1か月程度と、一単元の学習としては十分な期間借りることができる。

③ 市内の学校で方針を共有

読書の在り方や図書室の利用の理想は人によって違う。

文字を読むことを重要視し、図鑑など絵を中心としている図書の貸し出しに制限をかける図書室もあるし、本への興味を持つことに重きを置き制限のない図書室もある。本を囲んだ子ども同士の関わりを大切にしている図書室もあれば、一人の世界で楽しむ雰囲気を作っている図書室もある。

優劣はないし、その場のルールに従うことがマナーでもある。各図書室の方針ではあるが、その意図などを交流し、よりよい読書の在り方を検討している。

(3) 授業で読書時間を確保

① 授業で図書の時間を配当

1～4年生は週に1回、図書室で読書をする時間を設けている。高学年は、月に2～3

回の確保を目標としている。

② 朝読書

毎週金曜日に15分間実施。

③ ボランティアの方による読み聞かせ

月に1度、ボランティアの方々にご来校いただき、各教室で15分間の読み聞かせをしてもらう。

少しの緊張の中、これから読む本の内容や読み終えた後の話など、地域の方と本を紹介する会話も子どもたちの心を動かしていることが、表情から見て取れる。

(4) 児童が発信

① 図書委員会の活動の充実

- ・おすすめ図書の紹介
- ・図書みくじ
- ・貸し出しの手続き
- ・ポスター作製
- ・図書登山、図書ツリー（学年単位のスタンプラリー）

② 国語科での作品を交流

- ・リーフレットづくり
- ・読書感想文
- ・帯
- ・図鑑の交流



3 おわりに

読書は自己の領域にない表現や考えに触れることができる。それは、心豊かな大人に育っていくのに必要なことである。図書は場所や時代を超えた交流ができるものである。だからこそ、早い段階で子どもたちにもその魅力に気づいてもらいたい。これからの教育活動で、読書の魅力を伝えていく次第である。

美勝英支部8中学校の現状と取組 ～豊かな心を育み、読書の楽しさを味わわせるための図書館との連携～

美作市立美作中学校 教諭 畑 絢二郎

1 はじめに

美勝英支部は、岡山県の北東部に位置している。中学校は美作市に作東中学校、大原中学校、英田中学校、美作中学校、勝田中学校、勝央町に勝央中学校、奈義町に奈義中学校、西粟倉村に西粟倉中学校と計8校がある。

それぞれの学校には図書室（図書館）が設置してあるが、図書館司書のいる曜日などは異なる。今回の発表では、このような状況の中で図書館教育担当になった教諭が、それぞれの学校で、どのような工夫をして図書室の利用指導を行っているか、その取組の一端を報告する。

2 本研究のねらい

- ・図書館を利用して、生徒主体の表現活動を工夫する。
- ・様々な教科や教育活動で図書館活用の教育を推進する。

上記2点のねらいのもと、各校で行った実践を紹介する。

3 各校の実践

(1) 教科での取組

① 美作中学校

絵本ビブリオバトルを行った。はじめに、ビブリオバトルについて知るために、実



際の映像を見てポイントを知った。その後の時間ではビブリオバトルの準備として、自分の好きな絵本や、学校司書の先生が準備してくださった絵本の中から1冊選び、構成を考え、練習をした。そして、実際に班ごとでビブリオバトルをおこない、チャンプ本を決めた後に、クラスでビブリオバトルを行い、チ

ャンプ本を決めた。ブックルームの活用の仕方を生徒に伝えることになった。

② 勝央中学校

「私の故事成語活用法を執筆する」ことを行った。今回の実践では図書館の蔵書を使用して、自分の身につけたい「故事成語」の材料を集め、「エピソード」「座右の銘」「友人に贈る言葉」「四コマ漫画」「物語」など、生徒たちの興味・関心・特性に応じて選ばせることで自分の学習が最適となるように調整して学びを深められるようにした。授業後のインタビューでは「図書館にこんな本があるとは思わなかった。インターネットはすぐに答えがわかるが、図書館の本はきちんとまとめられていて楽しかった。特に由来がわかりやすくして他の故事成語も調べたい」と意欲的であった。

③ 英田中学校

国語科の取組として全学年でポップ作りを行った。学校司書の先生にポップの説明や見本を示していただいた後、それぞれが本を選び、授業でポップを作成した。キャッチコピーを考えたり内容をまとめたりしたものを、グーグルスライドを使って作成した。完成したポップを画面に映し出し、クラスで紹介した。発表を見ながら「続きが気になる、読んでみたい」というつぶやきが多く聞こえてきた。できあがったポップは図書室に掲示したり全学年共通のポップルームにアップしたりしていつでも見えるようにしている。



④ 大原中学校

「本の処方箋」というテーマで自分の読ん

だ本を、様々な状況の誰かを想定して、紹介する取組を行った。まず、本から感じたこと・学んだことなどを短い文章であらわし、どのような場面や言葉から感じたのかをまとめ、それをもとにして、本の処方箋を書いた。(表面：上部 ○○なあなたに, 下部 本のタイトル, 裏面：本のあらすじ, 魅力などの紹介) 完成した作品は、図書館近くの掲示板などに掲示し紹介した。

⑤ 西栗倉中学校

西栗倉中学校では2つの取組を行った。

1つ目は、オーストラリアから来日した生徒との読み聞かせの交流を行った。同じ内容の絵本を日本語版、英語版で用意し、それぞれの言語で読み聞かせをし合った。村内の読み聞かせボランティアの方からアドバイスをいただきながら、「相手に伝える」という意識をもって、読み方を工夫する生徒の姿が見られた。



2つ目は、「ものがたり給食」の動画制作を行った。西栗倉村が実施している「ものがたり給食」は、ある食材を題材にした絵本の読み聞かせを聞きながら、その食材を使った給食のメニューを楽しむ取組である。いつもは村の図書館司書が読み聞かせを担当するが、今回は中学生が制作した動画を村内の各校園で流した。動画では、絵本の読み聞かせを行ったほか、シリーズ本の紹介もした。自分たちで絵本の内容を解釈し、その魅力を伝えられるように工夫しながら動画を撮影した。

(2) その他領域での取組

① 勝田中学校

文化委員会の取組として全校生徒で百人一首のしおり作りをした。まず、文化委員が他の生徒に説明できるよう事前に下調べをし作品例を作り、他の生徒にしおりの書き方を説明した。その後、自分がしおりに書く和歌を選び、図書室の本やインターネットなどで、和歌の意味や解釈を調べ、しおりを作った。できあがったしおりを友達と共有し意見交換を行った。それらを集め、文化委員で優秀作

品を選び、集会で表彰した。クラス発表会で展示したり、図書室に飾ったりして多くの人に見ていただいた。その後、生徒一人ひとりに、他の人のしおりが渡るように配った。

② 奈義中学校

奈義中学校では2つの取組を行った。

1つ目は、文化委員会による先生のおすすめの本・夏休みに読むおすすめの本の紹介を行った。本と出会う機会づくりになり、実際紹介されていた本を夏休みに読み、読書感想文に書き上げてくる生徒も見られた。

2つ目は、地域住民による読み聞かせを行った。地域の方々と関わりながら本に親しむことができた。

③ 作東中学校

生徒会文化委員会で小中の図書館司書と連携し、例年読書週間にあわせて児童・生徒が本に興味をいだくようなコラボイベントを実施している。2024(R6)年度は、岡田よしたか作『ぼくらはうまいもんフライヤーズ』という絵本を題材に、揚げ物(フライ)と本をかけあわせたキャラクターを募集し、各学校の作品に一人1票ずつ投票した。得票数の上位3人を表彰するだけでなく、参加児童生徒全員に自分が考えたキャラクターをしおりにしてプレゼントした。

4 成果と課題

今回の成果としては、図書館を授業で活用し、本を用いた活動をしたことにより読書への意欲・感心を高めることができた。また、他者に伝えることを意識させたため、主体的に魅力を探し、工夫して表現することができた。

今回の取組を通しての課題として、図書室の休み時間や授業での利用を増やすことが必要であると感じた。しかし、開館時間の制限があるので、そこを補う工夫が必要である。

5 おわりに

今回の発表を通して、国語の授業や委員会などでの図書館の活用、生徒主体の表現活動の工夫についての取組を知ることができた。今後も楽しい読書活動に向けて、教科のみならず様々な視点から働きかけができるように、連携して行くことが大切であると感じた。

心地よい居場所としての図書館作り ～図書委員会・国語科の取組～

岡山県立東岡山工業高等学校 教諭 石山 奈都子
司書 小橋 暁子

1 はじめに

(1) 本校の紹介

本校は、岡山県岡山市の中心部から東に約9kmの東岡山駅近くに位置している。全校生徒は約800名、1年生は機電子科5クラス、工業化学科・設備システム科各1クラスの計7クラス、2・3学年は機械科、電子機械科が各2クラス、電気科、工業化学科、設備システム科が各1クラスの合計21クラスで構成される。5つの専門科が特色のある授業や実習を展開しており、また小学校や公民館に出向き各科の知識を活かした出前授業をしたり地域の清掃活動を続けたりなどもしている。資格取得、生徒会活動、部活動、各種大会などに主体的に取り組む面もあるが、見通しを持って考えたり物事を俯瞰的に捉えたりする思考力や判断力が未熟な部分も見られる。

(2) 本校の図書館

本校の図書館は、第1棟2階にあり廊下の東端に職員室、西端に図書館という生徒や教員が行き来する恵まれた環境下にあり、定期考査や資格取得のための自習室としてなど、比較的多くの生徒が訪れそれぞれの時間を過ごしている。

しかし、読書に関してはスマートフォンなど電子媒体の普及とともに読む生徒と読まない生徒の二極化が進み、全体的としても読書時間の減少を感じる。そこで、改善に向け読書に親しむ生徒の育成を目指し、図書委員会・2年国語科で取り組んだ内容を紹介する。

2 具体的な取組

(1) 図書委員会の取組

図書委員会では意見を集約し令和6年度の活動目標を「楽しく過ごしやすい空間作り」とし、次のような活動に取り組んだ。

① 企画・展示・広報

図書委員が選ぶテーマ、「空を見上げたくなる本」「夏といえば?」「図書委員がすすめるミステリー」「〇〇部に推したいおすすめ本」などに因んだ図書を展示し、生徒の写真やおすすめコメントを添えることで親近感が湧き手に取りやすくなるようにした。



〔空を見上げたくなる本〕

〔部長のおすすめ本〕

また、「部長のおすすめ本」では各部長にインタビューし、部長の写真とコメントを展示した。身近な存在からの発信は本選びに迷う生徒の興味を刺激し貸し出しにつながるので数年続けている。

「東工プラモデル展」では生徒作のプラモデル横に、部品を創る仕事やその過程に関する図書を展示した。また、昨年度はSDGsの取り組みとしてランナー回収箱を設置した。

「読書マラソン」では、図書館の扉にマラソンポスターとクラス駒を掲示し、担任と生徒を合わせた貸出冊数をクラス対抗でカウントした。視覚的効果もあり読書に親しむきっかけ作りとなった。



〔プラモデル展〕



〔読書マラソン〕

② その他の活動

東工祭では、工業高校の特徴を活かしたもののづくりの技術を展示に活かすことを目標に生徒が主体的に取り組み、トリック再現・謎解き・トランプ銃・ボイスチェンジャーなどを製作し「名探偵コナン」の世界を再現した。当日は来館した在校生だけでなく、保護者や小・中学生に図書委員会の活動を伝えることができ図書委員の満足度も高かった。

また、新聞に親しむ取り組みとして、年40回SDGs新聞を作成した。担当の図書委員が新聞からSDGsに関する記事を選び、記事のポイントとコメントをまとめ教室や廊下に掲示してもらった。



〔東工祭〕



〔SDGs新聞〕

また、図書館への呼び水としてボードゲーム・ルービックキューブ・アクアポニックス（水槽）など遊び心的な要素を配置しており来館者の確保につながっている。



〔アクアポニックス〕



〔ボードゲーム〕

(2) 2年国語科の取組

「おすすめ本紹介と短歌作り」

① 授業計画

第1時	おすすめ本についてストーリーや 押しポイントをまとめる。
第2時	短歌の本を参考におすすめ本につ
第3時	いて表現した短歌を作る。

事前に館内の一面に短歌本コーナーの設置を依頼し、図書館での授業を計画した。

おすすめ本の紹介内容には、本のタイトル・著者名・出版社・本のストーリーや内容・押しポイントを入れること、Chromebookを使いスライド1枚にまとめること、余力のある生

徒はCANVAを使ったポスター作りや感想画にチャレンジするよう伝えた。

次に、教科書「短歌の構成と表現」について説明し、短歌本コーナーの本を紹介することで短歌を身近に感じてもらえるようにした。今年度はナナロク社の寄贈により新旧様々な短歌の本が揃っており、生徒は手に取って参考にすることができた。

1年時から年に数回、俳句作りを課題にしていたこともあり、短歌への抵抗感もさほどなく自分なりに表現することができた。また、短歌を作る際に思い浮かべた情景をスライドにまとめるように伝え提出させた



〔短歌コーナー〕



〔授業の様子〕

② 図書館との連携

短歌コーナーを設置し、2年生全員を対象に短歌作りの授業を試みたが、授業後に短歌の本を借りに訪れた生徒もおり図書館との連携による授業は読書喚起につながると感じた。

3 おわりに

(1) 各取り組みの振り返り

図書委員会としては、1年間の取り組みを通して生徒の自主性を尊重し円滑に運営することができた。特に、生徒発信の企画・展示では学年を超えて協力し意欲的に取り組むことができた。

2年生国語科としては、図書館を起点とした短歌学習により生徒の自由な発想や柔軟な思考につなげることができ、大学や地域が募集している短歌・俳句にも応募するなど言語への関心が深まった。

(2) 課題

Chromebookの導入後、調べ学習などでの図書館活用が減少したが、親しみを感じ居心地よく過ごせ、また新たな発見や知的好奇心に出会える図書館作りを目指すことで改善の余地はある。今後も授業など学校全体で、図書館と柔軟に連携できるよう読書意識の涵養を目指したい。

学校図書館活用で、今までの学びを生かしたくなる授業づくり
～もっと！読みたい，伝えたい～

岡山市立三勲小学校 教諭 高井 里紗
教諭 中山 晶葉
学校司書 三宅 真紀

1 はじめに

本校では、「ともに学び合う子どもを目指して～対話することで深い学びにつなげていく授業づくり～」を研究テーマとして、児童が対話を通して深い学びを達成するとともに、よりよい人間関係を構築することを目指している。

令和5年度からは、国語科「読むこと」の領域を中心にして授業実践に取り組んでいる。これまで、国語科の研究では、第二次の読解を中心に研究を進めてきた。中心教材の内容だけでなく、他の文章でも活かすことができるように、読み方の指導を大切にしてきた。そこで、今回の図書館活用の授業づくりでは、第二次の中心教材で読みの力を身に付け、第三次で図書館資料に読書を広げた時にも、その力を活用することができるようにしたいと考え、学校司書と次の連携を行った。

2 具体的な取組

単元名 分かったことを伝え合おう

「どうやってみをまもるのかな」

(東京書籍 1年上)

(1) 単元について

本教材は、動物が敵からどうやって身を守るのか、筆者の疑問提示に対して答えていくクイズのような形式で書かれており、子どもが楽しみながら興味をもって学習できる教材である。また、3種類の動物の特徴や生態がわかりやすく書かれており、説明文の基本的な読み方である「問い」と「答え」の読み方を、1年生でもつかみやすくなっている。そこで、「普段の様子」と「敵から身を守る様子」の2枚が対比的にかかっている挿絵も手がかりにしなが、内容の大体を捉えたり、分かったことを伝え合ったりする力を付けさせたいと考えた。

(2) 単元目標

- ・文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。

【知識及び技能】(1)カ

- ・読むことにおいて、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。

【思考力・判断力・表現力等】◎C(1)ア

- ・進んで事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉え、今までの経験や学習を生かして、分かったことを伝え合おうとする。

【学びに向かう力，人間性等】

(3) 実際の授業（6時間）

① 第一次（1時間）

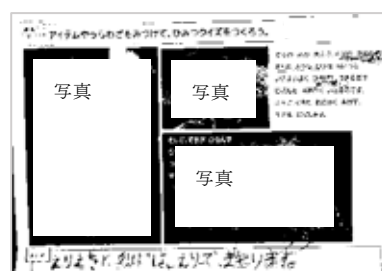
- ・3つの動物の普段の姿を掲示し、身の守り方を自由に予想する。
- ・題名を手がかりに教材への興味を高め、問いに答えることを楽しむ。
- ・動物の身の守り方を読み取っていくことを知る。

② 第二次（3時間）

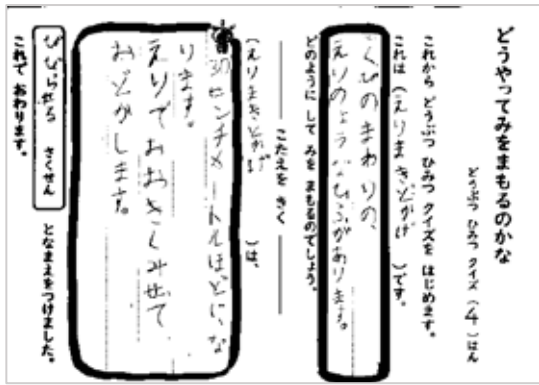
- ・やまあらし，あるまじろ，すかんくの体のつくりと身の守り方を読み取る。
- ・身の守り方をたしかめ，作戦名を考える。

③ 第三次（2時間）

- ・図書館資料を参考にしたワークシートから，動物の体のつくりと身の守り方について情報を集め，まとめる。
- ・動物の身の守り方クイズをする。



(情報を集める用のワークシート)



(完成したクイズのワークシート)

(4) 授業を振り返って

第二次までの学習の読み方を使って、図書館資料から他の動物の身の守り方を見つけて、動物ひみつクイズを作ることができた。低学年という発達段階から第二次の読み取りの時から「体のつくり」を「アイテム」、「身の守り方」を「裏技」と呼ぶことで、身近な言葉でイメージし、読み取った内容を共有しやすくした。

本時の活動において、児童によっては、図書館資料から自分たちで必要な情報を見つけることは難しいのではないかと考えた。そこで、体のつくりと身の守り方の関係が明確に繋がっている動物の資料を選び、情報を絞ったワークシートを作成した。情報を精選することは、全員が活動に取り組める手立てとして効果的であった。本単元の学習が終わった後には、学校司書から様々な動物の身の守り方についての本を多数紹介してもらった。すると、興味を持った児童が進んで本を手に取り、読書の幅を広げる姿が見られた。

今回は、指定した動物のクイズ作りをした。しかし、自分の興味に合わせて図書館資料から動物を選び、調べてまとめていくこともできるだろう。初めからワークシートを用いず、読み取りが苦手な児童のみワークシートを活用したり、学習段階に合わせたワークシートをいくつか作成したりすることもできたのではないか。本時の授業では、自ら様々な資料を当たって、本から必要な情報を選ぶうとする姿勢はあまり見られなかった。課題として、授業者のねらいに応じて資料を絞るだけでなく、児童が自分から読んでみたいと思った資料を使うことができるようにする手立てが必要であった。

文章の読み取り方の活用という視点だけでなく、文章に主体的に向き合い、内容を理解する力を育てるために、読書の楽しさを感じられる視点も大切に授業づくりをしたい。

(5) 学校司書の視点から

授業での学校図書館からの支援としては、まず、調べ学習や一斉読書で利用する図書の提供を行っている。現在、教室利用するために担任が図書を借りて帰ることが多いが、図書館を利用した学習を行ってもらえるよう担任への声掛けを増やしていきたい。特に、調べたり本を他者へ紹介したりする学習の場合、図書とタブレット端末を併用でき、担任と共に学校司書が授業支援を行えるという利点がある。

また、図書の時間には学習関連図書の紹介や読み聞かせを行い、児童自ら手に取って読めるようにしているが、紹介した図書に興味を持った児童だけが読むのではなく、クラス全員で一斉に関連図書を読む時間も必要と感じる。

3 おわりに

今回の授業実践を通して、第三次で児童が主体的に読むことができるようにするためには、第二次までにどのような力を児童に身に付けさせたいのか、具体的に想定した単元計画が大切であることが分かった。

また、今回は第二次までに習得した思考力・判断力・表現力を進んで生かすことを主体的に学習に取り組む態度として評価した授業づくりであったが、第三次の主体的に学習に取り組む態度の想定の仕事も様々であることが分かった。授業者のねらいが変わってくれば、学校司書に依頼する図書館資料の幅も広がってくるだろう。

本校では国語科以外の様々な授業でも、授業者と学校司書が相談することで、授業のねらいに応じた資料が用意されている。

これからも、授業者のねらいを具体的に学校司書がそれぞれに合った資料を用意することで、児童の進んで読書をしようとする態度や、読書を通して分かったことを友達と伝え合いたいという心を育てていきたい。

ICT時代の学習センターとしての学校図書館

瀬戸内市立長船中学校 教諭 直原 絵美

1 はじめに

和気・瀬戸内支部は、和気町立和気中学校、和気町立佐伯中学校、瀬戸内市立牛窓中学校、瀬戸内市立邑久中学校、瀬戸内市立長船中学校からなり、いずれも豊かな自然に囲まれた地域である。学校規模に違いはあるものの、各校の特色ある教育活動を生かし、5校共通のテーマを設定して取組を行うことにした。

まず、5校の全校生徒を対象に、R6年度の1学期に行ったアンケートでは、教科以外での利用は80%に上ったものの、教科の授業での利用は57%と、教科の学習場面では、利用率がそれほど高くないという結果になった。教科の学習において、学校図書館を利用しない主な理由は、「インターネットで調べ物をするので、活用する必要がない」が最も多く、次いで、「学校図書館の利用方法や情報の調べ方がわからない」が多かった。

これらの結果から、5校共通の課題として、以下の4点が挙げられた。

- ・タブレットから得られる情報に偏っている。
- ・自分で本を探したり、選んだりすることが難しい。
- ・長い文章を読むことが苦手な生徒が増え、視覚的なものや短編を好む傾向がある。
- ・生徒も教員も時間的な余裕がなく、学校図書館を十分に活用できていない。

これらの課題から、「学習センターとしての学校図書館の活用」を研究テーマに、

- ・学校図書館とICTをつないで、それぞれのよさを生かした指導方法を確立する。
- ・様々な資料を通して、情報や知識を広げ、新しいものの見方や考え方に触れさせる。

という2つの観点で取組を実施した。

2 具体的な取組

- (1) 学校図書館とICTをつないで、それぞれの良さを生かした指導方法を確立する。

① 好きな故事成語を選ぼう

(牛窓中 1年国語)

本とインターネットを併用し、自分で情報を取捨選択しながら、好きな故事成語を選ぶ。タブレットで選んだ故事成語の意味と成り立ちをまとめ、意味を理解した上でそれを使った文を作る。



② 読書感想文を書こう (長船中 1年国語)

タブレットで「本の検索とブックレビュー」「おすすめの本診断」「本の検索」を利用し、本についてのレビューを参考に、読みたい本を探す。自分でブックレビュー(ワークシート)を完成させ、それを基に読書感想文を書く。



- (2) 様々な資料を通して、情報や知識を広げ、新しいものの見方や考え方に触れさせる。

① 聞き上手になろう～お勧めの本を探す～
(邑久中 2年国語)

ペアになった相手から、読みたい本のイメージをインタビューで聞き、お勧めの本を探す。奥付の内容、分類番号の内容を書き留める。お勧めの本を受け取ったら、本を読み、奥付や本の内容をまとめ、感想文を書く。NDC（日本十進分類法）や奥付について学ぶことも目的とした。

② 作品の魅力を伝えよう(佐伯中 2年国語)

説明文「君は『最後の晩餐』を知っているか」を学習後、絵画の鑑賞文を書く活動に取り組んだ。絵画は美術の資料集から選び、その絵について調べる際に、本とインターネットを併用した。インターネットで得た情報について、本で確認したり、構図や色彩などの絵画を鑑賞する際の視点を本から読み取ったりしていた。

③ 根拠を示して説明しよう

～資料を引用してレポートを書く～
(和氣中 1年国語)

身近なテーマについての統計資料などを引用し、調べたことや考えたことを伝えるレポートを書く。必要な情報を収集する際に、手段は生徒が考え、選択した。タブレットを使う生徒もいれば、書籍を使う生徒もいた。欲しい情報（書籍）がある際には、司書の先生に声をかける生徒の姿も見られた。



3 おわりに

各校での取組の結果、成果として次のような点が挙げられた。

- ・情報の調べ方や検索・分類方法、知識の向上
- ・図書資料とタブレットの共存
- ・読書のきっかけ
- ・学校図書館司書やICT支援員との連携
- ・学校図書館の活用率の増加

特に、学校図書館の活用率については、取組後のアンケートの結果、自主学習を目的とした利用率が上がっていた。また、「今後、どのような機会に学校図書館を使いたいか」という問いに対しても、「自習や家庭学習に関すること」と答えた生徒の割合が上がっており、授業で学校図書館を使うことが、生徒の学びを広げることにつながるという結果になった。

また、授業者である教員にも学校図書館を授業で利用する工夫を呼びかけたことで、学校図書館の利用頻度も上がっているという結果が得られた。授業で利用する機会を増やすことで、読書への関心を高めたことがわかった。

一方、課題としては次のような点が挙げられた。

- ・情報の新しさや幅広さに対応できる図書資料
- ・図書館を活用するための計画や時間的な余裕
- ・手段としての図書館活用を推進する必要性
- ・図書館の活用方法を教員全員で検討する必要性

生徒は一人一台端末の普及により、必要な情報をいつでも手元のタブレット端末で調べることができる。しかし、図書館（本）の良さもあり、生徒がそれを自覚できる機会を教員が意図的に作る必要があると感じた。

今後も、図書館司書やICT支援員、校内の教員で互いに連携を図り、生徒の主体的な学びがより充実するような学校図書館を目指したい。

学ぶ力を引き出す学校図書館を目指して ～ことばの力を培う授業と図書委員会の取組～

岡山県立笠岡高等学校 教諭 小原 千明

1 はじめに

本校は創立 120 年をこえる歴史と伝統のある普通科高等学校である。県南西部に位置し、1 学年 4 クラスで地域との連携や国際交流等、さまざまな体験をとおして社会の中で役割を果たしながら自分らしい生き方を実現し、「志高く自らの人生と社会の未来を拓く人」の育成を目指している。

生徒の実態としては、学習に対して前向きで苦手の克服にも粘り強く挑戦する生徒が多い。また普段から iPad を活用しており、情報の収集や発信は得意である。一方で主体的に行動することにはやや消極的な生徒が多い。読書については、本校の 2 年次生を対象に実施したアンケートで高校入学後、本をほとんど読まないという生徒が 43.8% という結果となり、読書の習慣がない生徒が多いことが課題である。

2 具体的な取組

(1) 2 年次国語科の取組 (ブックレポート)

国語科では生徒が新書を読み、ブックレポートを作成して発表する活動を行った。活動を通して普段読まない資料を活用して考えを深め、自分の言葉で伝え合う力を身につけることをねらいとした。

① 授業計画

第 1 時	新書選び (図書室)
第 2 時	ブックレポート作成
第 3 時	グループ内発表, 相互評価

第 1 時では図書館司書から新書についてのガイダンスを行った。その後、図書館の新書コーナーを自由に見て回り、自分の興味関心のある分野に関する新書を一冊選び、レポートにまとめる内容を検討させた。今回のレ

ポートでは新書の記述から生徒自身の考察を深めさせることを重視したいと考えたため、必要に応じて新書以外の関連する資料も探させた。

第 2 時では読んできた内容を基にブックレポートの作成を行った。レポートを作成する際は総合的な探究の時間でも指導したレポート作成の作法 (出典や引用の書き方等) に従うことや、本の内容だけでなく筆者の見解に対する自分の考えを詳しく述べるよう意識付けを行った。

第 3 時ではブックレポートをもとにグループ内発表と相互評価を行い、他者の考察に触れることでさらに知見を深める活動を行った。授業の終わりに振り返りのアンケートを実施し、取り組みの成果や学校図書館に対する意識の変化を調査した。

② 図書館との連携

新書を選ぶ際、司書から新書の種類や定義、ウェブサイト「新書マップ 4 D」を活用した検索の方法についてガイダンスを行った。「新書マップ 4 D」と学校の蔵書検索ページは QR コードが付いたしおりを配付し活用させた。

③ まとめ

実践ではこれまで培ってきた読解力を生かし、自分で選んだ新書を読むことを通じて興味関心のある分野を筆者の視点から見つめ、考察を深めさせることができた。また、読み取ったことを自分の言葉にして伝え合うことで、読書を通して新たな考えを形成する態度を養うことができた。

(2) 1 年次英語科の取組 (Reading a Picture Book to friends)

学校設定科目「Global English I」で、絵コンテを作成し英語の絵本を読み聞かせする活動を行った。目標を「オーセンティックな

英語に触れながら、絵本の内容を理解する。」
「絵コンテを用いて、聞き手が楽しむことを意識した音読をする。」に設定し、9月から5時間の活動を行った。読み聞かせ本番は、校長、教頭、図書館司書、ALT、年次団の全教員に来ていただき読み聞かせを行った。

① 授業計画

第1時	絵本選び（図書室）
第2時	storyboard 作成（図書室）
第3時	storyboard 作成，音読練習
第4時	読み聞かせ
第5時	英作文 “What you learned from this activity. ”

第1時は、司書とALTに絵本の読み聞かせを行ってもらい、司書から読み聞かせのポイントについてレクチャーを受けた。

第2時は、iPadのアプリ「Goodnotes」で、選んだ絵本のstoryboard(絵コンテ)を作成した。ただ絵本を読むのではなく、文章や挿絵など本の世界観にじっくりと浸って欲しいという思いからstoryboardを作成させた。読み聞かせに用いるstoryboardは最大20枚まで、所要時間は5分と定めたので、文章を適宜要約した生徒もいた。



第3時は、読み聞かせの練習を行った。ループリックを用いて、「声の大きさ」「読むテンポ」「読む態度」などを意識させた。単語を正しく発音できるよう、辞書アプリ「DONGRI」で発音を確認しながら練習をさせた。

第4時は、千鳥会館にて8～9人班を13班つくった。そして各班に教員が加わり、ループリックに基づいて読み手の評価を行った。生徒は聞き手が楽しめるよう、抑揚や間をとったり、storyboardの見せ方を工夫したりした。その後振り返りシートで自己評価をさせた。

本活動後、“What you learned from this activity. ”をテーマにして英作文を書かせた。英作文は生成AI(ChatGPT)で添削・解説をしてもらい、書き直したものを提出させた。

② 図書館との連携

英語の絵本を生徒が一人一冊ずつ読めるように岡山県立図書館、笠岡市立図書館から150冊程取り寄せた。司書と協力しながら活動を行った。

③ まとめ

他校で実践されていた活動を参考にして本授業を行った。絵本を用いることで、1年次生でも無理なくオーセンティックな英語にふれながら内容を的確に理解することができた。そして、外国語を用いて、聞き手に伝わることを意識しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができた。

(3) 図書委員会の取り組み

図書委員会では令和6年度、笠岡認定こども園を訪問し、絵本の読み聞かせを実施した。

読み聞かせに向けては、まず校外の図書館から取り寄せた絵本や紙芝居の中から生徒が読み聞かせのグループごとに本を選び、司書からのアドバイスを参考にしながら読み方やページのめくり方などの練習を繰り返し行った。また園児により楽しんでもらえるよう、読み聞かせの前に手遊びをし、指人形や名札を折り紙で作って持参し園児にプレゼントした。準備段階から工夫を重ね、生徒自身も楽しみながら積極的に園児と交流することができた。

3 おわりに

今回の授業実践では、図書館との連携を通して生徒が課題について主体的に考え、自分の言葉で相手に分かりやすく伝える力を養うことが出来た。図書委員会の活動では様々な本を通じた地域との交流に取り組んだ。

本校は図書館が教室から離れた場所にあることもあり、学校図書館を利用する生徒が少ないのが課題ではあるが、2年次国語の授業後の振り返りのアンケートでは授業を通して学校の図書館や図書館の本をもっと利用してみたいと思ったかという問いに対して「はい」の回答が60%となった。授業等を通して図書館の使い方を生徒に示すことも学校図書館の利用や生徒の読書への意識向上につながると考えられる。引き続き学校図書館との連携を図り、生徒が図書館を活用して主体的に考えて行動し、「学ぶ力を引き出す」環境を作りたい。

子どもの実態に即した読書活動 ～授業実践および心の居場所になる学校図書館について～

倉敷市立岡田小学校 教諭 久田 由貴
学校司書 山田 倫子
主幹教諭 岡本 博子

1 はじめに

(1) 本校の紹介

本校は岡山県倉敷市の北西部に位置している。通常学級7クラス，特別支援学級2クラス，計9クラスからなる全校児童180名の小規模校である（令和6年度）。また，平成30年には西日本豪雨で被災しており，児童の心のケアと防災教育に力を入れている。

(2) 本校の図書館

本校の図書館は，蔵書が約9300冊と充実している。令和6年度の貸出冊数が約24000冊で，一人当たり133冊と利用はかなり多い。一方で，個々の児童に目を向けると，情緒が安定せず自分で落ち着いて本を選ぶことができない，文字を拾いながら読むことが難しい，興味の幅が狭く偏った読書をしている実態がある。

そこで①子どもの実態にあった読書活動ができること，②児童の心が豊かになるような学校図書館を作り上げること，以上2点について重点的に取り組みを行った。

2 具体的な取組

(1) 学校全体の取組

① 朝読書の実施

本校の朝読書は，毎週月曜日の8時15分から8時25分までの10分間である。学校全体で5年前から継続的に行っており，誰もが読書に触れる時間を確保している。

② 学校支援ボランティアによる読み聞かせ
年間15回，朝読書の時間を活用して学校支援ボランティアによる読み聞かせを行った。ボランティアの方には，主に低学年や特別支援学級に出向いてもらい絵本や本の読み聞かせなどをしていただいている。

① 利用しやすい図書館

児童が自ら読みたい本を見つけることも読書活動の1つと考え，十進分類法の分類記号・図書記号の分かりやすいサインを作成し，配架している。また，国語の教科書に掲載されている本を学年ごとに分けて特別コーナーを設置している。防災関連コーナーには，図書だけでなくパンフレットや新聞記事も含めた地域資料も充実させ，児童の防災学習に役立つ工夫をしている。



② 季節の展示コーナー

入口近くやカウンター前の展示机，低書架の上等，児童の目につく場所にタイムリーな展示コーナーを設けることにより，児童の好奇心を刺激し，本に興味をもち，自ら選書するきっかけをつくっている。

③ 心豊かな感性を養うために

気持ちが落ち着かない児童やじっと留まることができない児童には，絵本のキャラクターのぬいぐるみや，ふわふわ触感が心地よい布絵本で心を落ち着かせ，ページをめくるたびに，魅力的な仕掛けで集中力をアップさせるなど工夫を凝らしている。



④ イベントの開催

図書館でイベントを開催することにより、普段本にあまり触れていない児童も本と繋がるきっかけになっている。

ア 「すくなかぼちゃ」の数当てクイズ

ハロウィーンの時期に本の展示だけでなくかぼちゃの種を当てるクイズを行った。

イ 読書週間

毎年読書週間を2週間程度行っている。令和6年度はアニメーション「きつねがにげた！」&図書館宝くじや図書委員会によるパネルシアター、先生のおすすめ本紹介が行われた。

ウ 「食虫植物観察」や「かいこ観察」

本だけでなく実物の生き物を一緒に展示することによって児童の興味の幅を広げることにつながっている。



『むしをたべるくさ』ポプラ社
渡邊弘晴/写真 伊地知英信/文



エ 図書館福袋

新年の運試しというわくわく感を味わいながら本との出会いを楽しむことができる。



(3) 授業の中で

授業の中でも各担任が本との関わりを大切にしている。学校司書とできるだけコンタクトを取り合い共通理解を図り、支援を必要とする児童の実態に寄り添っている。

① 2年生 国語科 「紙コップ花火のおもちゃの作り方」の授業での支援

この授業では、紙コップ花火のおもちゃの作り方を教科書で学んだあとに、自分でおもちゃの作り方の説明を書くことを目的としている。第7時の授業では、図書館司書に手作りおもちゃの本を紹介してもらったのだが、個々の特性を事前に司書に伝え、一人一人に

合った本を選んでもらった。

【学級の実態】

A・B児	文字を読んでも理解しにくい。
C児	こだわりが強く変更が難しい。
D・E・F児	選書が難しく、自分から質問することが苦手。



このような実態を踏まえて一人一人に合った本を紹介していただいた。

A・B児	絵や写真の多い本。
C児	見通しをもって活動できるように教科書に載っている書き方と同じ本。
D・E・F児	本と実物を一緒に提示し、興味をもつことができるようにした。

自分に合った本を提示してもらった児童は熱心に本を読み、意欲的に学習活動に臨むことができた。

② 1年生 図書の時間での支援

興味の幅が狭く読書の幅が広がりにくい児童には、借りる本を指定したりいろいろな本を読み聞かせたりすることによって本との出会いを大切にした。

③ 5年生 国語科 「やなせたかし」の授業での支援

自分の気に入った偉人を調べるために図書を利用した。偉人について調べるだけでなく「偉人日めくりカレンダー」を作成し友だちに伝える活動を通し、伝記を自然と紹介し合える場を作っていた。

3 おわりに

今回の実践を通して、個別に支援が必要な児童に合った本をいかに普段の生活や授業の中で取り入れるかを工夫することが大切であると感じた。文字を読むのが苦手なだけでなく、気持ちが落ち着きにくい児童も多くいる中で、図書館が学校生活の中で憩いの場として大きな存在であることが分かった。今回は国語科の授業の中での実践が多かったが、他教科でも学校図書館を活用することによって児童の興味の幅も広がると考えた。

今後も児童の思いに寄り添いながら、居心地の良い図書館空間を意識して模索を続けていく。

学校図書館を活用したインクルーシブ教育の実践

岡山市立操山中学校 教諭 酒見 紗世
学校司書 鶴身 知子

1 はじめに

本校は、全校生徒 604 名、1 年生 6 学級、2 年生 6 学級、3 年生 6 学級、特別支援学級 5 学級の中規模校である。

今回は図書館を活用し、全ての生徒が同じ環境・条件で授業に参加したり、読書をしたりすることを目標に、図書館司書、国語科を中心に分析・検討を行い、取組んだ内容を紹介する。

2 具体的な取組

(1) 図書館の取組

① 「色覚多様性」の生徒への対応

掲示物・書架の棚見出しの文字を「丸ゴシック体」に統一した。また、分類表示等の掲示物の色の組合せを、見やすい色に変更した。

② 漢字の読みが苦手な生徒への対応

特別支援学級の生徒に限らず、漢字の読みが苦手な生徒は多い。実際に、図書委員の生徒が毎回委員会のレジュメを読む際に、詰まったり他の生徒に尋ねたりする様子が見られた。そのため、館内表示・掲示物や、図書館発行の「図書館だより」「新刊案内」、図書委員会の「レジュメ」の中の小学校高学年以上で習う漢字にはルビをつけるようにした。

③ 潜在的に読書に困難を抱えている生徒への対応

12 月 3 日からの「障害者週間」に合わせて、以下の取組を行った。

・「バリアフリー図書」の展示（りんごの棚）の作成

点字図書・LLブックを購入し、購入不可の「布絵本」「大活字本」「オーディオブック」（朗読CD）、デジタル図書（DAISY）は県立図書館から借りた。館内入ってすぐのテーブルに別置コーナーを作成し、DAISY 図書は昼休みに流した。その結果、関心をも

って手に取って触れたり、友だちと感想を述べあったり、DAISY について司書に尋ねたりする生徒がいた。



中でも「点字絵本」「布絵本」に関心をもつ生徒が多くいた。

・リーディングトラッカーの作成

昼休みに、希望者を募り作成した。また、図書館用に 8 色の「リーディングトラッカー」を購入した。「図書館だより」や館内掲示で来館者にいつでも使えるよう告知した。

④ 特別支援学級の生徒への対応

図書館を利用する生徒が少ないことから、特別支援コーディネーターに生徒の様子を尋ねたところ、「本を読む習慣がない」「漢字が苦手な生徒が多い」「文字が多いものは読もうとしない」「図書館が教室から遠く、人が多いので休み時間・昼休みに行くのは嫌」という話を聞いた。そこで、読書週間期間に「期間限定出張図書館」と称して自校図書館の蔵書から希望を取り、学級文庫の本を増やす取組を行った。通常学級にも同様に行った。

(2) 教科の授業での取組

① 1 年生図書館オリエンテーション

入学して初めて図書館を訪れた生徒に向けて、図書館の利用の仕方について説明した。その際、視覚優位の生徒に分かりやすくするため、写真やイラストを使ったラミネート資料を作成した。また、色覚多様性の生徒に対応し、赤色の台紙だった「見出し」を青色に変更した。

② 3 年生理科『DNA や遺伝子の応用や研究』または『生物の進化』

第3学年には「外国にルーツがある」生徒が在籍しており、「難しい日本語が読めないの、読みやすいものを教えてほしい」と本人から要望があった。そこで、絵本でルビがある図書を紹介したところ、調べ学習を進めることができていた。

特別支援学級の生徒にも同様に実施した。

③ 1年生国語「本のPOP作り」

第1学年の生徒全員と、一部の特別支援学級を対象に、本のPOP作成の授業を行った。漫画と雑誌以外の本という条件で、各自がおすすしたい本を選ばせた。その際、読書の習慣がない生徒や読書が苦手な生徒向けにブックリストを作成し、配布・別置して紹介した。ブックリストには、様々な生徒の興味・関心に合うように0～9類の本を選んだ。また、文章を読むのが苦手な生徒にも分かりやすいように、ルビがついているもの、9類以外ではイラストやマンガなどによる説明が多めのもの、9類は短編集など文章が短めのものを選んだ。読書が苦手な生徒も、ブックリストを見たり、司書や教師の助言を元にしたりにして、本を選ぶことができた。

POPには書名、作者名、出版社、出版年の他、キャッチコピーとおすすする理由を必ず書くように指導した。本を何度も読み返しなが、本の魅力が伝わるキャッチコピーや文章を考えることで、その本をさらに読み深めることができていた。

なお、作成したPOPは図書館外廊下に掲示した。



④ 2年生国語「読書を楽しむ～本を紹介する『本の紹介合戦をしよう』～」

第2学年の生徒全員を対象に、お気に入りの本を紹介し合う「紹介合戦」を行った。漫画と雑誌以外の本という条件で、各自が紹介する本を選び、その本の魅力について説明する文章を書かせた。「紹介合戦」では、本の魅力が伝わるように聞き手を意識して話すよう指導した。「出会ったきっかけ」や「一番好きな場面」など、聞き手のときは本の魅力を引き出す質問をするよう促した。生徒は、自分

の好きな本について仲間に伝えることで、よりいっそうその本の良さを感じることができていた。また、仲間からの質問があると会話が弾み、笑顔でやり取りを行う様子が見られた。日頃は会話をもたない生徒同士が、一冊の本を通じてコミュニケーションを図ることができた。その授業では、特別支援学級の生徒が通常学級の生徒と交流することができた。

3 成果と課題

今回は「色覚多様性」「視覚優位」「読みが苦手」「外国にルーツがある」「読書が苦手」な生徒への対応を行った。これらは基本的には普段心がけている「レファレンスに誠実に応えていくこと」と変わりはないように思われる。

また、国語の授業では、本のPOP作成や、本の紹介という活動を通して、すべての生徒が共通して読書活動を行うことができた。その中で、お気に入りの一冊に出会うことができていた生徒が多くいるということを知ることができた。生徒のお気に入りの本の傾向は多岐にわたり、幅広いジャンルの本が選ばれていることもわかった。本校では、朝読書を実施しているが、その効果の大きさも知ることができた。

今後も生徒一人一人の「困り感」にできるだけ寄り添い、その時に必要な支援（本やサービス）を届けることを積み重ね、少しでも「読書のバリア」を取り除けるようにしていきたい。

大会役員

会長	玉島高等学校	校長	森田 保志	県SLA会長	
副会長	灘崎小学校	校長	野崎 尚子	県SLA副会長	小教研情報教育研究部会 学校図書館部会 会長
	光南台中学校	〃	川原 悦子	県SLA副会長	中教研学校図書館部会 会長
	倉敷天城高等学校	〃	藤井 省吾	県SLA副会長	高教研学校図書館部会 会長
県司書部会長	岡山朝日高等学校	司書	井上真紀子	県SLA司書部会会長	

実行委員会

委員長	津山高等学校	校長	滝澤 浩三	県SLA津山ブロック 高等学校 代表理事	高教研学校図書館部会 美作地区 代表理事
副委員長	美作中学校	校長	忠政 勇之	県SLA津山ブロック 中学校 代表理事	中教研学校図書館部会 美作地区 代表理事
	堰邑小学校	〃	山本 信子	県SLA津山ブロック 小学校 代表理事	小教研情報教育研究部会 学校図書館部会 美作地区 代表理事
	江見小学校	〃	岸本 徹	県SLA津山ブロック 各支部会長	
	美咲中央小学校	〃	池上 敏子	〃 〃	
	成名小学校	〃	宗森 雄子	〃 〃	
	奥津小学校	〃	影山 典子	〃 〃	
	勝間田小学校	〃	御藤 善子	〃 〃	
委員	勝北中学校	校長	井上 学	県SLA津山ブロック 各支部副会長	
	東小学校	〃	影山 哲也	〃 〃	
	鏡野中学校	〃	椋代 孝	〃 〃	
	柵原学園	〃	新免 道明	〃 〃	
	蒜山中学校	〃	廣瀬 正明	〃 〃	
	勝田小学校	〃	春名 章範	〃 〃	
	美作第一小学校	〃	延東 省典	〃 〃	
	奈義小学校	〃	加治 裕代	〃 〃	
勝央北小学校	〃	美若 利光	〃 〃		
総務部	玉島高等学校	教諭	武部 和範	県SLA 事務局長	
	堰邑小学校	校長	山本 信子	県SLA津山ブロック 小学校代表理事	
	美咲中央小学校	〃	池上 敏子	支部会長	
	富原小学校	教諭	安東菜津美	事務局長(真庭市・真庭郡)	
研究部	美作中学校	校長	忠政 勇之	県SLA津山ブロック 中学校代表理事	
	蒜山中学校	〃	廣瀬 正明	支部副会長	
会場部	会場係	江見小学校	校長	岸本 徹	支部会長
		勝田小学校	〃	春名 章範	支部副会長
		美作第一小学校	〃	延東 省典	支部副会長
	受付係	江見小学校	教頭	曾和 三義	事務局長(美作市)
		成名小学校	校長	宗森 雄子	支部会長
		勝北中学校	〃	井上 学	支部副会長
		東小学校	〃	影山 哲也	支部副会長
	接待係	鶴山小学校	教諭	安藤 優佳	事務局長(津山市)
		奥津小学校	校長	影山 典子	支部会長
		鏡野中学校	〃	椋代 孝	支部副会長
		柵原学園	〃	新免 道明	支部副会長
		奥津小学校	教諭	日下 直子	事務局長(苫田郡)
	駐車場係	久米南中学校	教諭	杉山 知子	事務局長(久米郡)
		勝間田小学校	校長	御藤 善子	支部会長
勝央北小学校		〃	美若 利光	支部副会長	
奈義小学校		〃	加治 裕代	支部副会長	
	勝間田小学校	教頭	坂本佳世子	事務局長(勝田郡)	

県SLA事務局

県事務局	灘崎小学校	教諭	藤田 雪絵	小教研 事務局長
	興除小学校	〃	黒石 浩史	小教研 事務局長
	西大寺中学校	〃	佐藤 恵作	中教研 事務局長
	瀬戸中学校	〃	検 崎 亮	中教研 事務局次長
	倉敷天城高等学校	〃	坂井 昌子	高教研 事務局長
	玉島高等学校	〃	武部 和範	県SLA 事務局長
	玉島高等学校	〃	室山 慶太	県SLA 事務局員
	玉島高等学校	司書	近藤佐和子	県SLA 事務局員

令和7年度岡山県学校司書研修会(美作大会) 要項

主催 岡山県学校図書館協議会・岡山県学校図書館協議会司書部会

共催 岡山県学校図書館協議会美作支部

後援 岡山県教育委員会

1 日 時 令和7年7月30日(水) 13:00~16:00(受付 12:30~)

2 開催形式 web 会議システム(Zoom)によるオンライン開催

3 日 程

12:30 13:00 13:40 14:10 14:20 15:50 16:00

受付	開会行事・総会	質疑応答 (実践発表)	休憩	全体講座	閉会
----	---------	----------------	----	------	----

4 総 会

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| (1)議長選出 | (7)2025(R7)年度活動方針・事業計画(案) |
| (2)2024(R6)年度活動報告(理事会活動報告) | (8)2025(R7)年度予算(案) |
| (3)2024(R6)年度決算報告 | (9)ローテーションについて(案) |
| (4)2024(R6)年度監査報告 | (10)質疑応答・承認 |
| (5)質疑応答・承認 | (11)情勢報告(地区活動報告・実態調査報告) |
| (6)2025(R7)年度役員選出(案) | (12)議長解任 |

5 実践発表 ※事前に動画配信

■ 「今」に寄り添える学校図書館

発表者 玉野市立築港小学校 藤原 千春

発表者 玉野市立玉原小学校 松田 亜希

発表者 玉野市立玉小学校 與田 純子

■ 図書館や本を広くアピールするための取り組み

発表者 岡山県高教研学校図書館部会備前支部司書部会

6 全体講座

■ 本と人をつなぐ学校図書館の可能性

講師 木下 通子 氏 (社会教育士/司書/オフィスみちねこ代表)

【木下通子氏プロフィール】

埼玉県立高校で40年高校司書として勤務し、令和7年3月に埼玉県立浦和第一女子高校を最後に定年退職。退職を機に起業した「オフィスみちねこ」では、社会教育士として<本と人をつなぐ>仕事をしている。

ビブリオバトル普及委員(関東地区担当)

特定非営利法人「つきぐるみ」理事

JPIC 読書アドバイザー29期終了

コグトレ中級トレーナー

【実践発表】

発表者	藤原 千春（玉野市築港小学校司書） 松田 亜希（玉野市玉原小学校司書） 與田 純子（玉野市玉小学校司書）
指導講評	岡山県高教研学校図書館部会備前支部司書部会 滝澤 浩三（岡山県学校図書館協議会美作支部支部長・ 岡山県立津山高等学校校長）
司会者	中田 千絵（岡山県立真庭高等学校司書）
質疑応答回答者	森永 佳子（玉野市宇野中学校司書） 藤井 薫（玉野市田井小学校司書）
記録者	伊東 真弓（玉野市山田小学校司書） 小竹 祐加（朝日塾中等教育学校）

I 事例発表①

「今」に寄り添える学校図書館

第1部会	玉野市立築港小学校	藤原 千春
第2部会	玉野市立玉原小学校	松田 亜希
第3部会	玉野市立玉小学校	與田 純子

1. はじめに

玉野市は、岡山県南部に位置する人口約5万4千人の港町です。市内には小中学校あわせて20校があり、全校に1名ずつ学校司書が専任で配置されています。司書の内訳は、正規職員2名・会計年度任用職員18名で、近年は他市からの経験者や未経験の新任者が増え、経験年数の異なる司書がともに働く環境となっています。経験年数に関わらず、市内全校で同様の学校図書館水準を維持するため、玉野市学校図書館協議会司書部会（以下、司書会）では、年4回の対面での全体研修に加え、その他の月はオンラインでの部会研修を行っています。

今回の発表では、令和5年度から3グループに分かれて進めてきた部会研修の取り組みを紹介します。

現在、学校現場を取り巻く環境は、コロナ禍やGIGAスクール構想の影響で大きく変化しています。玉野市では、今年度から個人情報保護や働き方改革の観点からゼロトラスト化を導入しました。このようなデジタル化が急速に進む中で、時代の変化・環境の変化に対応した学校図書館のあり方を考え、「今に寄り添える学校図書館」をテーマに部会ごとの切り口で研修を行いました。

2. 第1部会 円滑な司書業務と充実した図書館活動のために

第1部会は、今まで司書会で作成してきた『引継書』『図書館事務の手引き』『図書館システムマニュアル』などの資

料の改訂に取り組んできました。これらは新任者が増え、さまざまな経験年数の司書が勤務している玉野市の学校図書館にとって重要な役割を果たしています。

令和5年度からは、永年保存資料となっていた『司書ごよみ』の見直しを行いました。この『司書ごよみ』は、1年間の司書業務を月ごとにまとめた紙媒体資料で、手書き作業や目録カード管理の時代に作成しているため、内容が古く、改訂すべき部分が多くありました。そこで、内容を現状に沿ったものにし、勤務年数に関係なく、業務内容の確認や図書館活動の参考になる実用的な資料に作り変えることにしました。そして、名称も『学校図書館活動ガイド』に改めました。

本ガイドの作成にあたり、まずどのような情報を掲載するか検討しました。必要な情報が多岐にわたるため、本ガイドの項目を従来の3つから以下の6つに増やし、月ごとに情報を整理して掲載することにしました。

- ・ 図書館事務（選書・受入などの事務処理、図書館管理に関わること）
- ・ 図書館行事（イベント、行事例）
- ・ 委員会活動（活動内容、それに伴う計画など）
- ・ 図書館だより（掲載内容例、見出し例）
- ・ 展示・掲示（展示のテーマ名、掲示例など）
- ・ 司書会など（司書会での動きなど）

「図書館行事」のイベント例は、「委員会活動」「図書館だより」と関連づけ、これらの項目の他に、「学校行事」の

欄を設けました。さらに巻末資料には、図書館だよりの文例やレイアウトに役立つオンラインツール、参考図書の情報に加える予定です。今の時代に合った情報に加えることで、より充実した内容になりました。

本ガイドは紙媒体に加え、GoogleスプレッドシートやExcel、Googleサイトでも作成しています。内容を新しい情報にするだけでなく、デジタル版を作成することで、幅広く活用できると考えました。サイトは、Canvaなどを活用し見やすくなるようデザインにも配慮し、誰でも気軽に使える工夫をしています。

この研修を通して、日々の業務の振り返りとともに、他校の図書館活動の様子を知ることができました。また、研修で活用したGoogle WorkspaceやFigJamなどのツールは、児童生徒との図書館活動においても有効であると実感し、司書のICT活用スキルの向上が必要だと感じました。

現在、本ガイドは紙媒体・デジタル版ともに作成途中のため、まずは完成を目標とし、その後は実際に業務で活用していきたいと考えています。

そして、デジタル版は、他校とオンライン上で繋がる強みを活かして、市内全校で情報を共有できるようにし、自校の図書館活動に役立てたいと思います。

3. 第2部会 様々な教科で授業連携できる図書館をめざして

第2部会では、授業連携をテーマに研修を進めてきました。

背景には、一人一台端末の導入で、教室での調べ学習が増え、学校図書館の資料利用が減っている現状があります。年間計画があっても周知・活用が不十分で、児童生徒も情報を正しく扱う力が不足しています。

そこで、児童生徒が「読む」「調べる」「情報を活用する」力を段階的に育成できるよう、学校図書館を単なる読書の場としてだけでなく、学習・情報センターとして位置づけ、様々な教科で図書館が活用されることを目指し、以下の取り組みを行いました。

【教科単元一覧表の作成】

令和6年度の小学校教科書改訂に合わせて、各教科でそれまでと教材が変わったところや、図書館を活用できる単元を確認し、学年ごとに一覧にまとめました。特に学校図書館を活用できそうな単元には色を付けるなど工夫することで、どの時期にどのような学習をするのか図書館でも把握しやすくなり、見通しをもって選書や授業準備ができるようになりました。

【図書館教育年間計画の作成】

単元一覧表から、特に図書館活用が期待される単元を抽出し、図書館教育年間計画を作成しました。各単元について、図書館でできる活動を「関連読書／調べ学習／図書館利用の方法／読書活動」といった活動内容ごとに分類・タグ付けをしています。タグによって、活動ごとに絞り込んで6年間の図書館活用の見通しを持つこともできます。

【教員との情報共有サイトの作成】

図書館教育年間計画を教員にも見てもらい、いただいた意見をもとに学校ごとにアレンジできるよう、司書同士が情報交換しつつ教員にも情報提供できるサイトを作成しました。

サイトには、教員が図書館を活用した授業をイメージできるように、図書館教育年間計画や図書館を活用した授業の実践事例、授業用ワークシートなどを掲載することにしました。また、司書の業務の効率化を目指して、授業で活用した資料のリストを共有できるようにしたり、教員向けに授業の参考になる項目を考えたりしながらまとめていきました。さらに、子どもたちの情報活用能力を育てるため、情報の扱い方に関するページも作成し、6年間を通して身につけさせたい内容を整理しました。

サイトでは、年間計画に入れた主要な教科以外にも、道徳や人権・戦争に関する資料リストを作成し掲載しています。今は主に図書資料ですが、今後はデジタル資料やリンク集も共有予定です。地区や学校ごとにテーマの異なる総合的な学習の時間についてもサイトに掲載し、他校の情報を参考に選書することで、充実した蔵書構成を目指します。

成果としては、図書館教育年間計画の作成で、図書館を活用すべき単元や、図書館を使って育てたい力を明確にできました。また、サイトで情報共有することで他校の活動も参考にでき、教員との連携もスムーズになりました。

課題としては実践面が不足しているため、サイトに掲載する資料の充実や簡単なレファレンスの共有、教員からの意見収集があがっています。

これからは今回作成した年間計画やサイトを活用し、さらに教員と連携して図書館活用を進めていきたいと考えています。

4. 第3部会 誰もが利用しやすい図書館づくりをめざして～アナログ・デジタル両面から～

第3部会では、利用者の傾向として「本を探せない」「使

いづらい」と感じている児童生徒が多いという共通の課題があり、司書による利用指導のほか、環境整備の観点から改善を目指して研修を始めました。実際に他校を見学して工夫を参考にしたり、課題解決に向けた意見交換をしたりしました。また、蔵書検索サービスも活用しながら、デジタルとアナログ両面から自校の図書館環境を見直しました。

【アナログ面での取り組み】

- ・ ひらがなや数字を認識しづらい児童向けに、動物パネルを目印とした表示を作成
- ・ 書架の見出し版を統一デザインにし、色分けやイラスト付きに変更
- ・ 利用者にも分かりやすい立体的な館内サインや分類の内容に合わせたピクトグラムを設置し、自分で本を探せる環境を整備

各校で表示を工夫したことで、児童生徒の関心が高まり利用も増加しました。今後は表示の量を適切に調整し、見やすさ・伝わりやすさを保つことが課題です。

【デジタル面での取り組み】

玉野市では、蔵書管理に「図書館ナノ」という図書館システムを採用しており、ネットワークには接続せずスタンドアロン仕様で運用しています。そのため、図書館内に利用者が自分で検索できる専用端末がなく、調べ学習などの際にも目的の本があるかどうか司書に聞きに来る生徒がほとんどです。さらに、図書館の立地も影響し、先生に許可を得て図書館まで行くのが手間だという声が多く聞かれています。

こうした課題を解決するため、部会メンバーの学校では管理職と相談のうえ、「カーリル学校図書館支援プログラム」を導入しました。このサービスは、ネット上での蔵書検索や予約を可能にするもので、導入に際しては、使い方やメリット・デメリットを共有する研修を実施しました。校内でも図書館だよりや学年クラスルームで広報したり、館内にQRコードを掲示したりして児童生徒への周知をはかりました。導入した小学校では3年生から6年生を対象にオリエンテーションを実施し、中学校では生徒総会で図書委員長が実演しました。これにより、教室にいながら学校図書館の蔵書を調べられ、本の表紙も確認できるという利便性が伝わりました。調べ学習だけでなく、興味のある本を見つけて図書館を訪れる児童生徒も増えてきました。

夏休み前に予約システムを導入した学校もあり、長期休業中でも家庭から図書の本を予約できる環境が整いました。また、卒業を控えた6年生には中学校図書館の蔵書検索URLを事前に伝え、入学前から利用促進をはかる取り組みもし

ています。

全体的な成果としては、アナログ面での視覚的な表示の工夫により、児童生徒が自力で目的の本にたどり着けるようになり、利用も増加しました。デジタル面での検索サービスの導入により、いつでもどこにいても図書館の本を自分で検索できる自由が備わりました。今後の課題は、館内表示の適量調整や、蔵書検索機能のさらなる周知をはかることです。

アナログとデジタル両方の支援がそろってこそ、「誰もが使いやすい図書館」になります。これからも時代の変化に対応し、学校図書館の環境整備に取り組んでいきたいと思えます。

5. おわりに

玉野市の3部会は、現場に即したそれぞれの視点から、学校図書館の課題解決に向けて研修をしてきました。

この発表は、玉野市に限らず、全国の学校図書館が直面している共通の課題にも通じるものです。時代の変化に対応しながら、「今」に寄り添える学校図書館のあり方を考えるヒントとして、各部会の取り組みが皆さんの実践の参考になれば幸いです。

これからの学校図書館が、教育の中でさらに重要な役割を果たせるよう、今後も研修と実践を重ねていきたいと考えています。

II 質疑応答

Q. 『学校図書館活動ガイド』や『玉野市学校図書館オンライン』は高校の司書でも閲覧は可能ですか？可能であればURLを教えてください。

A. 『学校図書館活動ガイド』のサイト版は、第1部会の配付資料P.10に掲載しているQRコードから閲覧可能です。不具合がある場合はQRコード下のURLからアクセスしてください。それでも閲覧できない場合は、玉野市立玉中学校 森本さんまでお問い合わせください。

『玉野市学校図書館オンライン』は、大会特設ページにて公開用サイトのURLを掲載します。サイトの公開期間は8月31日までで、内容の一部を玉野市限定公開にしているため閲覧できないものがあります。

I 事例発表②

図書館や本を広くアピールするための取り組み

岡山県高教研学校図書館部会備前支部司書部会

1. 背景

数年前から備前支部の司書の間で「貸出冊数の減少」「授業利用の減少」「生徒の来館減少」といった共通の声が聞かれるようになり、「生徒が図書館や本から離れつつあるのではないか」という危機感が共有された。こうした状況を受け、各校の司書は「図書館や本を身近に感じてもらう」「読書や来館のハードルを下げる」ことを目的に自校で様々な取り組みを実施した。その取り組みを備前支部内で紹介し合い、他校のアイデアをヒントに自校の新たな取り組みに活かすこととした。

発表で取り組みを紹介するのは、やはり実施校の司書が良いと思ったこと、複数の学校が事例を紹介するため一人の持ち時間を決めて原稿を準備するのが良いと思ったこと等を司書部会で話し、共通理解を得た。

スライドに音声収録するときは、司書部会の会場として県立図書館のメディア工房を予約して行った。

3. 各校の取り組みの紹介

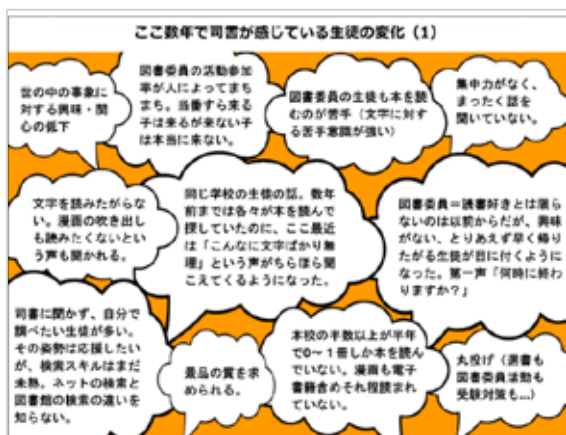
環境整備、広報、授業、展示・企画のジャンルでまとめた。一覧を参照してほしい。

4. まとめ

高校備前支部では、コロナ禍での研修の際にオンラインでの共同編集を何度か行っていたことが、今回のこの方式採用の背景にある。Googleスライド共有の利点として、①複数校の事例を一覧で参照できるため、短時間で多様なアイデアに触れられる。②オンラインでの共同編集により、発表前後に情報を追加・修正でき、最新の事例集として運用可能。③何度でも見返すことができる。といったことが考えられる。

対面研修が再開された現在は、スライドで気になった点を研修の場で尋ねたり、事例について話す事でまた違ったアイデアが出てきたり、実際のグッズを見せ合うこともできている。

今後は、研修で学ぶ他校の取り組みを参考にしながら、読書や来館のハードルを下げる、図書館や本をアピールする取り組みを行い、各校で図書館利用を促していきたいと思っている。



2. 収集方法と発表準備

備前支部全体でGoogleスライドを共有し、各校司書が取り組みを入力する形で収集した。複数の取り組みを紹介した学校は、司書部会の際に他校から投票してもらい、みんなが最も知りたい取り組みで発表するようにした。こうして1校1事例を決めた。

II 発表事例一覧

	発表校	タイトル	ジャンル
1	岡山朝日高校	短いタイトルの本を検索する方法	環境整備
2	倉敷鷺羽高校	絶景の特等席	環境整備
3	邑久高校	キャンバで広報活動	広報
4	岡山大安寺中等教育学校	全校生徒への新着情報配信	広報
5	岡山御津高校	返却スリップ	広報
6	岡山一宮高校	保護者向け図書の出し	広報
7	西大寺高校	味見読書	授業
8	岡山芳泉高校	廊下でも探究発表	授業
9	岡山工業高校	調べ方ガイドと情報メモ (参考文献リスト)	授業
10	朝日塾中等教育学校	グーグルサイトの充実	授業
11	岡山城東高校	webパズファインダー	授業
12	岡山操山高校	図書委員イチオシ！著者ビンゴ	展示・企画
13	玉野高校	BOOK FAIR	展示・企画
14	倉敷市立倉敷翔南高校	今年の活動いろいろ	展示・企画
15	山陽学園高校	竹久夢二まみれ	展示・企画
16	東岡山工業高校	読書マラソン	展示・企画
17	関西高校	本に親しむ機会を増やす	展示・企画
18	瀬戸高校	Library文通ボード	展示・企画
19	岡山市立岡山後楽館高校	昼休みイベント 語学講座・ミニコンサート他	展示・企画
20	備前緑陽高校	イベント・図書みくじ	展示・企画
21	和気閑谷高校	ブロックカラーの本	展示・企画
22	岡山理科大学附属高校	ブロックTシャツ展	展示・企画
23	岡山商科大学附属高校	新刊書&面接対策コーナー	展示・企画
24	創志学園高校	リクエスト書籍紹介本棚	展示・企画
25	就実高校	やってみたいこと！本でTRY！	展示・企画
26	岡山南高校	いつも生徒の作品を	展示・企画
27	岡山学芸館高校	コースによる読書の時間&本の紹介	展示・企画

【実践発表】

Ⅲ 指導講評

まずは実践発表いただきました、玉野市の小中学校の学校司書の方、高校の備前支部の学校司書の方、動画による配信を事前にご準備いただき、たいへんありがとうございます。コロナ禍を経て、本研修会はオンライン開催と対面開催を隔年で実施しております。それぞれに良いところがあると思いますが、今回のように事前に配信いただくことにより、様々な実践発表を期間中何回でも視聴できるオンデマンドのありがたさを、私自身も痛感いたしております。特に気になった取組や、参考にしたい事例を繰り返し視聴できる点は、多くの学校司書の方にも好意的に捉えていただけるものと思っております。

それでは、各実践発表の内容を視聴させていただき感じたことを少しお話しさせていただきます。まずは玉野市の小中学校の発表「『今』に寄り添える学校図書館」です。3つの部会でそれぞれテーマを設定されています。第1部会では「円滑な司書業務と充実した図書館活動のために」と題し、「司書ごよみ」を現状に即した、図書館活動のヒントとなる実用的な資料へとアップデートするための取組です。

「司書ごよみ」の内容を一から見直し、新たな「学校図書館活動ガイド」を作成するために様々な方面からご検討いただいたことが、よく伝わって参りました。玉野市内でこのガイドを共有することで、勤務経験の長短にかかわらず、業務を円滑に進める上での貴重なガイドブックになるのではないかと思います。

次に、第2部会では「様々な教科で授業連携できる図書館をめざして」と題し、一人一台端末の導入によって学校図書館の活用状況の変化を分析し、教科単元一覧表を作成し、教科ごとに学校図書館の計画的な活用を促す取組をご紹介いただきました。各教科や総合学習などで教員と連携し、学校の教科指導力の向上に大きく貢献できるのではないかと感じました。

最後に第3部会では「誰もが利用しやすい図書館をめざして」と題し、アナログ、デジタル双方向から実践を集め、図書館運営の参考になる取組をご紹介いただきました。県下全域に同様の課題を抱えられた学校図書館はたくさんあるように思います。2学期からでもすぐに取り組める様々な実践の紹介は、今大会に参加いただいた皆様にとって、有意義なものになったと思います。

玉野市の学校司書の方には改めまして、日々の積極的な

活動の様子が伝わる多様な取組をご紹介いただきありがとうございました。県下の多くの学校で参考にさせていただける事と思えます。

次に、岡山県高教研学校図書館部会備前支部司書部会の「図書館や本を広くアピールするための取組み」です。各校で学校司書が図書委員会の生徒と共に、日々工夫を凝らしながら、図書館の利用者を増やす取組を行っているかがよく伝わる内容でした。すべての学校の実践を取り上げられないことをお断りした上で、何点か感想を述べさせていただきます。

まずは、岡山大安寺中等教育学校の「全校生徒への新着情報発信」は、広報誌のデジタル化を進めようとする学校にはたいへん参考になる取組だと思いました。次に、岡山御津高校の「返却スリッパ」です。本の冒頭部分を返却スリッパに載せることで、次の読書へと誘う工夫は、読書を習慣化させ、さらに本を選ぶ視点を広げるために効果的に思えました。次に、西大寺高校の「味見読書」です。とにかく本を読んでもらいたいという、学校司書の熱い想いが伝わりと共に、本を味見すると言う切り口がとても新鮮でした。即効性のある取組に感じました。次に、岡山操山高校の「図書委員イチオシ！著者ビンゴ」です。図書委員たちが考えてくれた企画であり、読書の幅を広げるだけでなく、図書館の利用活性化に繋がるとも面白い企画であると感じました。そのほか、各学校の工夫をたくさんご紹介いただき、各学校での実情に合った取組を考えると、とても参考になるに違いありません。備前支部の学校司書の皆さんが、互いの実践を紹介し合いながら、生徒と共に図書館活動の活性化にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。

私の勤務する津山高等学校、津山中学校では、毎朝わずか10分ではありますが、朝読書の時間をもって本に触れる機会をつくっておりますが、今回の動画を見させていただいたことで、さらにもう一工夫するためのヒントをたくさんいただけたと感じております。

甚だ簡単ではございますが、以上で私からの講評とさせていただきます。ありがとうございました。

【全体講座】

講師	木下 通子	(社会教育士／司書／オフィスみちねこ代表)
司会者	原田 聖子	(岡山市立高島小学校学校司書)
記録者	福森 静子	(岡山市立吉備中学校学校司書)
	大橋 昭子	(岡山市立芳泉中学校学校司書)

本と人をつなぐ 学校図書館の可能性

オフィスみちねこ代表 木下 通子氏

私は、埼玉県立高校で40年間学校司書として勤務し、今年3月に定年退職。4月に大学の非常勤講師（図書館学）をしながら「オフィスみちねこ」を立ち上げ起業した。最近では『学校図書館を活用した楽しい読書ワーク』（学術出版）を出版し、全国各地で講演活動も行っている。近いところでは、広島の小・中学校の学校司書の研修で講師を勤めたが、学校司書の勤務形態や資格の有無が地域によって大きく異なるという厳しい現状を聞いている。岡山市の学校図書館の実践は私の図書館活動の原点で、岡山でお話できることを感謝している。

1. 学校図書館ってなんだろう

(1) 学校図書館の機能

学校図書館法で規定される学校図書館は、以下の3つの機能を持つと、2016年に策定された学校図書館ガイドラインに示されている。

- 読書センター機能：読書活動や読書指導を推進するだけでなく、学校司書はあくまで資料提供者として、生徒一人ひとりの読書による成長を促すことができるよう、個々へのサービスを重視する。
- 学習センター機能：児童生徒が主体的に学習を進めるために、百科事典の使い方や、各学年に合わせた情報活用方法の体系的な学び、インターネットでの調べ方等のサポートを行う。
- 情報センター機能：探究的な学びを支える正確な情報の活用方法、デマ情報の見分け方、情報の信憑性の判断方法など、正しい情報を見極める能力を養う。

(2) 学校図書館を支える“人”

またガイドラインでは、学校図書館の活動を支える人として、校長は学校図書館の館長と明記されて

いる。自身、埼玉県立浦和第一女子高校で校長や司書教諭等と連携し、学校司書の仕事内容や学校図書館の機能を積極的に教職員にアピール。もともとあった図書館運営委員会を実のある組織に改革し、収集方針や廃棄基準、予算承認のプロセスを整備した。

2. 学校図書館が探究活動に切り込むために

(1) 「探究学習」と「調べ学習」の違い

「探究学習」は、小・中・高それぞれの学習指導要領に明記され、現代の教育において非常に重要な要素となっている。「探究学習」を理解するためには、まず「調べ学習」との違いを考える。「調べ学習」は、情報を調べて整理し、報告することが目的であり、答えが見つかりやすい特徴がある。一方「探究学習」は、自身の問題意識に基づき、答えを求める学習であり、探究のプロセスを重視する。明確な答えが見つからないこともあり、新たな疑問が生まれることで探究が継続するスパイラルを生み出す。「調べ学習」がきちんとできていないと「探究学習」にはならない。「探究学習」の中に「調べ学習」が含まれると考えてもいいだろう。学校図書館が調べることへのサポートを行うことで「探究学習」が深まる。

(2) 学校図書館の機能が活かされる探究のプロセス

探究の最初のプロセスである【課題の設定】は、生徒が与えられたテーマではなく、自身の問題意識から始めるのが理想だが、難しい場合も多い。学校図書館では課題設定を支援しつつ、【情報の収集】・【整理・分析】の段階で中心的な役割を担う。本の探し方、新聞・雑誌記事の検索方法、データベースの活用方法を教え、正確な情報を見分ける力を育て

る。情報の授業ではプログラミングなどが中心になりがちだが、学校図書館は情報の信憑性を判断する方法を教える独自の視点を持っている。そして、情報を調べた際にメモを取る習慣をつけさせることも大切だ。

【整理・分析】では、思考ツールの活用を生徒に教えたい。甲南女子大学の黒上晴夫先生ほか作成の「シンキングツール～考えることを教えたい～」という解説本（講演中では、インターネット上に公開されている短縮版）がある。それには、思考ツールの一覧と、それぞれのツールがどのような思考に役立つかを示す対応表が掲載されており、教師が生徒に適切なツールを選ばせる際に役立つ。思考ツールを解説した動画は、Webサイト「NHK for School」からも、見ることができる。

3. 情報の収集

インターネット上の情報が氾濫する現代において、正確な情報を見分ける能力は不可欠である。

(1) 情報の速さと正確さ

情報の生まれ方と形を分類し比較すると、情報の正確性と速さでは反比例の関係にある。ブログやSNS、ウェブ上の情報は速いが正確性に欠ける場合がある。新聞や雑誌は、複数の記者の目を通して記事が作成されるため、信頼性が高い。学术论文は査読を経ており、書籍は編集者や法律部門による確認が入るため、さらに信頼性が高い。辞書や事典は最も正確な情報源であり、教科書は間違いが許されないため、最上位に位置付けられる。

(2) インターネット記事の情報評価3条件

高校生に対しては、インターネット記事を情報源として評価するための3つの条件を指導していた。

- ①責任を持って書かれている情報か：著者や解説者の情報開示がされているか。引用や参考文献が明記されているか。
- ②最新の情報かどうか：インターネットの情報は更新が速く、情報が消える可能性もあるため、情報の更新日や取得日を記録することが大切。
- ③注意すべきサイト：誰でも書き込みができるサイトや、広告が多いサイト（検索上位に表示されるよう意図的に検索回数を増やしている場合もある）などには注意が必要。

4. 整理・分析

情報の信頼性を確認するためにも、「情報メモ」の活用を習慣化させていた。どのような情報源からでも、1つの情報につき1枚のメモを作成する。このメモには、情報源、日付、内容などを記入し、レポート提出時には必ず添付させることで、情報の出所を明確にし、正確な情報収集の習慣を身につけさせることを目的としていた。浦和第一女子高校では、「情報メモ」というシートを図書館や各教室に常備した。Googleスプレッドシートを活用した「デジタル版情報メモ」を配信し、探究活動だけでなく、他の教科のレポート提出時にも「情報メモ」を添付する習慣付けをした。また、参考文献の書き方や、奥付の見方、文章のまとめ方なども図書館の範疇として指導していた。

まとめ・表現に関しては、先生方が指導されることが多いが、例えば新聞づくりでも、小学校から参考文献の書き方をしっかり身に付けさせたい。

5. 浦和一女でやったこと

今年3月まで勤務していた浦和第一女子高校では、図書館を活用した学びの体系の構築、開館案内や蔵書検索、電子書籍の利用、図書館ブログなどの情報を一元化した図書館ホームページの開設、電子書籍の導入、埼玉市の図書館との連携、新聞のデータベースの活用などに取り組んだ。これらの取組を通じて、図書館がICTを活用した探究学習の支援拠点となることができている。

6. 学校図書館へ期待すること

学校司書が配置されている地域では、学校司書が中心となって、出版社、作家、書店、公共図書館など、さまざまな機関をつなぐ役割を果たすことができる。埼玉県「高校図書館司書が選んだイチオシ本」という活動は、学校司書が選んだ本を複数の書店や図書館で展示することで注目を集め、地元の出版社も巻き込むことができた。この活動は、学校司書が本のプロであり、その専門性をアピールする絶好の機会だと考えている。この活動は、学校司書の雇用を守るという目的から始まったが、中高生に読書の楽しさを伝えるという路線に切り替えること

で、大きな成果を上げることができた。また、金原瑞人さん（岡山市出身）や三辺律子さんらが始めた「10代が選ぶ海外文学大賞」も、全国の学校図書館が参加できる素晴らしい取組だ。10代の投票で受賞作が決まるこの企画は、若者と本をつなぐ良い機会になっている。岡山の小・中・高校もぜひ参加してほしい。

7. 図書館が学校のハブに！

多くの学校で「探究学習」が十分に実践できていない現状があるかもしれない。しかし、次期学習指導要領で「学校裁量の時間」が導入されることにより、学校が独自にカリキュラムを組めるようになる。この裁量時間に、学校図書館が「探究学習」の軸として積極的に関わっていくことが重要。地域との連携も「探究学習」を進めるうえで不可欠な要素である。学校司書が積極的に外部とのつながりを持ち、その役割や価値をアピールすることが、図書館を活性化させ、教育全体の質を高めることにつながる。いっしょに頑張りましょう。

質疑応答（参加者アンケートから）

Q. 講座で説明された実践以外に、具体的に図書館を使ってもらうためのアピールや探究学習につながる実践があったら教えてほしいです。

A. 年度始めの職員会議で、図書館から活動報告をされている学校は多いと思います。その時に活動報告だけでなく、具体的な利用案内もしていました。特に自分が力を入れていることを伝えます。たとえば、「ブックトークできます」でもいいと思います。

また、転勤してきた先生には、図書館のオリエンテーションをして、図書館ができるサービスをお伝えしていました。もともからいる先生より、新しい先生をターゲットにして図書館利用を呼びかけた方が、ヒット率が高いです。

第71回読書感想文岡山県コンクール

I 日程

- 6月12日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議
- 9月26日(金) 応募締め切り(必着)
応募先・事務局
*小・中・・・岡山市立西大寺中学校
佐藤 恵作
*高校・・・岡山県立倉敷南高等学校
平松 玲子
- 10月8日(水) 第1回合同審査会
～
《審査期間》
- 10月24日(金) 第2回審査会(最終審査)
〈小学校・中学校・高等学校 校種別〉
- 12月26日(金) 表彰式

- 横田 里花 瀬戸内市立牛窓西小学校
國分 崇弘 瀬戸内市立牛窓西小学校
清水 希美 瀬戸内市立裳掛小学校
佐藤 綾子 倉敷市立茶屋町小学校
徳田 楓花 倉敷市立老松小学校
濱田千賀子 倉敷市立第一福田小学校
岩崎 久代 倉敷市立郷内小学校
佐伯 彩圭 倉敷市立乙島東小学校
嘉陽 礼子 倉敷市立二万小学校
片田なつめ 総社市立総社中央小学校
妹尾 直美 総社市立総社北小学校
岩瀬由利子 笠岡市立新山小学校
中山 晶年 笠岡市立新山小学校
別所 進一 高梁市立福地小学校
大森 雪乃 新見市立本郷小学校
石野 哲郎 新見市立本郷小学校
山崎 瑞貴 津山市立高倉小学校
影山 典子 鏡野町立奥津小学校
西浦 桃花 美咲町立加美小学校
嵯峨あずさ 美作市立勝田小学校
畑 絢二郎 美作市立美作中学校
松永みどり 倉敷市立玉島東中学校
藤本 久美 倉敷市立南中学校
奥道 啓介 赤磐市立桜が丘中学校
多田 明香 高梁市立高梁中学校
上田 美樹 岡山市立上道中学校
富岡 直樹 岡山市立上南中学校
中谷 省吾 玉野市立日比中学校
佐藤 恵作 岡山市立西大寺中学校
検崎 亮 岡山市立瀬戸中学校
原 彩乃 創志学園高等学校
植田 恵理 岡山商科大学附属高等学校
福森 裕加 岡山理科大学附属高等学校
中尾 祐介 岡山白陵高等学校
今井 琢登 岡山県立岡山大安寺中等教育学校
小河原 碧 岡山県立矢掛高等学校
中村 文音 倉敷翠松高等学校
室井 純也 岡山県立高梁高等学校
岡 睦子 倉敷市立真備陵南高等学校
谷本 美和 岡山県高梁市立松山高等学校

II 県審査委員

審査委員長 (SLA 会長)

森田 保志 岡山県立玉島高等学校長

審査副委員長

相原 洋 毎日新聞社岡山支局長

審査副委員長 (SLA 副会長)

藤井 省吾 岡山県立倉敷天城高等学校

野崎 尚子 岡山市立灘崎小学校

川原 悦子 岡山市立光南台中学校

審査委員

- 神尾 媛乃 岡山市立津島小学校
山崎由里佳 岡山市立津島小学校
森本 辰麻 岡山市立平津小学校
山本 美和 岡山市立足守小学校
鈴木 房子 岡山市立足守小学校
大石 亜依 岡山市立宇野小学校
藪地 春香 岡山市立富山小学校
守谷江里子 岡山市立山南学園
小方 翔太 岡山市立山南学園
高樋 啓太 岡山市立芳泉小学校 ひばり分校
延原 郁恵 赤磐市立豊田小学校
佐々木ヒサ子 吉備中央町立加賀東小学校
原瀬 真琴 吉備中央町立加賀西小学校

Ⅲ 岡山県指定図書

学年向	書名（シリーズ） 著者名	発行所
小 (低)	まねをしました すず きみえ	文研出版
	かみさま、いっしょうのおね がい！ とい よしひこ	国土社
	シロツメクサはともだち 鈴木 純	ブロンズ 新社
小 (中)	たい焼き総選挙 新井 けいこ	あかね 書房
	きみは、ぼうけんか シャフルザード・シャフルジェ ルディー	ブロンズ 新社
	クラゲのくらし 水口 博也	少年写真 新聞社
小 (高)	おおなわ跳びません 赤羽 じゅんこ	静山社
	ダンス★フレンド カミラ・チェスター	小峰書店
	見えない壁だって、越えられる。 クライマー 小林幸一郎の挑 戦 高橋 うらら	金の星社
中 学 校	15歳の昆虫図鑑 五十嵐美伶	講談社
	アフェイリア国とメイドと 最高のウソ ジェラルディン・マコックラン	小学館
	これから大人になる アナタに伝えたい10のこと サヘル・ローズ	童心社

2) 特別賞受賞者（最優秀賞受賞者）

岡山県知事賞

岡山県立倉敷南高等学校 加藤 愛理

岡山県議会議長賞

倉敷市立西阿知小学校 安田 羽奏

岡山県教育委員会教育長賞

岡山県立岡山大安寺中等教育学校 北村 文乃

岡山商工会議所会頭賞

岡山市立芥子山小学校 濱崎 陸

岡山市長賞

岡山市立東疇小学校 天田 燈真

岡山県読書推進運動協議会会長賞

浅口市立寄島学園 原田 蒼生

笠岡市立城見小学校 岩尾 柚希

岡山県立岡山朝日高等学校 原田桃々子

毎日新聞社岡山支局長賞

岡山市立妹尾小学校 服部 樹

津山市立高野小学校 森安 優

岡山理科大学附属中学校 山川 千穂

岡山県学校図書館協議会会長賞

里庄町立里庄西小学校 天崎 侑良

矢掛町立矢掛中学校 室 美空

岡山市立石井小学校 片岡 紗奈

3) 全国コンクール入賞者

サントリー奨励賞

岡山市立妹尾小学校 服部 樹

Ⅳ 結果

1) 応募作品数・応募校数

区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度
小学校低学年	4,226 編	3,295 編	2,708 編
小学校中学年	7,057 編	5,837 編	5,209 編
小学校高学年	7,398 編	6,032 編	5,260 編
中学校	18,391 編	14,591 編	12,193 編
高等学校	9,593 編	9,181 編	8,751 編
計	46,665 編	38,936 編	34,121 編
応募校数	554 校	562 校	543 校

優良図書研究部会

1 活動内容

当部会では、5月（2回）、7月、8月、9月、11月、1月、2月の年8回、県立図書館の御協力において、新刊図書の中から、小学校・中学校の児童・生徒のための「おすすめの本」を選定しています。

研究員は、小学校（低・中学年、高学年）と中学校の3グループに分かれ、下記の選定基準に沿って、また、過去の傾向や、価格面、ページ数、字の大きさなど、いろいろと配慮しながら、それぞれのグループで意見交換した上で選定作業（書評の記入等）をすすめています。

ただ、インターネットの利用拡大に伴い、本の現物が少なくなっている現状もあります。そのため、選定月により新刊本の出版数に多い少ないがあり、また、学年によっては、分類が偏る傾向があるなど、年間を見通した選定も必要となります。

長期休業中を利用して、児童・生徒に「こんな本を読んではどうですか」と、お勧めの本も紹介しています。このお勧めの本は、読書感想文のための本とは限らず、各学年に応じて、読んでもらいたいという本の最新刊をそれぞれ選定しています。

これは、それまでの各月の選定図書の中から選ばれ、夏休みと冬休み前に、県下の小・中学校に「みなさんにすすめたい本」として、本の書評をつけて、配布しています。（カラー版ではないのが残念ですが…）

岡山県青少年読書感想文コンクールでは、岡山県独自のものとして、昭和55年から指定図書を設けていますが、ここでも、当部会の選定図書をもとに、毎年3月、岡山県指定図書選定委員会が県立図書館にて開かれ、優良図書として選定された本も含めた中から、小学校の低・中・高学年と中学校向けに、3冊ずつを選んでいきます。

この研究部会の活動が、県下の小・中学校の児童・生徒の読書、先生や保護者の方々の読書指導の道標として、今後も、より効果的に機能するように活動していきたいと考えています。

2 選定基準

(1) 内容事項

- ① 教育課程によく合っていて、その内容を豊かにするものであるかどうか。
- ② 子どもたちが、興味をもって読め、小（低）、小（中）小（高）、中学生の発達段階に合ったものであるかどうか。
- ③ 分かりやすく、正確で、現代の進歩に合っているかどうか。

イ) 統計は正確で、調査年度、出典が正確であるかどうか。

ロ) より新しい知識であり、新研究であるか、新しい方法であるかどうか。

ハ) 事実の叙述は、科学的に正確で、实际的であるかどうか。

ニ) 引用文、挿し絵、写真、図表などは、正確、鮮明、適切であるかどうか。

ホ) 翻訳は原意を伝え、分かりやすく、原著者、年代、原著書が明記されているかどうか。

ヘ) 断片的な知識でなく、体系的にまとまりのあるものであるかどうか。

④ 主題を単に解説したものはとりあげない。

(2) 編集・出版事項

- ① 短編集は採用しない。
- ② 多くの合さんのものは採用しない。
- ③ 新刊書であること。
- ④ 辞典、事典類は採用しない。
- ⑤ シリーズ全巻を対象としない。

(3) 図書群の構成事項

- ① 特選図書全体を通して、ある分類ばかりに偏り過ぎない。できるだけ広い分野で考慮する。
- ② 小（低）、小（中）、小（高）、中学生向けのバランスを考慮する。

(4) 装丁・体裁事項

- ① 製本、外観、大きさが適切で、書誌的体裁が整っているか。
- ② 用紙は上質、印刷は鮮明、色彩は美しく、字の大きさ及び行間の余白が適切であるか。

3 優良図書研究会部員

部会長：野崎 尚子 岡山市立灘崎小学校校長
事務局長：黒石 浩史 岡山市立興除小学校教諭
研究部員：

〈小学校の部〉

木下由布子 岡山市立陵南小学校主幹教諭
小野 桂子 岡山市立石井小学校指導教諭
濱本 彩 岡山市立西大寺南小学校司書

〈岡山県立図書館〉

竹内 英里香 岡山県立図書館司書

〈中学校の部〉

藤本 久美 倉敷市立南中学校教諭
土師 知子 岡山市立高松中学校司書

令和7年7月

みなさんにすすめたい本

岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい夏休みがやってきます。みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこうていかくねん せ

小学校低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税抜)
913	作：葦原 かも 絵：高橋 和枝	山の学校 キツネのとしょいいん	講談社	96ページ 1,500円

としょいいん かしだし
図書委員は、貸出カードについているバーコードを、“ピッ”とよみとります。ある日キツネの子が、その、ことりの声こえみたいな「ピッ」をやってみたいとやってきて…。山のふもとのえのきえのき小学校の司書ししょのかえでさんと、子どもたちとキツネのリンくんの心こころ温まるお話しです。



E	作：ソン・ウンミ 絵：アン・ソンソン 訳：わたなべなおこ	なんでもなおします！ かたつむりびょういん	パイ インター ナショナル	48ページ 1,500円
---	------------------------------------	--------------------------	------------------	-----------------



もり はたら もの
森に働き者のアリの夫婦ふうふがいました。ある時、人間のいじわるな子どもがアリの夫婦を踏んづけてペしゃんこにしてしまいます。夫婦の息子は両親ふたごをなんとか病院びょういんへ運びました。病院のせんせいせんせいは、あの手てこの手てで治療法ちりょうほうを試こころみます。果たしてアリの家族は…。虫むしのイラストがかわいい韓国かんこくの絵本えほんです。

913	写真：岡田光司 文：岡田康子	ひこうきが しゅっぱつします	文研出版	40ページ 1,500円
-----	-------------------	----------------	------	-----------------

ひこうじょう はたら
飛行場で働くプロの人たち、「グランドハンドリング」を知っていますか？
かれらは、飛行場に飛行機ひこうきが到着とうちやくしてから再び出発しゅっぱつするまで、時間通りに作業さぎょうをして、飛行機ひこうきに乗る人の安全あんぜんを守っているのです。



小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税抜)
913	文：いまた あきこ 絵：南波 タケ	や・い・ろ・の	文研出版	112ページ 1,400円



都会の小学校に転校した大樹。クラスメイトからなまりをバカにされ、人前で話すことがこわくなった大樹は、友だちもできずにさみしい毎日を過ごしていた。ある雨ふりの放課後、大樹は竹やぶの中にたたずむ不思議な建物を見つける。看板には『や・い・ろ・の』と書いてあり、そこには陰陽師おんみょうじといわれる老人がたたずんでいた…。

933	著：リリアン・ムーア レオーネ・アデルソン 訳：小宮 由 絵：kei saito	マイヤーさんと 大きくなりすぎた犬	さ・え・ら書房	96ページ 1,500円
-----	---	----------------------	---------	-----------------

ノディンさん一家にやってきた、かわいい子犬、バターボール。小さかったバターボールは、どんどん大きくなってノディンさんたちを困こまらせてしまうことに。ある日、とうとう犬の捕獲人マイヤーさんがやってきました。一度、マイヤーさんに連れていかれた犬は、もう二度と会えないのです！いったい、バターボールは、どうなってしまうのでしょうか？人と犬が心をかよわせる、楽しくて、心こころ温まる物語。



538	作：A.ボンドー＝ストーン &C.ホワイト 絵：L.ケンセス 訳：千葉 茂樹	宇宙でウンチ みんなの知らない 宇宙トイレのひみつ	あすなる 書房	32ページ 1,500円
-----	---	------------------------------	------------	-----------------



人間ならだれでもがまんでできない「ウンチ」。では、無重力の宇宙空間うちゅうくうかんでウンチをしたくなったらどうすればいいの？科学者かがくしゃたちは、思いもかけない難問なんもんに頭あたまをかかかかえることに…。宇宙空間うちゅうくうかんに「快適なトイレ」を作るには、どうすればいいのか？世界中せかいじゅうの科学者たちが、知恵ちえとアイデアけつしゅうを結集うちゅうして宇宙トイレかいほつを開発していく！

小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格（税抜）
913	作：吉野万理子 絵：黒須高嶺	白い虹を投げる	Gakken	232ページ 1,600円

同じ野球チームでがんばっていた、ヤヤと葉央。ヤヤは転校してから新しいチームになじめず、残された葉央はメンバー不足で試合ができない。ふたりはメールを送り、たがいに励まし合う。そんな中、「キャッチボールクラシック」という大会を知り、ヤヤと葉央はそこで再会することを誓うが…。



953	著：アントニオ・カルモナ 訳：加藤 かおり	サヨナラは言わない	小学館	256ページ 1,600円
-----	--------------------------	-----------	-----	------------------



12歳のエリーズのパパはフランス人、ママは日本人。4年前にママが死んでからパパは心を閉ざし、たくさんのルールを作った。家で日本語をしゃべるのは禁止。日本のアニメを見るのも禁止。そんなある日、突然日本からソノカおばあちゃんがやってきて…！大切な人を失った悲しみを乗り越え、前向きに未来へと進んでいく家族の姿を描いた喪失と再生を描く物語！

369	著：舟崎 泉美	もしも明日、 ぼくの足がなくなったら	Gakken	192ページ 1,300円
-----	---------	-----------------------	--------	------------------

自分の足を失う…。それは、ありえなそうに思えて、誰にでも起こり得ること。さまざまな理由で足を失い、車椅子や大腿義足、下腿義足、股義足になった5人が、どのようにして現実を受け入れ、どんな苦勞をして、どんな生活をしているのか、その真実に迫る心を揺さぶるノンフィクション。



中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税抜)
913	著：トナミゲン 絵：カシワイ	地球一家が、おじゃまします。	G a k k e n	256ページ 1,100円



ごくふつうの地球人一家が、地球によく似た「第二地球群」をめぐる旅に出た。でも、行く先々の星で出会う人々や、その習慣、価値観は何から何まで奇妙。とにかく今までの常識と違うことだらけ。驚き、とまどいながらもその星のやり方に従って生活していくうちに、自分自身が、思い込みや物事の一面しか見えていなかったことに気が付き始めて…。果たして、それは、夢なのか現実なのか？

933	著：キャサリン・ランデル 訳：佐藤 志敦	屋根の上のソフィー	岩波書店	286ページ 2,300円
-----	-------------------------	-----------	------	------------------

19世紀末。赤ん坊のころに難破船から助け出されたソフィーは、学者のチャールズに育てられた。ロンドンで12歳になった彼女は、母の記憶と形見のチェロケースを手がかりにパリへ。そこで屋根の上を住处とする子どもたちと出会って…。切ないほどの愛と勇気を、音楽がいろどる冒険物語。



913	著：小前 亮 絵：中島 花野	江戸を照らせ 蔦屋重三郎の挑戦	小峰書店	253ページ 1,700円
-----	-------------------	--------------------	------	------------------



十八世紀後半、華々しい江戸の出版業界の中心には、いつもこの男がいた！その男の名は、蔦屋重三郎。貸本屋から商売をスタートした重三郎は、さまざまな才能に出逢いながら江戸の出版界でめきめきと頭角をあらわしてゆく。幕府の方針に翻弄されながらも粘り強く、そしてしたたかに、江戸の人々を楽しませることに生涯を賭けた、蔦屋重三郎の謎を秘めた生涯に迫る歴史ストーリー。

みなさんにすすめたい本

岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい冬休みがやってきます。学校図書館協議会では、みなさんにおすすめしたい本を選びました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこうていかくねん せ

小学校低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税抜)
E	作/由美村 嬉々 絵/森 みどり	おばあちゃんのあおいバラ	ポプラ社	32ページ 1,500円

ゆいのおばあちゃんは、新しい品種のバラを作り出す仕事をしています。そんなおばあちゃんの夢は、「青いバラ」を作ること…。みんなに不可能と言われている「青いバラ」を作る夢を、あきらめずにかねえようとするおばあちゃんと、それを応援する孫の物語です。



913	有田 奈央/作 クレーン 謙/絵	モンスターファミリー	PHP 研究所	80ページ 1,300円
-----	---------------------	------------	---------	-----------------



モンスターファミリーは、モンスター界の王さまから命令されて、人間の世界に住むことになりました。王さまから言われたのは、人間界のようすを観察して報告すること。そして、人間界にやってきたモンスターの中で悪いことをするモンスターをつかまえること。モンスターには、おでこに★のしるしがあって、変身して人間の姿になることができるのです。

E	藤原ヒロコ/作・絵	ぼくたちのいえ	文研出版	32ページ 1,500円
---	-----------	---------	------	-----------------

ぼくが家の絵をかくと、12の生きものがやってきて家に招待してくれます。左ページは実際の生きものの「家」。右ページはその家に「ぼくが住んだら…」と空想が広がっていきます。リアルとファンタジーの世界を歩き来しながら、生きものたちと出会えます。



小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税抜)
913	しんや ひろゆき/作 しんや ゆう子/絵	ゆうれいは ダイエット中	岩崎書店	128ページ 1,400円

ぼくの^{いえ}家には^{ゆうれい}幽霊が出る。でも、いつも出てくるから、^{かぞく}家族はいつの間にか^な慣れてしまった。まるで^{かぞく}家族の一員^{いちいん}みたい。そんなある日、ちょっと^{はじ}ふつくら^{ゆうれい}し始めた幽霊から、^{しんけん}真剣に^{かた}ダイエットのやり方^{そうだん}を相談されて…。



E	マリー・ハリス/文 ヴァネッサ・ブランドリー=ニュートン/絵 日高 杏子/訳	色がきこえる おんなのこ	玉川大学出版部	32ページ 1,800円
---	--	-----------------	---------	-----------------

ジリアンは、この^{せかい}世界を^{ごかんぜんぶ}五感全部で楽しんでます。音を聞くといろいろよみがえる^{とくべつ}特別な^{かんかく}感覚をもっているのです。どんな音がどんな色に見えるのでしょうか。ある日、学校でジリアンが^{かな}悲しくなってしまう^{じけん}事件が起きてしまいます。



407	セシル・ジュグラ/文 ジャック・ギシャール/文 ローラン・シモン/絵 山本 萌/訳	はじめてのサイエンス しお	NHK 出版	32ページ 1,400円
-----	--	------------------	--------	-----------------

キッチンにある^{しお}塩について、あなたはどれだけのことを知っていますか。「^{しお}塩の^{けっしょう}結晶をつくる」「^{かいすい}海水から^{しお}塩をぬく」「^{しお}塩で^{かざん}火山をつくる」—など、お家でできる^{うち}実験がたくさん^{しょうかい}紹介されています。あなたもサイエンスを楽しんでみませんか。



小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格（税抜）
913	鯨井 あめ/著	消えゆく街の秘密の友だち	PHP 研究所	192ページ 1,300円

地図を開けばふしぎの街に行ける。迷っても立ち止まっても大丈夫。心にじっと耳をすませ続ければ、いつか自分の本当の気持ちは聞こえてくる。ここで出会ったラッタッタが小晴の一番の理解者なのに、大人になるためにお別れしないとイケない。



933	マーカス・セジウィック/作 野沢佳織/訳	ヨークシャー丘の幽霊	徳間書店	160ページ 1,600円
-----	-------------------------	------------	------	------------------



少年ジェイミーは、家族旅行でヨークシャーに来ていた。でも、家族の心はばらばら。家族はそれぞれ問題を抱え、うまくいっていない。そんなジェイミーは、ハイキングの途中、自分の先祖だという女の子の幽霊に出会い、「ある男の子を助けてほしい」とたのまれる。女の子の幽霊についていったジェイミーが知った、自分に関わる驚くべき事実とは…。

489	たけたにちほみ/文 坂口友佳子/絵 川田伸一郎/監修	まぼろしの動物 ニホンオオカミ 小学生、なぞのはくせいの正体を追う	Gakken	144ページ 1,500円
-----	----------------------------------	--------------------------------------	--------	------------------

かつて日本に生息し、100年以上前に絶滅したニホンオオカミ。多くがなぞにつつまれているまぼろしの動物です。絶滅動物が好きな日菜子さんは小学生のとき、博物館の施設でニホンオオカミに似たはくせいを見つけます。周囲の大人の力も借りて調査を開始。ミステリーのようにはくせいのなぞをさぐりつづけ、調査の結果を論文にまとめあげます。



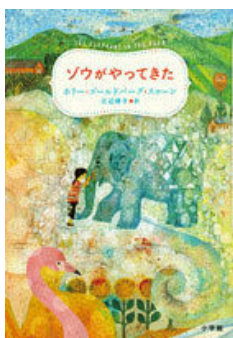
中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税抜)
913	橋長あこ/作 かわいちひろ/絵	さくら前線急上昇!! 高校受験で大逆転!!	文研出版	200ページ 1,600円

ある日、桜並木を歩く自分とそっくりだけ見たことのない制服をきた少女の夢を見た、中学2年生のさくら。幼馴染にフラれ、「見返してやりたい!」と一念発起し、夢の女子高を目指すことにする。受験で大逆転すべく、さくらの奮闘が描かれたお話。果たしてさくらは合格することができるのか?



933	ホリー・ゴールドバーグ・スローン/作 三辺律子/訳	ゾウがやってきた	小学館	264ページ 1,700円
-----	------------------------------	----------	-----	------------------



宝くじを当てて莫大なお金を手にした老人ジオは、偶然であった少女シラのために、サーカスのゾウを買い取って庭で育てることになる。「こんな大きな動物、はじめてみた」シラはゾウのヴェーダと出会った。広大な土地に高い塀を築き、大きなゾウを飼うのは、とても大変なことであり、わくわくすることでもあった。奇想天外な設定の痛快エンターテインメント。

302	高橋 真樹/著	もしも君の町がガザだったら	ポプラ社	295ページ 1,800円
-----	---------	---------------	------	------------------

占領、封鎖、爆撃、飢餓…。あらゆる人道的危機に苦しみ続けるパレスチナ。ガザやヨルダン川西岸地区に一体何がおきているのか、なぜこんな事態になってしまったのか、私達に何ができるのか。パレスチナの地をめぐる歴史を紐解きながら、パレスチナのことを知っていく。世界から「無関心」がなくなることを願いながら。



指定図書選定委員会

令和8年3月3日(火)、岡山県立図書館において、指定図書選定委員会を開き、令和8年度第72回青少年読書感想文岡山県コンクールの「県指定」図書を選定した。来年度4月に発表される全国コンクールの課題図書と照合し同作品が課題図書となった場合は、候補作の中の優先順位の高い作品から選定する予定である。

指定図書選定委員

県SLA会長	森田 保志	岡山県立玉島高等学校
副会長	野崎 尚子	岡山市立灘崎小学校
〃	川原 悦子	岡山市立光南台中学校
小教研事務局長	藤田 雪絵	岡山市立灘崎小学校
〃	黒石 浩史	岡山市立興除小学校
中教研事務局長	佐藤 恵作	岡山市立西大寺中学校
中教研事務局長補佐	検崎 亮	岡山市立瀬戸中学校
県SLA事務局長	武部 和範	岡山県立玉島高等学校
アドバイザー	田甫 健一	岡山県教育庁義務教育課
選定委員	木下由布子	岡山市立陵南小学校
〃	小野 桂子	岡山市立石井小学校
〃	濱本 彩	岡山市立西大寺南小学校
〃	竹内英里香	岡山県立図書館
〃	藤本 久美	倉敷市立南中学校
〃	土師 知子	岡山市立高松中学校

岡山県指定図書について

1 内容

読書感想文コンクールの自由読書と課題図書の他、岡山県独自の応募区分「県指定」を設ける。

2 目的

- (1) 岡山県の状況に応じた読書普及を推進する。
- (2) 何をどう読ませるか、図書の選択や読書指導の手がかりにする。
- (3) よりよい図書をより多くの子どもたちに読ませ、読書生活を豊かにさせる。
- (4) 岡山県優良図書選定委員会の選定した図書の有効活用を図る。

3 方法

- (1) 岡山県指定図書は、指定図書選定委員会を設けて協議し、決定する。
- (2) 岡山県学校図書館協議会優良図書研究部会の選定した図書などから選定する。
- (3) 冊数は、小学校低学年3点、小学校中学年3点、小学校高学年3点、中学校3点とする。

4 その他

- (1) 字数、用紙、応募作品、出品数、締め切り、送付先、審査、その他の注意事項については、他の区分の応募要項に準ずる。
- (2) 全国コンクールの応募については、自由読書と一緒にして再度審査し、規定どおり出品する。
- (3) 岡山県指定図書は、昭和55年度(第26回)から設けている。

令和7年度岡山県指定図書(県指定)

学年向	書名(シリーズ) 著者名	発行所
小(低)	まねをしました すず きみえ	文研出版
	かみさま、いっしょうのおねがい! とい よしひこ	国土社
	シロツメクサはともだち 鈴木 純	ブロンズ 新社
小(中)	たい焼き総選挙 新井 けいこ	あかね 書房
	きみは、ぼうけんか シャフルザード・シャフルジェ ルディー	ブロンズ 新社
	クラゲのくらし 水口 博也	少年写真 新聞社
小(高)	おおなわ跳びません 赤羽 じゅんこ	静山社
	ダンス★フレンド カミラ・チェスター	小峰書店
	見えない壁だって、越えられる。 クライマー 小林幸一郎の挑 戦 高橋 うらら	金の星社
中学校	15歳の昆虫図鑑 五十嵐美伶	講談社
	アフェイリア国とメイドと 最高のウソ ジェラルディン・マコックラン	小学館
	これから大人になる アナタに伝えたい10のこと サヘル・ローズ	童心社

岡山県学校図書館協議会司書部会 活動報告

1. 令和7年度岡山県学校司書研修会（美作大会）

日 時：令和7年7月30日（水）13:00～16:00（受付12:30～）

Web会議システム（Zoom）によるオンライン開催（高校美作支部・理事会による運営）

内 容：当日は、県南の沿岸部に避難指示が出される状況下であったが、予定どおりオンラインにて研修会を開催することができた。当日の参加者は252名。

玉野市の実践発表「『今』に寄り添える学校図書館」では、小中学校が三部会に分かれて実施したテーマ別研修の内容について、また、高校備前支部による「図書館や本を広くアピールするための取り組み」では、27校それぞれの実践事例が、事前収録の動画により発表された。

全体講座では、木下通子氏による講演が行われた。「本と人をつなぐ学校図書館の可能性」と題し、探究学習への支援のあり方について、具体的な事例や実践的なアイデアを交えて取組が紹介された。玉野地区および高校備前支部の各校の取組、ならびに全体講座の内容については、参加者から「自校の図書館活動に取り入れたい」との声が多数寄せられた。

2. 令和7年度学校司書実態調査

目 的：学校司書の配置並びに雇用状況と、各地区での活動状況について情報を収集し、まとめた状況を公開する。

※状況部分のみをHPで公開。作成のため収集した情報は、理事会保管とする。

日 程：3月初旬 理事選出支部へEメールを送付して依頼。

4月中旬 支部事務局長へEメールを送付して依頼、支援学校へFAXで依頼。

5～6月 各支部事務局内の各学校に調査依頼・回収・集計。

6月3日 調査結果回収締め切り。

6～7月 まとめ作業、不明な点を確認。

実 態：

- ・岡山市では、正規職員4名の退職後、公共図書館から正規職員3名が転入。小・中学校及び義務教育学校の正規職員は18名（定年延長1名を含む。その他市教委に1名）で1名減になっている。
- ・備前市では、中学校1校で司書が退職して不在になり、司書数が1名減となっている。
- ・玉野市では、小学校2校が1校に統合され、司書数が1名減となっている。
- ・吉備中央町では、小学校9校が3校に統合され、中学校1校と合わせて2名の司書で4校を兼務している。司書数は1名減となっている。
- ・浅口市では、小学校1校と中学校1校が義務教育学校として再編され、兼務（小学校1校）の司書が1名配置された。（昨年度の司書がそのまま配置、兼務の校数が1校減）
- ・総社市では、司書が1名増えたことにより、専任の司書が2名増えた。
- ・高梁市では、小学校2校が閉校、小学校1校と中学校1校が義務教育学校として再編され、専任司書が1名配置された。

- ・ 苫田郡鏡野町では、昨年度不在だった小学校に5校兼務（小学校5校）の司書が1名配置された。
- ・ 久米郡美咲町では、昨年度は小中学校3校に各1名、義務教育学校2校に各2名の司書が公共図書館から派遣されていたが、今年度は学校所属職員として、小中学校3校に兼務の司書が1名、義務教育学校に各1名配置された。
- ・ 英田郡西粟倉村では、昨年度は2校で2名の司書が配置されていたが、今年度は2校で1名の司書配置となり、司書数は1名減となっている。
- ・ 高校備前支部では、昨年まで専任だった私立1校の司書が兼任に、司書不在だった私立1校に兼任司書が配置された。
- ・ 高校備中支部では、市立校1校が閉校になり、私立高校1校で司書が未配置で司書数が2名減になっている。また、公立1校で昨年まで兼任だった司書が専任になり、3校で図書館専任だった司書が兼任になった。合計で専任司書が2名減となっている。
- ・ 高校美作支部では、公立校1校、私立1校で昨年まで専任だった司書が兼任になり、専任司書が2名減になっている。

3. 岡山県SLA司書部会ホームページ

URL： <https://okayamasisho.sakura.ne.jp/>

目 的：学校司書の配置状況ならびに雇用の状況、地区での活動状況、司書部会沿革、司書部会活動状況等を広報するために運営。

内 容：上記の他、学校図書館関連ニュース（新聞記事や議会議事録）、図書館イベント情報（講演会や研修会）、学校司書採用試験情報、司書教諭と学校司書の連携協力による実践事例、学校図書館の活用方法や児童生徒の読書活動に関する情報収集・共有など。

課 題：広く情報収集をしていくことと、その情報を閲覧してもらうこと。情報がありましたら、岡山城東高等学校・司書または、司書部会HP【お問い合わせ】よりお願いいたします。

4. 司書部会理事会

◇第1回理事会 令和7年5月12日 岡山朝日高校にて開催（同時にWeb会議システム）

- ・ 学校司書実態調査について
- ・ 令和7年度岡山県学校司書研修会（美作大会）について

◇第2回理事会 令和7年8月25日 岡山朝日高校にて開催（同時にWeb会議システム）

- ・ 令和7年度活動方針に係る具体的な役割分担について
- ・ 令和7年度岡山県学校司書研修会（美作大会）総括
- ・ 第46回岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）及び今後の大会について
- ・ 学校図書館の充実に関する提案書について

◇第3回理事会 令和7年12月16日 岡山朝日高校にて開催（同時にWeb会議システム）

- ・ 第46回岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）及び今後の大会について

5. その他

◇学校図書館に関する提案書について

提出日：令和7年11月6日（木）

提出先：岡山県教育委員会

①「学校図書館の充実に関する提案書」

内 容：実態調査の結果を踏まえ、以下を提案した。

- ・県下すべての学校で一校一人体制の学校司書の配置促進
- ・学校司書の資質向上のため、継続的な研修とそれに伴う予算措置について

②「岡山県立学校の学校図書館の充実に関する提案書」

内 容：実態調査の結果と県立学校の実情を踏まえ、以下を提案した。

- ・県内すべての県立高等学校における一校一人体制の学校司書配置
(未配置校：鳥城高校・勝山高校蒜山校地)
- ・特別支援学校における学校司書の配置や資料費の確保
- ・会計年度任用職員の事務室との兼任解消、図書館専任化
- ・会計年度任用職員への県のGSEアカウントと端末の支給
- ・美作支部における正規司書の適切な人材配置
- ・県による継続的な研修と県立図書館との連携による学校図書館支援体制の構築
- ・Web蔵書検索システム「LibFinder」の24時間利用可能化

◇理事不在地区の現状に関する聞き取り調査

◇岡山県立図書館との懇談会について

実施日：令和7年11月27日（木）

内 容：県立図書館の学校図書館支援事業に向けて、小・中・高の学校図書館の要望を持ち寄り、意見を交換した。

◇第46回岡山県学校司書研究協議会（岡山大会）について

日 時：令和8年7月30日（木）10:00～15:15（受付9:30～）

会 場：岡山市灘崎文化センター、岡山市ウェルポートなださき

主 題：「ともに考える 情報活用シン時代 ～変わるもの 変わらないもの～」

内 容：司書部会総会（実態調査報告等）・全体会・実践発表（発表は岡山市小・中・高校備中）

※参加費は不要。

令和7年度事業報告

	実施事項	期日	会場	内容
5月	新旧代表役員会及び研修会	5/8(木)	玉島高等学校	・役員の確認 ・総会提出議案の協議
6月	第1回司書部会理事会及び研修会	5/12(月)	岡山朝日高等学校	・学校司書実態調査について ・令和7年度岡山県学校司書研修会(美作大会)について ・各地区情勢報告
	令和7年度総会及び研修会	6/5(木)	玉島高等学校 (白華ホール・第一会議室・図書室)	・令和6年度事業・決算報告 ・令和7年度事業計画・予算案
	第1回支部事務局長会議及び研修会	6/12(木)	玉島高等学校	・総会議決事項報告 ・事務連絡 他
7月	令和7年度岡山県学校司書研修会(美作大会)	7/30(水)	オンライン	・実践発表、全体講座、その他
8月	令和7年度岡山県学校図書館研究大会(勝央大会)	8/19(火)	勝央文化ホール 勝央町公民館	・全体講演会 研究発表など
	第2回司書部会理事会及び研修会	8/25(月)	岡山朝日高等学校	・第46回岡山県学校司書研究協議会(岡山大会)について ・各地区情勢報告
10月	読書感想文コンクール審査準備会及び研修会	10/2(木)	西大寺中学校	・審査会準備
	読書感想文コンクール第1回合同審査会	10/8(水)	玉島市民交流センター	・審査日程・審査基準について
	読書感想文コンクール第2回審査会	10/20(月)	ウエルポートなださき	・小中高別の審査
		10/23(木)	西大寺中学校	
		10/23(木)	倉敷南高等学校	
12月	読書感想文コンクール最終校正会議	12/10(水)	玉島高等学校	・「読書感想文集2025」最終校正
	第3回司書部会理事会及び研修会	12/16(火)	岡山朝日高等学校	・第46回岡山県学校司書研究協議会(岡山大会)について ・学校司書実態調査について ・各地区情勢報告
	読書感想文コンクール表彰式及び研修会	12/26(金)	岡山県立図書館	・表彰式
1月	第2回支部事務局長会議及び研修会	1/15(木)	玉島高等学校	・令和7年度事業中間報告 ・事務連絡 他
2月	代表理事会及び研修会	2/25(水)	玉島高等学校	・令和8年度総会提出議案の協議
	指定図書選定委員会	3/3(火)	岡山県立図書館	・令和8年度青少年読書感想文岡山県コンクールの県指定図書の選定

第1回優良図書研究部会 5/15(木) 岡山県立図書館 ・第1回目の立ち上げの会

第34回中国地区学校図書館研究大会鳥取大会 10月16日(木)17日(金)

令和7年度 岡山県学校図書館協議会支部協議会事業報告書

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
岡山	第1回正・副会長研修会	5月20日(火)	岡山市立旭東中学校	・令和6年度事業報告、決算報告 令和7年度事業計画・予算案等	8名
	総会		紙面総会	・令和6年度事業報告、決算報告 令和7年度事業計画・予算案	
	第1回理事研修会	6月24日(火)	岡山市立旭東中学校	・第71回読書感想文コンクールに向けて	19名
	第71回岡山市読書感想文コンクール 第一次審査会	9月4日(木)	岡山市立宇野小学校	・岡山市二次審査に出品する作品の選考、入賞者作品名簿の作成 ・各区の応募総数の確認、二次審査の審査員の推薦 ・研修テーマの話し合い	32名
		9月3日(水)	岡山市立山南学園		24名
		9月1日(月)	興除公民館		34名
		9月2日(火)	岡山市立津島小学校		35名
		9月2日(火)	岡山市立平津小学校		28名
	第71回岡山市読書感想文コンクール 第二次審査会(市)	9月16日(火)	岡山市立旭東中学校	・特選(県出品)、金賞、銀賞作品の選考	30名
	第2回理事研修会	1月20日(火)	岡山市立旭東中学校	・読書感想文、賞状の仕分け、区別研修会のテーマについての確認	20名
	区別研修会	2月3日(火)	岡山市立宇野小学校	・読書感想文集、賞状等の受け渡し、読書週間の取組について	
		2月10日(火)	岡山市立山南学園	・読書感想文集、賞状等の受け渡し、読書週間の取組について	
		2月13日(金)	興除公民館	・読書感想文集、賞状等の受け渡し、読書週間の取組について	
		1月28日(水)	岡山市立津島小学校	・読書感想文集、賞状等の受け渡し、読書週間の取組について	
		2月10日(火)	岡山市立平津小学校	・読書感想文集、賞状等の受け渡し、読書週間の取組について	
	第3回理事研修会	2月24日(火)	岡山市立旭東中学校	・今年度の反省、次年度への引継ぎ	
	第2回正・副会長研修会	3月9日(月)	岡山市立旭東中学校	・令和7年度事業報告、令和8年度事業計画案	
反省と課題 ・区別研修会は一度しか行わなかった。業務の負担軽減のためもあるが、区ごとにテーマを決めるのではなく、他の区とテーマを合わせるなどして協力を図れるように工夫した。 ・読書感想文コンクールの事務手続きについて、細かな引継ぎと、来年度に向けての準備が必要。主に一人で業務を行っているが、特に名簿・目録作成の際にチェックが足りない。たくさん目で見える必要があるが、人員がいない。協力してくださる方を探す。 ・読書感想文集の名前の記載についてミスが多かった。各学校・事務局のチェックを徹底する。 ・賞状の配布について、書き損じが多かった。各学校に注意喚起する。 ・理事校の輪番表について、現状の流れ等詳細を知っている方が少ない。情報を集めながら、R10年度以降のものも考える必要がある。					
赤磐	小学校主任者会	紙面開催		令和6年度事業報告・令和7年度事業計画等	
	中学校主任者会	5月2日(金)	赤坂中学校	令和6年度事業報告・令和7年度事業計画等	9名
	読書感想文審査会及び研修会	9月12日(金)	赤磐市立笹岡小学校	読書感想文審査・読書感想文についての研修	17名
反省と課題 読書感想文について、実際の作品をもとに読書感想文の書かせ方や感想文の在り方等良い研修の時となりました。					
和気	和気郡読書感想文コンクール審査会及び事務連絡	9月9日(火)	本荘小学校	・読書感想文コンクール和気郡審査会と和気支部の事務連絡	8名
	反省と課題 ・小学校中学校とも、夏休みの課題が縮小傾向にあり、参加者が激減しているが、学校で指導もしないので強制はしにくい。一般企業主催のコンクールを小教研などの単位で審査したり参加したりすることにも時代的にも疑問が出ている。 ・感想文の内容としては、自分の経験に照らし合わせたようなものが少ない。 ・県の審査会では、「意見文になってはいけない、本の内容に即しているべき」という注意があり、本を読んで感じた自分の経験からの意見文と感想文の違いとは何か。学校で課題として取り組むのなら指導の仕方や内容についての研修や周知も必要なのでは。そこまでできないのに、今後そもそもこのコンクールに取り組むのかという意見も出た。				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
備前	第1回 備前市学校図書館部会研修会 並びに司書部会研修会	5月2日	備前中学校	○令和6年度の事業報告、令和7年度の組織作り・事業計画作成 ○各校の情報交換	15名
	第2回 司書部会研修会	6月24日	三石小学校	○人権の本リーフレット作成 ○寄贈本保存の共通理解について	15名
	司書部会研修会<備前ブロック>	7月31日	備前中学校	○ブロック研修：蔵書点検について	6名
	司書部会研修会<三石/吉永ブロック>	8月4日	吉永中学校	○ブロック研修：蔵書点検について	4名
	司書部会研修会<伊里/日生ブロック>	8月6日	日生西小学校	○ブロック研修：蔵書点検について	5名
	国語部会研修会並びに読書感想文審査	小学校の部 9月12日 中学校の部 9月10日	香登小学校 備前中学校	○各校の読書指導情報交換、読書感想文の審査と反省 ○各校の読書指導情報交換、読書感想文の審査と反省	10名 5名
	第3回 司書部会研修会	9月18日	伊里中学校	○人権の本リーフレット作成 ○出版社書影許諾申請 ○連絡・情報交換	15名
	第4回 司書部会研修会	11月11日	吉永中学校	○人権の本リーフレット作成、紹介文の添削 ○連絡・情報交換	15名
	司書部会研修会<小学校ブロック>	12月25日	片上小学校	○ブロック研修：グループ別掲示物作成/次年度研修内容検討/連絡・情報交換	10名
	司書部会研修会<中学校ブロック>	12月25日	吉永中学校	○ブロック研修：図書館システムの共通理解/引き継ぎ内容確認/連絡・情報交換	5名
	第5回 司書部会研修会	2月24日	伊里小学校	○人権の本リーフレット完成に向けて ○連絡・情報交換	15名
反省と課題 (読書感想文審査会より) 小学校 ・特になし 中学校 ・中途半端な枚数(3.5枚～4枚と少し)の出品作品が多数見られた。校内審査の基準の厳格化を望む。 (司書部会より) ・引き続き、市内共通事務及び引き継ぎ事項の共通理解と明文化を必要に応じて行っていきたい。					
瀬戸内	岡山県青少年読書感想文コンクール 瀬戸内支部審査会・研修会	9月11日(木)	瀬戸内市立牛窓北小学校	読書感想文支部審査と審査に係る研修等	17名
	反省と課題 あらすじを中心とするのではなく、自分に引き寄せて、具体的な体験を交えながら感想を書けるように指導していく必要があると感じた。 本を読んだことで自分が変わったとか、本を読んで疑問に思ったことをもう一度本で調べたという児童がいて良かった。				
玉野	玉野市学校図書館協議会総会及び研修会	6月25日(水)	玉野市立宇野小学校	・令和6年度支部事業・決算等報告 ・令和7年度支部事業・予算等報告 ・読書感想文コンクール実施計画	22名
	学校司書研修会	7月30日(水)	玉野市立大崎小学校	・実践発表(オンライン) ・全体講座	20名
	青少年読書感想文コンクール支部審査会 及び研修会	8月21日(木) 9月12日(金)	玉野市立東児中学校 玉野市立宇野小学校	・今後の学校図書館事務について ・小学校低・中・高学年で各類型ごとに審査	22名 17名
	学校司書研修会	9月11日(木) 11月20日(木)	玉野市立宇野中学校 すこやかセンター	・中学校各類型ごとに審査 ・研究集録について	13名 22名
		2月24日(火)	玉野市立築港小学校	・学校図書館に関する調査・研究集録について(予定)	22名
	反省と課題 ・読書感想文コンクールの審査や、そのために必要な研修は効果的にできている。 ・学校司書研修会については、司書の資質能力の向上に寄与している。今年度も、学校DXの流れを受けて研修をオンライン実施で行うことが多く、効果的に行うことができた。 ・今後、学校再編が進んでいくので、会のもち方について検討する必要がある。				
加賀郡	・第1回研修会	5月1日(木)	加賀中学校	・読書感想文の書き方指導等についての研修	9名
	・岡山県学校図書館研究大会 勝央大会	8月19日(火)	勝央文化ホール	・実践発表・他行の発表についての研修	5名
	・第2回研修会	9月8日(月)	加賀南小学校	・読書感想文全国コンクール支部審査会 ・読書感想文の書き方指導等についての研修	9名
反省と課題 ・今年度は、町内の小学校の統合1年目ということで、審査の仕方も今後に向けて協議しながら進めていった。 ・図書館研究大会に参加し、町内の各校と活動の共有をしたり、町外の他校の実践を知ったりすることができた。 ・研修会では、感想文の書き方の研修や読書感想文の審査会など充実した活動ができた。					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
倉敷	学校図書館協議会第1回理事会	7月 2日(金)	倉敷市立西中学校	協議	27名
	学校図書館協議会総会	7月 3日(金)	書面開催	協議	186名
	夏季研修会	8月 3日(金)	倉敷健康福祉プラザ	研修	140名
	読書感想文コンクール倉敷東地区審査(小)	9月 1日(月)	庄小学校	読書感想文審査	14名
	読書感想文コンクール倉敷西地区審査(小)	9月 1日(月)	倉敷南小学校	読書感想文審査	14名
	読書感想文コンクール水島地区審査(小)	9月 2日(火)	連島南小学校	読書感想文審査	13名
	読書感想文コンクール児島地区審査(小)	9月 2日(火)	味野小学校	読書感想文審査	13名
	読書感想文コンクール玉島地区審査(小)	9月 1日(月)	乙島小学校	読書感想文審査	12名
	読書感想文コンクール真備・船穂地区審査(小)	9月 3日(水)	菟小学校	読書感想文審査	10名
	読書感想文コンクール倉敷支部中央審査(中)	9月 9日(火)	ライフパーク倉敷	読書感想文審査	22名
	読書感想文コンクール倉敷支部中央審査(小)	9月 11日(木)	倉敷市立茶屋町小学校	読書感想文審査	30名
	学校図書館協議会第2回理事会	2月 16日(月)	倉敷市立西中学校	協議	24名
	<p>反省と課題</p> <p>総会は、昨年度と同様に書面開催としたが、特段大きな問題はなかった。協議の結果、次年度からも同様に書面開催することで決定した。研修会については、「司書と図書館教育担当の教諭が一緒に研修する場を」という意見も多く、令和9年度研究大会のことも見据え、倉敷健康福祉プラザにて岡山県立岡山南高等学校の畠岡睦美先生をお招きしての研修を行った。読書活動の促進や授業内での図書館活用例の提案としてピブリオバトルの実践もあり、司書と司書教諭とがともに学ぶ時間となった。事後アンケートでは「非常に充実した時間だった」との声も多く、来年に引き継いでいきたいと考える。</p> <p>読書感想文コンクールと読書感想文集については業務の負担軽減を図るため、今年度より小中で業務を分担して行った。事務局の業務が精選され良かった。特に大きな問題もなく、スムーズに業務が行うことができ負担も軽減されたので、今後もこの形で業務分担していきたい。</p>				
浅口	学校図書館教育研究部夏季研修会	8月4日(月)	浅口市立金光竹小学校	講話「子どもの豊かな心を育む 読み聞かせ ～足を運びたいくなる学校図書館に～」 講師 つづきの絵本屋 都築 照代氏	16名
	浅口支部読書感想文審査会	9月5日(金)	浅口市立金光竹小学校	読書感想文審査会を中学部と小学部に分かれて行った。	23名
	浅口支部学校図書館司書連絡会	12月24日(水)	浅口市立寄島学園義務教育学校	学校図書館の環境及び運営についての情報交換を行った。	7名
	浅口支部学校図書館司書連絡会	2月6日(金)	浅口市立六条院小学校	学校図書館の環境及び運営についての情報交換を行った。	5名
<p>反省と課題</p> <p>夏季研修会では、つづきの絵本屋都築照代先生に「子どもたちの豊かな心を育む読み聞かせ」についてご講話いただいた。今を生きる子どもたちに合った様々なジャンルの絵本を紹介していただいたり、読み聞かせのポイントを具体的に教えていただいたりした。学校での教育活動にすぐに生かせる充実した研修だった。</p> <p>支部読書感想文審査会を9月5日(金)に行った。例年10日前後に開催していたようで、中学校からももう少し審査に日数がほしいという意見がでた。小学校は、審査後に感想文の修正の時間が必要なので早い日がよいという意見がでた。今後、中学校と小学校での状況を把握し検討する必要がある。また、新規の審査員が多かったこともあり、全体で審査の手順をよく確認したうえで審査を行う必要があった。</p> <p>各学校の司書が集まり、環境及び運営についての情報交換を行う会を2回行った。図書館のデータ管理の仕方などを確認した。来年度以降、学期に一度の連絡会を予定していく方向になっている。</p>					
笠岡	読書感想文コンクール支部審査会	9月11日(木)	笠岡市立城見小学校	・岡山県読書感想文コンクールの支部審査	19名
	笠岡市教育研修所図書館教育研修部	10月2日(木)	笠岡市立図書館	・市立図書館司書による講話 ・学校図書館の活用について情報交換会	12名
<p>反省と課題</p> <p>・読書感想文コンクールの支部審査については9月11日(木)に実施した。小学校低学年、中学年、高学年、中学校と分かれる事で、スムーズに審査することができた。</p> <p>・笠岡市教育研修所図書館教育研修部は、10月2日(木)に実施した。市立図書館司書により「行ってみたくなる図書館運営」というテーマで講話をしていただいた後、学校図書館の活用について情報交換会を行った。本の展示の仕方など、具体的な助言をしていただき、有意義な研修となった。</p>					
小田	小田郡学校図書館協議会(小学校)	5月2日(金)	矢掛町立矢掛小学校	・役員選出 ・今年度の年間計画について	9名
	小田郡学校図書館協議会総会並びに感想文審査会	9月11日(木)	矢掛町立川面小学校	・令和6年度事業報告 ・令和7年度事業計画 ・予算決算報告 ・読書感想文の支部審査会	11名
<p>反省と課題</p> <p>○例年同様の活動を行い、各校の読書推進に関わる取組が共有できた。</p>					
井原	読書感想文支部審査	9月11日(木)	井原市立荏原小学校	・令和7年度の活動計画についての協議	20名
				・井原市学校図書館協議会の役員紹介	
				・支部審査会	
				小学校低学年の部 小学校中学年の部 小学校高学年の部 中学校の部	
		9月下旬～10月上旬	各校	・支部審査会での特選・入選の児童の表彰	
	9月19日(金)		・読書感想文集の注文とりまとめ → 県事務局に申し込み		
	1月19日(月)		・読書感想文集・県出品の賞状等を各校に配付		
	1月下旬	各校	・県審査会での優秀賞・入選・佳作児童の表彰		

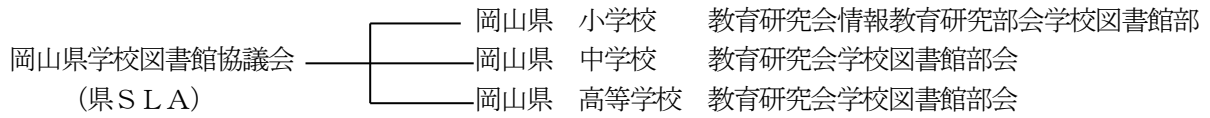
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数	
総社	図書館教育班会					
	第1回図書館教育班会	5月9日(金)	総社中央小学校	年間活動計画の作成	16名	
	第2回図書館教育班会	5月29日(木) 30日(金)	宮脇書店	書籍見本を見て選書会	12名	
	第3回図書館教育班会	6月27日(金)	総社市図書館	市図書館との連携・情報交換	12名	
	第4回図書館教育班会	9月18日(木)	総社中央小学校	岡山県青少年読書感想文コンクール総社支部審査会	22名	
	学校司書部会					
	第1回学校司書部会	7月22日(火)	総社北小学校	蔵書点検・司書の実務について	13名	
	第2回学校司書部会	7月30日(水)	総社中央小学校	司書実務について 令和7年度岡山県学校司書研修会美作大会並びに岡山県学校図書館協議会司書部会(ZOOMによる)オンライン参加	13名	
	第3回学校司書部会	12月5日(金)	池田小学校	探調システムDX3について 読書週間の報告 寄贈図書について	13名	
	臨時学校司書部会	12月18日(木) 19日(金)	山手小学校	山手小学校図書室の移転に伴う図書の選書・移動	13名	
	第4回学校司書部会	2月4日(水)	山手小学校	山手小学校図書室の整備 年間のまとめ	13名	
	反省と課題 図書館教育班会 ・総社市図書館と情報交換を行い、連携を図ることができた。 ・今年度は会場の都合で宮脇書店(総社支店)で選書会を開いた。本の移動の手間が省け、2日間開催できた。 ・読書感想文コンクールへの全体の応募数は減ってきている。市内の先生方の協力により、厳正なる審査によって入賞作品を選出することができた。 司書部会 ・図書室のPCを新しくするにあたり、教育委員会と連携を取りながら、探調TOOL-DXを更新し、その使用について研修を行うことができた。 ・児童生徒の読書活動推進のため、情報交換や研修に努めた。 ・来年度も年4回は司書部会を行い、各校の連携を深め、有意義な研修を行ってきたい。 ・山手小学校の図書室が移設されることになり、市内の司書が集まって図書の選書と移動を行った。急な移設だったが、市内の司書で協力して行うことができた。					
	高梁	研修会	7月7日(月)	高梁総合文化会館	○年間計画の作成・読書感想文コンクールについての説明	19名
		読書感想文コンクール審査会	9月9日(火)	高梁市図書館	○読書感想文コンクール審査	22名
研修会(学校司書部会との合同研修会)		1月30日(金)	高梁市図書館	○講習 (講師)岡山県立図書館 サービス第一課児童資料班 竹内英里香 司書 (内容)読み聞かせの基礎 ○協議 ・部会ごとの情報交換等	22名	
反省と課題 ・第1回研修会は、県協議会からの指示の伝達を中心に行った。コンクールへの積極的参加を呼びかけるとともに、校内審査のあり方や各校から提出される出品目録の記入について、県協議会から指示されたことをもとに各校へ依頼をおこなった。本年度は各校の予定を調整した関係で7月上旬に行ったが、夏期休業の課題として取り組めるように周知することができた。研修会の開催をできるだけ6月中に設定する。 ・第2回研修会は読書感想文コンクールの審査会も兼ねた。 ・第1回研修会において、読書感想文コンクールについての様々な事項や各校での事前審査の基準を確認したことで、校内審査のあり方や書類の提出が適切であった。第1回研修会時に審査の担当学年を決めておいた。そのため、夏休み中に課題図書や指定図書を読んで審査に望むことができ、審査時間の短縮につながった。出品数が以前より減っているが、出品された作品は読み応えのあるものが多かった。 ・第3回研修会は、「読み聞かせの基礎」について研修した。読み聞かせのポイントやコツ、選書について教えていただいた。その後、参加者がグループごとに、各自が選んだ本の読み聞かせを行った。学んだことをすぐに実践に生かすことができた。自身が読み聞かせを体験することで、新たな本と出会ったり、他の参加者の読み方を参考にしたりすることもでき、大変有意義な会となった。						
新見	第1回新見市学校図書館協議会理事会及び研修会	6月30日(月)	正田公民館		9名	
	第1回学校図書館教育担当者研修会	6月30日(月)	正田公民館	令和6年度事業報告、決算報告、令和7年度事業計画、予算計画、第71回読書感想文コンクールについて等	22名	
	読書感想文コンクール支部審査会	9月9日(火)	阿新教育会館	第71回読書感想文コンクール支部審査	22名	
	新見市読書感想文集の原稿作成	12月	各校	支部審査で金賞、銀賞に選ばれた児童生徒の作品のデータ打ち		
	新見市読書感想文集の原稿校正	1月	事務局	新見市読書感想文集の編集及び発行		
	第2回学校図書館教育担当者研修会	2月初旬	阿新教育会館	令和7年度事業報告、決算報告、新見市読書感想文集(第45集)配付、1年間のまとめ等	22名	
	新見市学校図書館教育会計監査	3月初旬	未定	令和7年度会計監査		
	第2回新見市学校図書館協議会理事会及び研修会	3月下旬	未定	令和8年度に向けての計画等	9名	
反省と課題 ・自分事と関連付けようとするも、意見文のように過ぎている作品も多いため、適切なバランスで書かせる指導が必要である。 ・あらずじや場面だけに、フォーカスした感想が多かった。状況の中で使われている「言葉」をとらえ「言葉」の意味(作品の中での意味)を深め自分事とできる感想文の書き方の指導が必要である。						
津山	津山市学校図書館協議会 第1回総会・研修会	6月24日(火)	津山市立図書館	R6年度活動報告・決算報告、R7年度組織体制・活動計画・予算計画についての協議	39名	
	津山市読書感想文コンクール審査会	9月5日(金)	津山市役所東庁舎	津山市内の児童・生徒の読書感想文の審査	38名	
	津山市学校図書館協議会 第2回総会・研修会	1月29日(木)	津山市役所東庁舎	活動の総括 来年度の研究活動の方向性や組織体制についての協議	40名程度	
	反省と課題 ・仕事内容の精選を行うため、データで要項を送り、各校で印刷に変更した。 ・読書感想文に関する応募規定についての徹底を図りたい。					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
苫田	総会・研修会	5月27日(火)	鏡野町中学校	事業・決算報告、事業・予算計画、読書感想文コンクールについての説明、各校の図書館利用について交流	9名
	読書感想文審査会	9月9日(火)	鏡野町中央公民館	小・中読書感想文の審査	10名
	研修会	1月27日(火)	鏡野町中学校	今年度の事業反省、読書感想文審査についての反省、各校の読書活動推進の取組を情報交流	9名
	反省と課題 例年通り読書感想文の審査と各校の取り組みの交流が行えた。支部では、読書活動の推進と負担削減のバランスを考えながら見直しを進めている。				
勝田	勝田郡学校図書館協議会総会	7月中旬	紙面	令和6年度事業報告並びに決算報告 令和7年度事業計画並びに予算案 県学校図書館協議会の報告 読書感想文審査会について	
	勝田郡読書感想文審査会(小学校)	9月9日(火)	勝間田小学校	読書感想文審査	5名
	勝田郡読書感想文審査会(中学校)	9月11日(木)	勝田中学校	読書感想文審査	4名
	反省と課題 ○読書感想文審査会に向けて、各校で読書感想文に取り組むことができた。 ○読書感想文審査会について ・出品数が少なくなってきている。国語の「本を紹介する」単元などと結びつけながら、授業の中で本を読んだり感想を伝えたりする機会を作っていく必要がある。 ・分量が少なく、県に出品しにくい作品も見られた。 ・本を読み、自分の考えを深めたり生き方につながりしている内容もあり、よかった。 ・タブレットの入力が多くなってきており、漢字を正しく書けていない文章もあった。普段から漢字を使うことを習慣づけたい。また、漢字だけでなく、書いた文章を推敲する機会も設けていきたい。				
久米	第1回岡山県事務局会長及び研修会	6月12日(木)	県立玉島高等学校	事務連絡	1名
	久米郡学校図書館協議会総会・研修会	7月11日(金)	久米南中学校	令和6年度事業報告・決算報告、令和7年度事業計画・予算案審議、読書感想文の応募についての確認	10名
	第56回岡山県学校図書館研究大会(勝央大会)	8月19日(火)	勝央文化ホール勝央町公民館	講演、分科会	15名
	久米郡読書感想文審査会	9月8日(月)	久米南町コミュニティセンター	読書感想文支部審査(小学校、中学校)	12名
	第2回岡山県事務局会長及び研修会	1月15日(木)	県立玉島高等学校	事務連絡	1名
反省と課題 ・今年度の読書感想文審査会に出品された作品は、誤字や改行ミスが少なかった。あらすじの記述も短くなり、自分の経験や思いを踏まえて書かれたものが多かった。昨年度の実行が指導に生かされている。 ・原稿用紙の書き方のルールについては、今少し指導が必要である。 ・小・中学生とも課題図書・指定図書を読んだ子どもが少なかった。 ・AIを利用して書いた作品かどうか判別しにくく、審査が難しくなった。					
真庭	総会及び研修会	7月4日(金)	久世公民館	前年度事業報告、今年度役員選出、事業計画、予算案協議	27名
	読書感想文支部審査会	9月9日(火)	久世公民館	読書感想文の審査、県出品作品の決定、文集注文についての説明	28名
反省と課題 真庭支部では、事務局の仕事ブロックごとの持ち回りとしている。今年度は、担当ブロックが変わった年だったため、仕事内容の把握が難しい部分はあったが、ブロック内で担当校(審査会・会計)を分担し、効率的に作業を進めることができた。各校の担当者や読書感想文の出品者名簿はサーバー内のファイルに直接入力してもらうようにし、効率的に事務局業務を行えた。賞状は、データを活用して各学校で印刷してもらっているため、事務局の負担・各校での記名の負担が減っている。					
美作・西粟倉	支部総会・研修会	6月20日(金)	書面開催		
	支部読書感想文審査会・研修会(中学校)	9月11日(木)	美作市立江見小学校	読書感想文審査(中学校の部)	6名
	支部読書感想文審査会・研修会(小学校)	9月16日(火)	美作市立江見小学校	読書感想文審査(小学校の部)	9名
反省と課題 ・支部総会は、昨年度に引き続き書面開催としたが、問題なく年間事業を実施することができた。 ・読書感想文の応募が減少傾向が続いているため、審査会の持ち方も1日開催から午後開催に変更予定である。					
備前	役員会・総会	6月20日(金)	岡山大安寺中等教育学校	(1) 令和6年度事業報告・決算報告について (2) 令和7年度役員案・活動方針・事業計画案・予算案について (3) 役員校、事務局校、読書感想文審査校・研究協議会発表校のローテーションについて	役員会3名 総会27名
	第1回研究会	9月29日(月)	岡山大安寺中等教育学校	(1) 研究発表:「心地よい居場所としての図書館作り」 (発表者:岡山県立東岡山工業高等学校 教諭 石山 奈都子 先生) (2) 講演:「中高生の読書～読む、書く、考える～」 (講師:作家 天川 栄人 先生)	28名
	第1回司書部会研修会(兼合同研修会)	4月25日(金)	岡山県立図書館	(1) 初任者研修(希望者・初任者研修担当者) 10:00～12:30 (2) 合同連絡・県立図書館より連絡 (3) 支部別協議・連絡(令和6年度活動報告・決算報告・令和7年度活動予定・予算案) (4) サポート校交流・学校図書館基本情報アンケートとりまとめ	26名
	第2回司書部会研修会(兼合同研修会)	7月3日(木)	岡山県立図書館	(1) 初任者研修(A)(希望者) 講師:初任担当者・県立図書館職員 10:00～11:30 「夏休み期間にやっておきたいこと～文化祭・イベント・除籍・展示～」 合同研修(B)「みんなでつくる学校図書館～津高図書館の取組を中心に～」 講師:井戸本吉紀氏(三重県立上野高等学校)	25名
	第3回司書部会研修会(兼合同研修会)	12月4日(木)	倉敷商業高等学校	(1) 情報交換会(三支部の参加希望者・出入り自由) 11:30～12:45 (2) 支部別協議・連絡 (3) 合同連絡・県立図書館より連絡 (4) 合同研修(B)「アイデアを形に!図書館活動を企画してみよう」	23名
	第4回司書部会研修会	2月26日(木)	岡山城東高等学校	(1) 協議・連絡 (2) プチ紹介 (3) おすすめ本紹介 (4) 研修「図書館Webサイト「蔵書検索システム(OPAC)」の活用について」	23名
	反省と課題 総会、研究会、司書部会の研修会を予定通り実施しました。課題としては、今後も多くの先生方が研究会に参加できるように日程を調整したり、研究内容も講演会だけではなく先生方がより意見交流ができたりする場となるよう工夫が必要だと感じました。今後も生徒にとって有意義な場を多く提供していけるような図書館活動を継続していきます。				

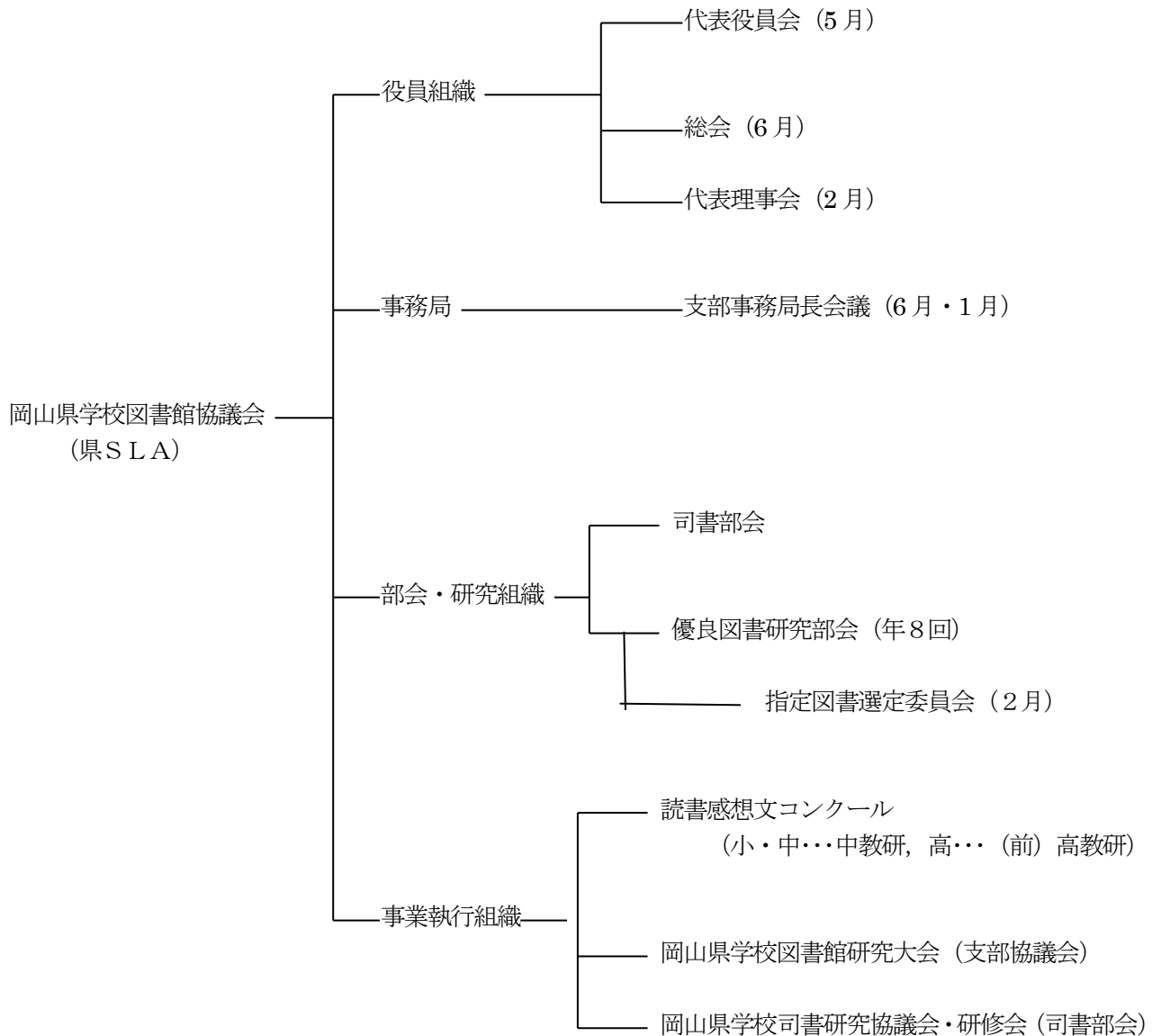
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数	
備中	第1回 司書部会研修会 (兼合同研修会)	4月25日(金)	岡山県立図書館	(1) 初任者研修(希望者のみ)(午前)、合同連絡 (2) 支部協議・連絡 (3) サポート校交流 グーグルチャットでの相談の体制づくり/今年の活動テーマ決定/他	28名	
	第1回役員会	6月20日(金)	倉敷工業高校	(1) 令和6年度事業報告及び会計報告 (2) 令和7年度事業計画(案)及び予算(案) (3) 支部総会・研究協議会について	7名	
	総会	6月20日(金)	倉敷工業高校	(1) 報告事項 ・令和6年度事業報告及び会計報告 ・令和7年度役員紹介 (2) 協議事項 ・令和7年度事業計画(案)及び予算(案)	30名	
	第2回 司書部会研修会 (兼合同研修会)	7月3日(木)	岡山県立図書館	(1) 初任者研修(希望者のみ)(午前)、合同連絡、合同研修 初任者研修「夏休み期間にやっておきたいこと」 合同研修「みんなでつくる学校図書館～津高図書館の取組を中心に～」 (2) 支部協議・連絡	24名	
	第3回 司書部会研修会 (兼合同研修会)	12月4日(木)	倉敷商業高校	(1) 支部研修 ・高教研学校図書館部会研究協議会(令和8年1月26日開催)発表予行 「引越してから学ぶ図書館づくり」(倉敷高校、総社南高校) ・岡山県学校図書館研究協議会(岡山大大会)発表準備 (2) 支部協議・連絡 (3) 合同連絡・合同研修 合同研修「アイデアを形に! 図書館活動を企画してみよう」	22名	
	第2回役員会	2月24日(火)	倉敷工業高校	(1) 令和7年度事業報告及び会計報告 (2) 令和8年度支部総会・研究協議会について	7名	
	第4回 司書部会研修会	2月25日(水)	倉敷南高校	(1) 支部協議・連絡 (2) 支部研修 岡山県学校図書館研究協議会(岡山大大会)発表準備	20名	
	図書委員会交流会	実施せず				
	反省と課題 ○令和6年度から備中支部事務局校が変更になりましたが、6月の役員会、総会及び年間5回の司書部会研修会を何とか無事に実施することができました。 来年度は図書委員会交流会の実施が検討課題です。					
	美作	第1回司書部会研修会(美作支部)	4月25日(金)	岡山県立図書館	令和7年度活動計画 協議連絡(令和7年度県SLA大会他)、サポート校交流	9名
県SLA大会第1回支部打合せ		5月8日(木)	津山高校	スケジュール確認、役割分担等	9名	
第1回美作支部役員会・総会		5月12日(月)	津山高校	令和6年度事業報告、令和6年度会計決算報告 協議連絡(令和7年度事業計画案、令和7年度予算案、令和7年度美作地区委員会交流会案)	役員会7名 総会11名	
県SLA大会第2回支部打合せ		6月17日(火)	津山高校	スケジュール確認、役割分担、会場設営・機材等準備について	9名	
第2回司書部会研修会		7月3日(木)	岡山県立図書館	合同研修「みんなでつくる学校図書館～津高図書館の取組を中心に～」 協議連絡(令和7年度県SLA大会)、サポート校交流	9名	
県SLA大会第3回支部打合せ		7月9日(水)	津山高校	スケジュール確認、役割分担、会場設営・機材等準備について	9名	
第2回美作支部役員会(美作支部)		7月10日(木)	津山高校	協議連絡(第2回研究協議会の研修内容、第15回美作地区高校生読後感想文コンクール)	7名	
県SLA大会リハーサル		7月22日(火)	津山高校	オンライン接続テスト、リハーサル	9名	
県SLA大会(当日)		7月30日(水)	津山高校	会場設営、オンライン大会開催、片付け等	9名	
第3回司書部会研修会(美作支部)		12月4日(木)	倉敷商業高校	協議連絡(美作地区図書委員会交流会について、津山市立図書館展示、第4回研修、令和7年度県SLA大会総括) 合同研修「アイデアを形に! 図書館活動を企画してみよう」	7名	
第15回美作地区高校生読後感想文コンクール表彰式		12月11日(木)	津山高校	担当校講評、美作地区高校生読後感想文コンクール表彰、最優秀賞生徒による受賞の言葉	生徒6名 教員11名	
第2回美作支部総会・研究協議会		12月11日(木)	津山高校	協議連絡(令和8年度事業計画案、令和8年度図書委員会流会、第16回美作地区高校生読後感想文コンクール) 研修・講演「事例で考える『人と本をつなぐ学校図書館』、参加者との交流 講師 久戸瀬瑞季先生(岡山県立図書館)	11名	
図書委員会交流会		12月25日(木)	津山工業高校	グループワーク:アイスブレイク(自己紹介ゲーム・脳内グラフ)・ブックトーク・図書館クイズ・フリートーク	生徒20名 教員13名	
第4回司書部会研修会(美作支部)		2月12日(木)	津山工業高校	協議連絡(令和7年度活動総括、令和8年度活動計画、令和8年度図書委員会交流会、各校の取組紹介)	7名	
反省と課題 ①図書委員会交流会:グループワークにて、自己紹介ゲーム(脳内グラフ)・各自持参したおすすめ本とPOPを使ったブックトーク・図書館クイズ・フリートークを行った。今回はブックトークを、グループ替えをして2回行ったので、生徒からはたくさん交流できて楽しかったとの感想が多く寄せられた。教職員からは、生徒が好きなことを生き生きと発表している姿がよかったとの声も寄せられた。また、開催時期が年末近くになったため、生徒が参加しづらかったとの意見もあったので、来年度は8月上旬の開催で検討したい。委員会交流会で作成した各校生徒の本のPOPは、後日、津山市立図書館での展示に活用した。 ②支部会研修会:今年度の研修会は、岡山県立図書館から九戸瀬瑞季氏を講師としてお招きし、講演会を実施した。講演会では、生徒の気持ちを図書館に向けさせるために、どのような取組や工夫ができるのか、全国の実践例や先生ご自身の経験から様々な対応策をご紹介いただいた。高校生の読書体験や学習活動をサポートしていくために、魅力のある図書館をどのように作っていくことができるのかについて改めて考える貴重な機会となった。						

岡山県学校図書館協議会組織図

1. 構成組織



2. 組織図



岡山県学校図書館協議会規約

第1条 本会は、岡山県学校図書館協議会という。

第2条 本会は、事務局を会長在任の学校内におく。

第3条 本会は、県下小・中・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実、発展をはかり、本県教育の推進に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 県下学校図書館相互の連絡提携、情報交換
- (2) 学校図書館運営に関する研究会、講習会、展示会等の開催。
- (3) 学校図書館教育の研究
- (4) 読書指導の研究
- (5) 学校司書の研修と身分待遇の改善
- (6) 絵本・優良図書の研究
- (7) その他

2. 第1項(2)の事業の推進、及び(3)(4)の事業の援助を行うため、研究部会を設ける。

研究部会は、特に必要のない場合、適宜活動を休止することができる。

3. 第1項(5)の事業を行うため、司書部会を設ける。司書部会関することは、別に規定を定める。

4. 第1項(6)の事業を行うため、絵本研究部会、優良図書研究部会、ニューメディア研究部会、読書ノート研究部会を設ける。それぞれの部会で必要な規定は、別に定める。

第5条 本会は、岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部（以下「小教研」と略す）・岡山県中学校教育研究会学校図書館部会（以下「中教研」と略す）・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会（以下「高教研」と略す）によって構成する。

第6条 本会加入の小・中学校においては郡市ごとに、高等学校においては地区（備前・備中・美作）ごとに、支部協議会を設ける。

2. 支部協議会に会長を置く。また、必要に応じて副会長を置くことができる。

3. 支部協議会に支部事務局を設け、支部事務局長を置く。

4. 本会は、年に数回、支部事務局長会議を開催し、必要な書類の配布、事務連絡事項の伝達を行う。

5. その他、支部協議会に関する規定は、各支部協議会で適宜決める。

第7条 本会は、社団法人全国学校図書館協議会の賛助会員となる。

2. 本会の会長及び事務局長は、社団法人全国学校図書館協議会の正会員となる。

第8条 本会に次の役員を置き、任期は2カ年とする。ただし再任を妨げない。また、補欠役員の任期は、前任者の残留期間とする。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 代表理事
- (4) 理事
- (5) 監事

2. 役員の選出は次のとおりとする。

(1) 会長は、高等学校長の中から選出される。

(2) 副会長は、会長にならなかった小教研情報教育部会副部長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部長をもって充てる。

(3) 代表理事は、小教研情報教育部会副部長（学校図書館部担当）・常任理事（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部長・副部長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

(4) 理事は、代表理事及び各支部協議会の会長・副会長をもって充てる。

(5) 監事は、原則として事務局校の所在する支部内で、小教研・中教研から1名、高教研から1名選出する。

3. 本会の最小限の役員組織として、代表役員会を設ける。代表役員は、小教研情報教育部会副部長（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

4. 以上の役員については、年度当初の新旧代表役員会で選出され、総会において承認を得るものとする。但し、代表理事については、総会において決定・承認されるものとする。

第9条 役員の任務は次のとおりとする。

(1) 会長は、会を代表し会務を総括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは会務を代理する。

(3) 代表理事は、会務の重要事項を協議し決定する。

また、代表役員会で仮決定した事項について協議し、決定する。

(4) 理事は、会務全般について協議し、代表理事会での決定を承認する。また、年度当初に新旧代表役員会で仮決定した事項を決定する。

(5) 監事は、会計を監査する。

(6) 代表役員は、本会の最小限の役員組織として、緊急を要する事項について協議し、仮決定する。年度当初に開催する新旧代表役員会では、役員の選出等重要事項を仮決定する。

第10条 本会の、総会・代表理事会・代表役員会は毎年1回以上開催する。総会は、理事会をもってこれに代えることができる。

第11条 事務局には、事務局長、事務局次長、参事、事務職員等をおき、会務を処理する。

第12条 本会は、役員会の推薦により顧問・参与・賛助員を置くことができる。

第13条 本会の経費は、構成団体の拠出金・寄付金をもってあてる。

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(規約施行は昭和25年から[推定])

… (中略) …

平成 8年 6月 4日 一部改正

平成11年 6月 3日 一部改正

平成14年 5月30日 一部改正

平成17年 6月 2日 一部改正

令和 6年 6月 6日 一部改正

岡山県学校図書館協議会司書部会会則

第1条 この部会は、岡山県学校図書館協議会規約第4条に基づいて設けられ、岡山県学校図書館協議会司書部会と称する。

第2条 この部会の事務局は、岡山県学校図書館協議会司書部会長在任の学校内におく。

第3条 この部会は、岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし、学校図書館の充実と発展に資することを目的とする。

第4条 この部会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 「研究協議会」と「研修会」の計画立案・開催と参加
- (2) 各地域で行われる学校図書館研修会に対する情報提供や意見交流
- (3) 優れた実践の掘り起こしと、研究実践を広めるための活動
- (4) 学校司書の配置増と安定した雇用の確立のための活動

第5条 この部会は、岡山県下の小・中・高等学校図書館に勤務する学校司書及びこれに準ずる者を会員として構成する。

第6条 この部会は、次の役員をおく。

- (1) 部会長 1名
部会を代表し、部会の運営にあたる。また、会計事務も担当する。
- (2) 副部会長 若干名
部会長を補佐し、部会長に事故のあるときにはこれに代わる。
- (3) 理事 若干名
理事会を構成し、会務の重要事項を審議する。また、地区を代表して、部会との連絡と地区の運営にあたる。
- (4) 監事 2名
会計事務を監査し、総会に報告する。

第7条 役員は、次の方法によって定める。

- (1) 役員は、総会において選出する。任期途中において退任のときは部会長が理事にはからって補充し、総会の承認を得る。
- (2) 部会長は、会員全体の中から選出する。
- (3) 副部会長は、校種別、地区別に選出する。
- (4) 理事は、校種別、地区別に選出する。
- (5) 監事は、原則として理事経験者の中から選出する。

第8条 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。欠員によって補充された役員の任期は、前役員の残任期間とする。

第9条 この部会は、年1回総会を開催する。開催が困難な場合には、会員の出席に替わる方法として臨時理事会兼総会を開催することができる。なお、理事会が必要と認めた場合、又は会員の3分の1以上から請求のあった時は、臨時総会を開催しなければならない。

2. 総会は、会員の過半数の出席（オンラインによる出席・出席者に議決を委任した会員を含む）をもって成立する。議事は出席者の過半数で決するものとする。
3. 総会に附議しなければならない事項は次のとおりとする。
 - ① 会則の改正
 - ② 役員を選出
 - ③ 事業計画並びに事業報告
 - ④ 予算案並びに決算の承認
 - ⑤ その他重要な事項

第10条 この部会は年3回理事会を開催する。なお、理事会の3分の1以上から請求のあった時は、臨時理事会を開催しなければならない。

2. 理事会は、役員の過半数の出席をもって成立する。
3. 理事会では、各地区の情勢報告・研修報告などの情報交換を行うほか、総会の運営に関する事項、総会に附議する議題、研究協議会・研修会に関する事項等、司書部会に関する重要な事項を審議する。
4. 理事会は、次の事項について決議することができる。緊急を要する場合で会議開催が不可能な場合は、文書持ち回りにより決議を行う。ただし、これらの決定については、次の総会において承認を得なければならない。
 - ① 役員の補充
 - ② その他司書部会として緊急に決定が必要な事項

第11条 本会の経費は、会費・助成金及びその他の収入をもって充てる。ただし、当分の間会費は徴収しない。なお、研修に要する実費は、そのつど徴収することができる。

2. 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

本会則は、昭和50年4月1日から施行する。

平成15年7月24日 一部改正

平成18年7月26日 一部改正

令和4年7月28日 一部改正

令和6年7月25日 一部改正

岡山県学校図書館協議会 75年の歩み（略年表）

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会長	副会長
1950	昭和25		(1) 東京				県SLA発足	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1951	26		(2) 京都					尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1952	27		(3) 小田原			総会 久米井 東	「岡山学校図書館」 創刊9月20日付	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1953	28		(4) 大分			総会 坂本 一郎	司書講習 (岡山大学)	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1954	29		(5) 仙台			総会 尾野作次郎	司書教諭講習 (大阪学芸大学) 9名参加	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 神崎 水島 進 (弓削中)
1955	30		(6) 徳島		(1) 西大寺, 倉敷, 津山	松尾弥太郎	学校図書館法施行	尾野作次郎 (操山)	
1956	31		(7) 宇都宮		(2) 岡山, 倉敷, 津山	佐野 友彦		内藤 一人 (操山)	
1957	32		(8) 札幌		(3) 岡山	松尾, 佐野 鈴木, 芦谷		内藤 一人 (操山)	
1958	33		(9) 岡山		(4) 岡山	深川 恒喜		内藤 一人 (操山)	
1959	34		(10) 東京	(1) 萩	(5) 和気, 吉備, 英田	白井 吉見 佐野 友彦	司書教諭講習 (岡山大学) 10周年	内藤 一人 (操山)	
1960	35		(11) 大阪		(6) 児島, 笠岡, 苫田	鈴木 英二		内藤 一人 (操山)	高祖 忠直 室山 三義 三谷 堅 (津一)
1961	36		(12) 新潟	(2) 広島	(7) 赤鷲, 上房, 久米	松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	高祖 忠直 (深 柵) 室山 三義 (倉 東) 宮野辰右衛門
1962	37		(13) 松山		(8) 岡山	裏田 武夫		内藤 一人 (操山)	
1963	38			(3) 松江	(9) 玉野, 井原, 真庭	鈴木 英二 松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	柴部 武士 宮野辰右衛門 (岡北) 井上弥太郎
1964	39		(14) 成田		(10) 御津, 浅口, 勝山 (奈義)	佐野 友彦		内藤 一人 (操山)	三島 一夫 (深 柵) 神原 利一 (桑 田) 川部 濟
1965	40	2号		(4) 倉吉	(11) 児島, 新見, 阿哲, 英田	松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	
1966	41	3号	(15) 鹿児島		(12) 津山	松尾弥太郎		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柵) 神原 利一 (桑 田)
1967	42	4号		(5) 津山	(13) 津山	木村 毅		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柵) 神原 利一 (桑 田)
1968	43	5号	(16) 名古屋		(14) 矢掛	野地 潤家		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柵) 梶原良太郎 (岡北)
1969	44	6号		(6) 防府	(15) 岡山	相島 敏夫	20周年	板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1970	45	7号	(17) 山形		(16) 成羽			板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1971	46	8号		(7) 大竹	(17) 津山	岩田 斉		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (財 田) 広江 利夫 (操 南)
1972	47	9号	(18) 兵庫		(18) 玉野	芦谷 清		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 広江 利夫 (丸之内)
1973	48	10号		(8) 出雲	(19) 邑久	石森 延男		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1974	49	11号	(19) 東京		(20) 北房	谷川 徹三		金谷 達夫 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1975	50	12号		(9) 鳥取	(21) 苫田	滑川 道夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 坪井 隆二 (石井中)
1976	51	13号	(20) 岐阜		(22) 倉敷	戸川 幸夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)
1977	52	14号		(10) 倉敷	(23) 倉敷	外山滋比古		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞						
	大原 利貞						
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛					
岩本 俊一 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
竹内亥三美	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞					(1) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞					(2) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(3) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(4) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(5) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞	藤森 賢一				(6) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
	大熊 圭祐	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 竹内 虎男	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	神原 利一 川合 四良	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	梶原良太郎 未平 雅夫	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 相谷 道夫	板谷 二郎 横田 恭治		
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 吉富 進	板谷 二郎 横田 恭治	(1) 岡 山	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 高田 哲夫	(2) 玉 野	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 田口 重俊	(3) 倉 敷	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	堤 護	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	桐野 事雄 田口 重俊	(4) 津 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 田口 重俊	(5) 岡 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 河村 金二	(6) 玉 野	安原 みどり
須和田秀一 山崎 蕃	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 相谷 道男	金谷 達夫 徳永 優	(7) 倉 敷	片山 峰子
須和田秀一 藤原 康宏	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 未平 雅夫	金谷 達夫 徳永 優	(8) 津 山	片山 峰子

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会長	副会長
1978	昭和53	15号	(21)佐賀		(24)瀬戸	三木卓	表彰式(感想文)	村井董直(芳泉)	赤木庚(妹尾小) 松本猛(京山中)
1979	54	16号		(11)下関	(25)岡山	金田春彦	30周年	村井董直(芳泉)	新井正志(枚石小) 森安萌(旭中)
1980	55	17号	(22)盛岡		(26)新見	松島栄一		宮脇律(芳泉)	石井汎(芳泉小) 森安萌(旭中)
1981	56	18号		(12)広島	(27)久米	斉藤実		宮脇律(芳泉)	石井汎(芳泉小) 森安萌(旭中)
1982	57	19号	(23)伊勢		(28)和気	灰谷健次郎		宮脇律(芳泉)	野上賢二(竜之口小) 森安萌(旭中)
1983	58	20号		(13)浜田	(29)総社	松谷みよ子		宮脇律(芳泉)	野上賢二(竜之口小) 森安萌(福南中)
1984	59	21号	(24)山口		(30)高梁	高木敏子		宮脇律(芳泉)	渡辺武士(庄内小) 森安萌(福南中)
1985	60	22号		(14)高梁	(31)高梁(兼中国)	松山善三		榎野昭輝(芳泉)	渡辺武士(庄内小) 黒住郁雄(足守中)
1986	61	23号	(25)那覇		(32)真庭	倉本聡		西田譲(一宮)	森川鐵也(馬屋上小) 村田重臣(石井中)
1987	62	24号		(15)米子	(33)笠岡	宮城まり子		西田譲(一宮)	古川正治(加茂小) 岡島将(興隆中)
1988	63	25号	(26)札幌		(34)備前	矢口高雄		杉山定雄(一宮)	田代尚夫(平島小) 岡島将(興隆中)
1989	平成元	26号		(16)宇部	(35)岡山	河合雅雄	40周年	幾田尚(西大寺)	長安早智子(芳泉小) 岡島将(福南中)
1990	2	27号	(27)松江		(36)新見	柴田一		幾田尚(西大寺)	森谷浩平(野谷小) 岡島将(福南中)
1991	3	28号		(17)広島	(37)勝田	岩崎京子	第11回学校司書全国研究集会(於岡山)	坪井克己(西大寺)	森谷浩平(野谷小) 岡島将(福南中)
1992	4	29号	(28)福岡		(38)倉敷	福田襄之介		皆木徹典(和気閑谷)	森谷浩平(野谷小) 大月要(丸之内中)
1993	5	30号		(18)益田	(39)御津	宮地暢夫		皆木徹典(和気閑谷)	長崎幡子(加茂小) 平田嬉世子(中山中)
1994	6	31号	(29)秋田		(40)川上	富永一朗		中野宏(倉敷古城地)	瀬戸川宏(宇野小) 白神幸世(京山中)
1995	7	32号		(19)鳥取				中野宏(倉敷古城地)	瀬戸川宏(宇野小) 赤木久児(藤田中)
1996	8	33号	(30)埼玉		(41)英田	あさのあつこ		中野宏(倉敷古城地)	亀高嘉彦(深砥小) 赤木久児(藤田中)
1997	9	34号		(20)岡山	(42)総社真備(兼中国)	阿刀田高		大山晋右(倉敷古城地)	亀高嘉彦(深砥小) 赤木久児(藤田中)
1998	10	35号	(31)金沢					鴨頭脩(倉敷青陵)	菱川成雄(高島小) 香川璋子(高松中)
1999	11	36号		(21)岩国	(43)岡山	塩見昇	50周年	鴨頭脩(倉敷青陵)	菱川成雄(高島小) 香川璋子(高松中)
2000	12	37号	(32)奈良		(44)新見・阿哲	灰谷健次郎		川井章三郎(倉敷南)	菱川成雄(城東台小) 香川璋子(高松中)
2001	13	38号		(22)広島				山根健(倉敷南)	菱川成雄(城東台小) 綿谷佳男(灘崎中)
2002	14	39号	(33)横浜		(45)津山	後藤竜二		大嶋俊宣(倉敷天城)	料治育子(伊島小) 綿谷佳男(灘崎中)
2003	15	40号		(23)出雲				大嶋俊宣(倉敷天城)	料治育子(伊島小) 綿谷佳男(福南中)
2004	16	41号	(34)ひろくさ		(46)井原後月	佐々木正美		高槻健(倉敷古城地)	坪井由紀子(政田小) 綿谷佳男(福南中)
2005	17	42号		(24)倉吉				高槻健(倉敷古城地)	坪井由紀子(政田小) 綿谷佳男(福南中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	赤木 庚 山名 徳則	森安 萌 相谷 道男	村井 董直 岡 博	(9) 岡 山	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	新井 正志 三宅 敏文	森安 萌 相谷 道男	村井 董直 岡 博	(10) 玉 野	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律博 岡 博	(11) 倉 敷	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律博 大熊 圭祐	(12) 津 山	片山 峰子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律博 大熊 圭祐	(13) 岡 山	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律博 大熊 圭祐	(14) 玉 野	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	渡辺 武士 福岡トキコ	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律博 山吹 堯敏	(15) 倉 敷	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	山吹 堯敏	渡辺 武士 福岡トキコ	黒住 有雄 瀬戸川 宏	横野 昭輝 山吹 堯敏	(16) 津 山	守屋千冬子
岸田 崇	萩原 一之	佐伯 誠一	森川 鐵也 福岡トキコ	村田 重臣 白河左江子	西田 讓亮 服部 亮介	(17) 岡 山	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	藤本 善三	古川 正治 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	西田 讓亮 服部 亮介	(18) 玉 野	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	竹井 千庫	田代 尚夫 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	杉山 定雄 服部 亮介	(19) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	門野 茂蔵	田中 修二	長安早智子 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚昇 川原 昇	(20) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	波多野研爾	田中 修二	森谷 浩平 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚昇 川原 昇	(21) 岡 山	青江 暉子
広本 勝裕	田中 修二	石井 寛子	森谷 浩平 松浦 順子	岡島 将 坪井 敬也	坪井 克己 八木 和一	(22) 玉 野	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	阪田 俊介	森谷 浩平 岡崎 明宏	大月 要 坪井 敬也	皆木 徹典 若狭 真司	(23) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	後藤 信介	長崎 幡子 島田 保弘	平田嬉世子 岡田 敏雄	皆木 徹典 若狭 真司	(24) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	国富 浩二	畝岡 睦美	瀬戸川 宏 石川真佐代	白神 幸昌 岡田 敏雄 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(25) 岡 山	守屋千冬子
広本 勝裕	田辺 宏海	国富 浩二	瀬戸川 宏 石川真佐代	赤木 久児 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(26) 玉 野	守屋千冬子
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久児 門田 正充 利守 雅行	中野 宏 佐守 謙一	(27) 倉 敷	佐藤 菊江
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久児 門田 正充 利守 雅行	大山 晋右 佐守 謙一	(28) 津 山	佐藤 菊江
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩篤 森本 篤	(29) 岡 山	小野 暁子
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩篤 森本 篤	(30) 玉 野	小野 暁子
桑木 一郎	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 利守 雅行 原 清行	川井 章三郎 尾崎 寛子	(31) 倉 敷	小野 暁子 鹿野 恵子
大滝 一登	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	綿谷 佳男 利守 雅行 原 清行	山根 健直 細川 直子	(32) 津 山	鹿野 恵子
大滝 一登	有松 幹雄	行藤 潔	料治 育子 原野おり	綿谷 佳男 利守 雅行 海野 行晴	大嶋 俊宣 三宅 博己	(33) 岡 山	鹿野 恵子 岡本信二郎
大滝 一登	三宅 博己	深見 啓行	料治 育子 高橋おり	綿谷 佳男 海野 行晴 利守 雅行	大嶋 俊宣 深見 啓行	(34) 玉 野	岡本信二郎
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	(35) 倉 敷	岡本信二郎 宇原 郁世
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	研修会(倉敷)	宇原 郁世

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会長	副会長
2006	18	43号	(35)郡山					山下 滋 (倉敷青陵)	岡本 利和 (御南中) 竹内 裕子 (可知小)
2007	19	44号		(25)岡山	(47)岡山	高畑 勲		永井 裕 (倉敷青陵)	河本 雅明 (建部中) 竹内 裕子 (可知小)
2008	20	45号	(36)熊本					高木二三男 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2009	21	46号		(26)下関	(48)鏡野	今江 祥智		赤木 圭介 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2010	22	47号	(37)静岡					坂江 誠 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2011	23	48号		(27)広島	(49)矢掛	赤木かみ子		岡野 貴司 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2012	24	49号	(38)米子					中桐 哲則 (玉島)	山本 健五 (御津中) 服部由利子 (古都小)
2013	25	50号		(28)浜田	(50)吉備中央	田澤 雄作		國府島貞司 (玉島)	大川 泰栄 (上道中) 服部由利子 (東壽小)
2014	26	51号	(39)甲府					藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2015	27	52号		(29)倉敷	(51)倉敷	小嶋 光信		藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2016	28	53号	(40)神戸					福田 邦男 (倉敷天城)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2017	29	54号		(30)米子	(52)津山	平田オリザ		福田 邦男 (倉敷天城)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2018	30	55号	(41)富山高岡					土家 横夫 (倉敷青陵)	山本 義人 (千種小) 藤井 隆 (高松中)
2019	1	56号		(31)山口	(53)岡山	村中 李衣		高槻 信博 (倉敷青陵)	山本 義人 (千種小) 水畑 法生 (岡北中)
2020	2	57号	(42)高松 誌上開催					鳥越 信行 (倉敷南)	森 淳 (岡南小) 青木 伸晃 (操南中)
2021	3	58号		(32)広島	(54)真庭 誌上開催	湯澤 美紀		鳥越 信行 (倉敷南)	森 淳 (岡南小) 青木 伸晃 (操南中)
2022	4	59号	(43)オンライン 開催					藤井 省吾 (倉敷天城)	松原 弘 (高島小) 中田 隆宏 (妹尾中)
2023	5	60号		(33)益田	(55)高梁新見	益井 博史		藤井 省吾 (倉敷天城)	藤原 陽子 (高島小) 川原 悦子 (光南台中)
2024	6	61号	(44)高松					森田 保志 (玉島)	野崎 尚子 (灘崎小) 川原 悦子 (光南台中) 藤井 省吾 (倉敷天城)
2025	7	62号		(34)鳥取	(56)勝央	湯澤 美紀		森田 保志 (玉島)	野崎 尚子 (灘崎小) 川原 悦子 (光南台中) 藤井 省吾 (倉敷天城)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
大滝 一登 高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	岡本 利和 利守 雅人 有友 雅人	山下 滋 井上 裕子	(36) 岡 山	景山 美香 坂口 桂藏
高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	河本 雅明 利守 雅人 有友 雅人	永井 裕 井上 裕子	研修会 (津山)	坂口 桂藏
高尾 敏也 武田 祥江	志部 雄介	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅人	高木 二三男 藤田 京子	(37) 倉 敷	坂口 桂藏 池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	永山 整	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅人	赤木 圭介 藤田 京子	研修会 (玉野)	池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅人	坂江 誠 小野 恭子	(38) 岡 山	池田 桂子 二宮野陽子
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅人	岡野 貴司 小野 恭子	研修会 (岡山)	二宮野陽子
乙倉 寛 石本康一郎	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅人	中桐 哲則 尾崎 寛子	(39) 倉 敷	二宮野陽子 米倉 弥生
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	大川 泰栄 宗實 利子 利守 雅人	國府島 貞司 尾崎 寛子	研修会 (津山)	米倉 弥生
辻田 詔子 須藤由美江	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 岡田恵利子 利守 雅人	藤井 健平 柳井 典子	(40) 岡 山	米倉 弥生 原 弘江
森川 悟 新田 治彦	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 永守 志帆 金田 益美	藤井 健平 柳井 典子	研修会 (玉野)	原 弘江
岡本 里香 三宅 健夫	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 永守 志帆 金田 益美	福田 邦男 児島 真理子	(41) 倉 敷	原 弘江 西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 仁科 恵子 佐伯 詩帆	福田 邦男 太田 淳	研修会 (倉敷)	西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	王尾 宏造	(なし)	山本 義人 太田 淑子 酒本 薫	藤井 隆 仁科 恵子 佐伯 詩帆	土家 横夫 大口 千恵子	(42) 岡 山	西村 百代 成本 由貴
丹原 知哉 江尻 寛正	王尾 宏造	(なし)	山本 義人 太田 淑子 酒本 薫	水畑 法生 笹野 恭代 海野 行晴	高槻 信博 大口 千恵子	研修会 (岡山)	成本 由貴
丹原 知哉 江尻 寛正	平松 玲子	(なし)	森 淳 早川 夕加里 武田 綾子	青木 伸晃 笹野 恭代 海野 行晴	鳥越 信行 高橋 綾美	(43) 倉 敷	成本 由貴 大橋 昭子
大塚 崇史 後藤 直之	平松 玲子	(なし)	森 淳 早川 夕加里 武田 綾子	青木 伸晃 池田 麻子 湯浅 憲一	鳥越 信行 高橋 綾美	研修会 (津山)	大橋 昭子
大塚 崇史 大賀 俊彦	坂井 昌子	(なし)	松原 弘 古田 彩歌 本間 早紀 副島 佳成子	中田 隆宏 池田 麻子 湯浅 憲一	藤井 省吾 小野 貴子	(44) 岡 山	大橋 昭子 大西 結美
大塚 崇史 田中 雅輝	坂井 昌子	(なし)	藤原 陽子 高角 彩歌 副島 佳成子	川原 悦子 門田 琴音 田中 杏佳	藤井 省吾 小野 貴子	研修会 (玉野)	大西 結美
大塚 崇史 難波 朋美	武部 和範	(なし)	野崎 尚子 藤田 雪絵 黒石 浩史	川原 悦子 門田 琴音 田中 杏佳	藤井 省吾 坂井 昌子	(45) 倉 敷	大西 結美 井上 真紀子
大塚 崇史 小郷 善弘	武部 和範	(なし)	野崎 尚子 藤田 雪絵 黒石 浩史	川原 悦子 佐藤 恵作 榎崎 亮	藤井 省吾 坂井 昌子	研修会 (美作)	井上 真紀子

岡山県学校図書館研究集録（第 62 号）

発 行 日 2026 年 3 月 31 日

発 行 所 岡山県学校図書館協議会事務局
〒713-8121
岡山県倉敷市玉島阿賀崎 3-1-1
岡山県立玉島高等学校内
TEL (086)522-2972

発行責任者 岡山県学校図書館協議会会長
森田 保志